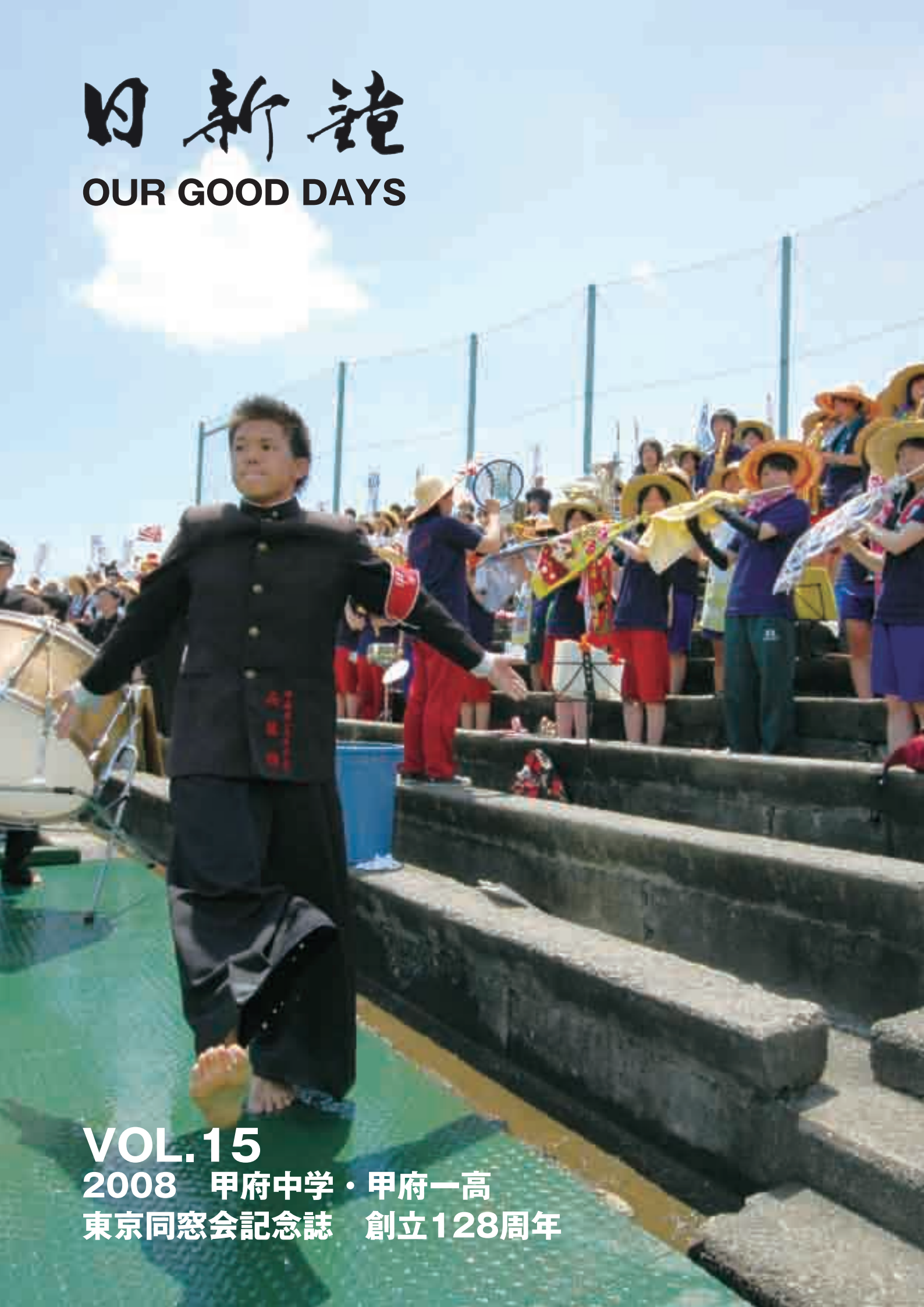
日新誌

OUR GOOD DAYS



VOL.15

2008　甲府中学・甲府一高

東京同窓会記念誌　創立128周年

Innovative Spirit
Geared for Growth

東京エレクトロングループは、半導体製造装置およびフラットパネルディスプレイ製造装置のリーディングサプライヤーとして、幅広い製品分野の開発・製造・販売を行っています。また、これらの製品の多くは世界市場で高いシェアを獲得しています。
東京エレクトロングループは、今後もIT時代を根底から支え、皆様の豊かな未来の実現に向けて取り組んでまいります。

東京エレクトロン AT株式会社

COGNEX

Cognex is the Machine Vision Leader that Industry Relies on

マシンビジョン業界をリードする ―――― コグネックス

コグネックス株式会社 資料のご請求、お問い合わせは右記Webサイトまたは、TEL：03-5977-5409まで

www.cognex.co.jp

あれから何年たったのだろう

やわらかなひざしあふれる校庭に
つどいあった笑顔たち
休み時間だけは元気だったり、
のべつ汗と泥にまみれていたり
議論するととまらなかったり

希望に溢れていたくせに
ちょっとしたことで落ち込んで
すねたりいじけたり
開きなおって威張ってみたり
・・・結構めちゃくちゃだったね

ごめんが言えなくて
いつまでも立ち尽していたっけ
へこんでいるときに
わざとおどけて笑わせてくれたっけ
肩におかれた手のぬくもりに
心動かされ
好きなうたを一緒に歌って
いつまでも語り合って
別れがつらかった

ありがとう、みんな
・・・みんな、大好きだった
・・・あそこから
ぼくたちは来たんだ

著作権法によりＷＥＢ掲載版では削除しました

著作権法によりＷＥＢ掲載版では削除しました

「日新鐘」に寄せて

東京同窓会会長　井上幸彦
（昭三一卒）

昨年の東京同窓会は、例年より時間を繰り上げて、土曜日の午後三時総会、四時懇親会開始としたところ、六百名になんなんとする参加者を数え大盛況であった。

取分け、山梨から、ＮＨＫニュースで百歳を記念して一高で古典授業を行ったとして紹介された堀内信行先生が、お元気な姿を見せてくれたことは喜ばしい限りであった。先生の張りのある大きな声、話す内容の確かさに圧倒され、改めて大きなパワーを頂戴したような思いを強くしたものだ。

今年の同窓会のテーマは、OUR GOOD DAYSということだ。

各々の来し方を振り返るとき、少年時代のGOOD DAYSが胸に熱く思い出されることであろう。

一高に学んだ者として、GOOD DAYSの象徴的なイベントは、何といっても強行遠足ではなかろうか。連綿として受け継がれて来た強行遠足は、交通事情等により改変を余儀なくされながらも一高卒業生のOUR GOOD DAYSのインパクトある一齣として、又一高生のアイデンティティとして語り継がれて行くであろう。

先輩と後輩が触れ合う今日のこの日が、参加者各人のGOOD DAYとなることを念じつつ。

ごあいさつ

甲府第一高等学校校長　新津　元
（昭四二卒）

平成二十年度甲府中学校・甲府第一高等学校東京同窓会が盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げます。また、東京同窓会の皆様には、日頃から母校愛に溢れた物心両面にわたる御支援と御協力を賜り厚く感謝申し上げます。

さて、全県一区による高校入試二年目にあたる今年、学校では二学期制や五五分授業また土曜日の活用などを通し、教職員全員が気持を一つにして、一高を希望して入学してくる生徒の進路実現に向けて取り組んでいるところです。

強行遠足につきましては、今年から男子のみ距離を約二〇キロ延長して小海までの約七五キロとします。夜間歩行となり、本来の強行遠足の意味に近づく行事となると思いますが、安全には十分配慮して事故のないように取り組む所存です。

今後ともBoys, be ambitious!やBe gentleman!といった、一高に脈々として受け継がれている伝統精神を根底に、暖かさの中にも厳しさを持った指導をしてまいりたいと思います。

東京同窓生会の皆様には、どうぞ変わらぬ御支援と御協力をよろしくお願い申し上げます。

東京同窓会を新たなGOOD DAYに

平成二〇年度幹事長　設楽久敬
（昭四五卒）

二〇〇八年甲府中学・甲府一高東京同窓会に出席いただいた皆様、この「日新鐘」に広告の協賛及び記事投稿・写真提供などしていただきました皆様に幹事一同心からお礼申し上げます。

さて、今年のテーマはOUR GOOD DAYSです。時を超え地域を越えて出会うGOOD DAYSは皆様の中に必ずやあるはずです。同窓会はそんな日々を呼び起こしてくれる絶好の機会です。テーマは過去だけに焦点をあてるのではなく未来に続く良き日々を模索しています。様々な体験談を盛り込みましたが、そのどれかは自分の未来かもしれません。

そんなテーマを私たち昭和四五年卒業の幹事全員が思い描いて準備をしてまいりました。本日は、現役大学生によるジャズスタンダードナンバーの演奏で彼らの若いエネルギーとともに心の片隅に残る今はGOOD DAYSとなっているであろう懐かしい思い出、あるいはテレビで放映された強行遠足の映写を見て、脚の痛みや夜気で痛めた喉の痛み、蜆汁のおいしかったこと等を思い出していただきます。

今日の同窓会が新たなGOOD DAYになるよう幹事一同心から願っております。また、次世代の後輩達にこの良き会を続けていってほしいと願ってやみません。

2008　甲府中学・甲府一高東京同窓会

記念誌

日新誌

OUR GOOD DAYS

CONTENTS

巻頭特集
強行遠足の今日と未来 …… 6
　それぞれの強行遠足
　座談会：強行遠足がんばる意味
　強行遠足の意義とOB大会

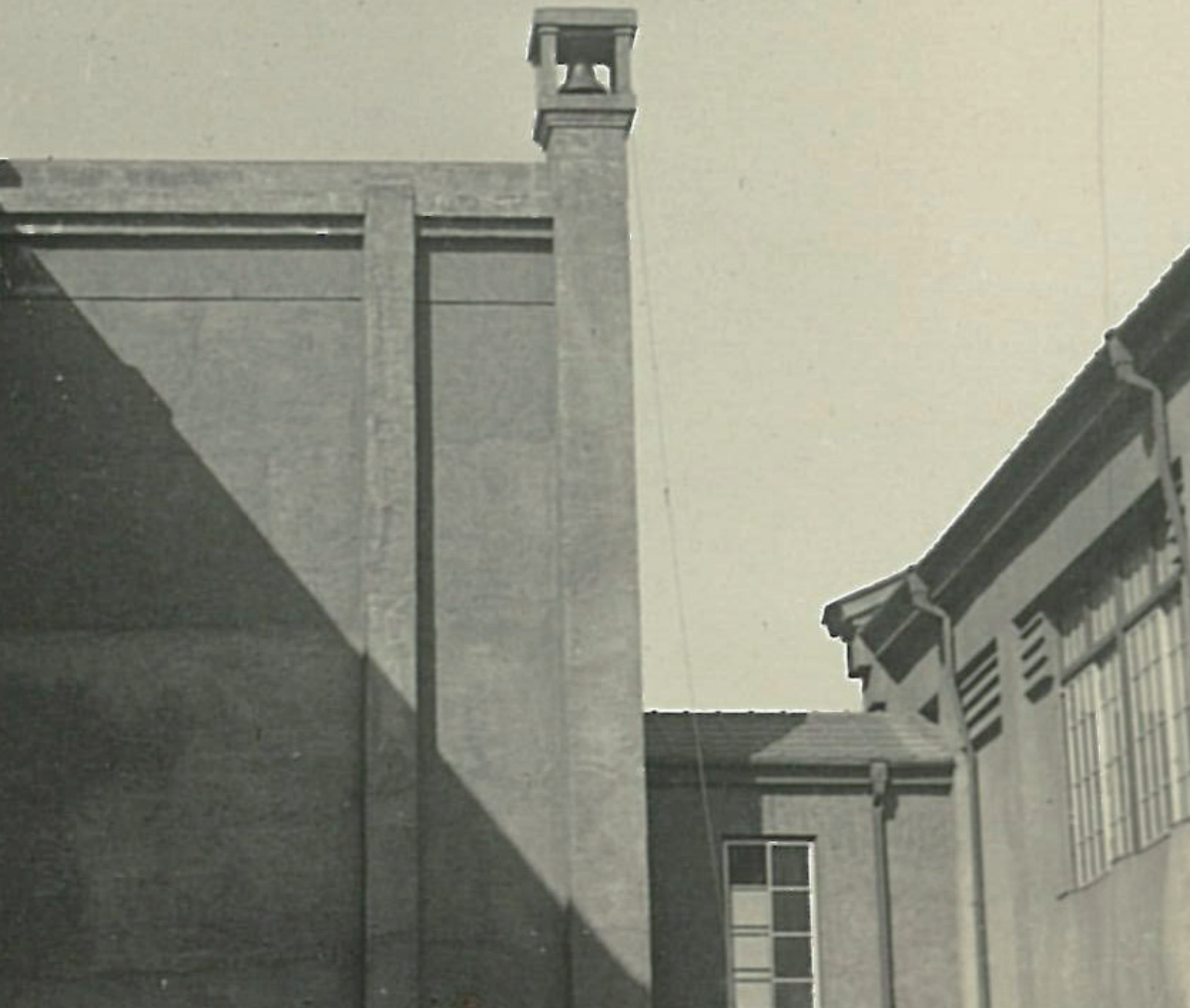
一紅会・春の講演会 …… 17

それぞれの窓辺 …… 20

よこの会より …… 34

昔日の甲府 …… 38

司会者等紹介 …… 40



巻頭特集　強行遠足の今日と未来

それぞれの強行遠足

今回の日新鐘の巻頭特集はやっぱり強行遠足。俺にとっちゃあ青春そのものと口角泡を飛ばす者もいれば、テレながらどれだけ不真面目だったか自慢する輩もいます。同窓生の合言葉、世代を超えて盛り上がるテーマです。……でもなあ、また?という声もチラホラ……

数年前ひとつの不幸な事件が起きて母校の強行遠足は距離が短縮されました。それをきっかけにOB強行遠足が復活しました。ウォーキングの心地よさ、昨今の健康ブームも手伝ってなにやらいい雰囲気も漂っています……。時代は変わるもの。単なるノスタルジーだけでもありません。それぞれの思い出を抱きしめながら、強行遠足の今日的意味について、掘り下げて見るのも一興ではないか?と考えてみた次第です。

幹事学年の三名のてんでばらばらな強行遠足論を皮切りに、世代をこえた同窓生座談会、最後にOB大会のルポルタージュがつづきます。……楽しんで読んでいただければ幸いです。

最後にこの行事が先生方、OB、沿道の皆様など多くの方の支えで、長年途切れることなく続いていることに、あらためて感謝の意を表したいと思います。

（編集部）

強行遠足と甲府一高

相川　正樹（昭四五年卒）

一週間前に風邪をひき前日まで休んで参加した「強行遠足」。小諸まで行こうなんて気は毛頭なく、のんびり歩いていたら小諸についていました。それが私の「強行遠足」でした。目標も計画性もなく、当然達成感も少なかったですが、「前に向かって歩いていればし必ず先に進む」ということを「強行遠足」は教えてくれました。

「強行遠足」、この言葉は甲府中学・甲府一高の卒業生にとっての合言葉です。その話題になると世代を超えて話は尽きません。

それは「強行遠足」の目的が、「小諸に早く行く。」ことでなかったためだと思います。小諸に着いた順番を公開し上位者を賞賛し、「これが質実剛健の甲府一高だ。」なんてことを吹聴していたら、「強行遠足」はこんなに長く続いていなかったのではないでしょうか。

もともとゴールの概念がなく距離も長いから「終点まで行かなくても良い」という「強行遠足」ならではの良さもありますが、「目的、思いは個人の勝手。結果についても個人の責任」という考え方の上に「強行遠足」は成り立っているのではないでしょうか。それがあるからこそ、誰にとっても快い「それぞれの強行遠足」があり、「個の自立」とその個を信頼した良い面での「個人主義」の上に「強行遠足」が続いているのだと思います。

甲府一高では、「強行遠足」も重要でしたが、やはり受験校でしたから「どこの大学に何人入るか」が最重要課題であり、当然、「試験の順番」が最大の関心事であったはずです。それにもかかわらず、順番が良かった人も悪かった人も、みんな同じ仲間でした。サッカー大会、バレーボール大会、合唱コンクール、文化祭といろいろな行事がありましたが、どれもうまい・へたに拘らず、個人を大事にしてくれました。そして、それが「文武両断」でない「文武両道」の校風を作っているのではないでしょうか。

甲府一高には個性的な人がたくさんいて、お互いがその個性を認め合っていました。それを特に感じたのは、「二年九組」というクラスでした。そこには、勉強のできる人・できない人、運動がうまい人・へたな人、学校に毎日来る人・ときどきサボる人、東大を目指した人・甲子園を目指した人と、いろんな人がいました。それぞれが個性的で、その個性をお互いが認め合っていて、それでいて（それだからこそ）バラバラにならない協調性があり、なんとも居

心地のよい楽しいクラスでした。粒ぞろいの生徒の揃った中学時代、フルイに掛けられた人たちが集まった大学時代に比べ、甲府一高、特に「二年九組」の学生生活はとても楽しく充実した時間でした。

「生徒を信頼する。お互いが個人を認めあう風土」は甲府一高だけでなく、どこの高校にもあることで、それを青春と言うのかもしれません。……が、「個性を大事にし、その個性をお互いが認め合う」環境で青春時代を過ごせたことが、今までの人生、これからの人生にとっての根っこになっていると思います。すばらしい人たちと知り合う機会を与えてくれた甲府一高と「二年九組」にとても感謝しています。

神様の教訓

石原　光博（昭四五卒）

「一番になるのは当たり前……夜明け前に小諸に着いて新記録を作ってやる」二年の強行遠足が終わってから、一年間豪語し続けておりました。沸き出でる青春の血を抑え切れない感じでした。我が人生で一番輝いておりました。ちょっと輝きすぎでした。

これだけ吹きまくっていた石原君が、午後四時スタート一女生徒が応援する前をさっそうと一番で校門を駆け抜けた後、二〇分程度で走れなくなったのです。水道道路で一〇〇人以上の生徒に抜かれました。皆口々に「どこか悪いのか」といって遠慮なく追い抜いて行きました。

「この腹痛はなんだ。そうだ、昨日親父に、食べさせられたインスタントラーメンだ」たしか新発売サンプルを試食させられたのでした。「くそ、親父め」と思いましたが、食べた私が悪いのです。

ゆっくりとだましだまし走り続けました。清里を過ぎたあたりで腹痛が治って来ました。速度を上げ、二〇〇番位に落ちた順位がだんだん上がりました。五人、一〇人の団体を何も言わずに抜き去り、五時間ほどで順位は一〇番以内になりました。一年前三時ごろ通過した中込が午前五時。検問所の先生いわく「今三番だ。一番は二人で歩いている。追いつくかもしれない」と。残りは二〇キロ。

小諸駅前五〇〇メートルで先頭が見えました。二人は振り返り、最後の力を振り絞り走り出しました。私もスピードを上げましたが、追いつけず小差の三位でゴールしました。大変悔しい三位でした。翌日学校に行くのが恥ずかしくつらかったです。

卒業してから二〇年間は、毎年のように走れなくなったときの夢を見ました。大きなトラウマになっていたのでしょう。「人生甘くない」と生意気小僧に神様が教えてくれた教訓だったのでしょう。

強行遠足の思い出

渡邊　東（昭四五卒）

甲府一高といえば何といっても強行遠足です。そして同窓生が集まると自然とその話題になります。

小諸へ行った人は誇らしげに語り、そして、「渡邊君は？」と来ます。私が行けなかったと答えると、「え、三年間行けなかったの？」と哀れんだような、幾分軽蔑したような目で見られます。ですから、強行遠足が話題になると、いつも肩身の狭い思いをします。

とにかく、通学時間約一時間半、身延線の久那土というド田舎出身なので、当然山野で鍛えて足腰は強いはずだと思っていましたし、きっと周りもそう思っているに違いないと妙に自意識過剰になっていました。

「小諸へ行かなきゃ……！」という思いだけは、人一倍強かったのです。

一年生の時は、最初に時間を稼ごうと、かなり頑張って走りました。しかし、その反動が直ぐに出てきて、清里あたりではフラフラ、野辺山でついにダウン。結局、海ノ口でリタイアとなってしまいました。いくらコンジョウを発揮しようと思っても、棒となった足は全く動きませんでした。二年生の時は、更に気負って出発、結局小海で力尽き、三年生の時はやっと臼田まで辿り着きました。戦略ミスだったと今になって気づいても後の祭り、……です。

だけど、沿道の農家のおばさんがくれたあのリンゴはおいしかったなあ。

OB強行遠足大会より

巻頭特集　強行遠足の今日と未来

座談会

強行遠足がんばる意味

佐々木　強行遠足は同窓生の永遠のテーマで毎年日新鐘で取り上げられます。定番だからあまり面白くないかなあと最初は思っていました。それがOB強行遠足があるということを知り、小口さんや私も参加し、それがまたテレビで放送されたりして意味を改めて考えさせられた次第です。単なる思い出として懐かしいというだけではなく、今日に繋がっている何かがあるんじゃないかということです。今日はそうした観点からお話していただけたら有り難いと思うのですが。

山本　私にとっては「青春の原点」です。今もあのときの気持ちをバネにして生きています。未だに夢に時々見ることがあるんです。寝床で、朝方ちょっと脚がつって起きるときがありますが、臼田を過ぎてあと二〇キロっていうその時の脚のツラさで起きるんです。そのくらい強行遠足の思い出がまだ続いている。

佐々木　肉体的な感覚が覚えている。すごいですねえ。私自身は、はずかしながらそこまで頑張っていませんでした。高二の時は体育の授業で捻挫して出られなかったし。三才上の兄が凄く思い入れをもって挑戦している姿を見ながら、男子は一昼夜かけて冒険と探検の楽しみがいっぱいあるのに、女子は早朝からバスでいって三〇数キロというところが物足りないなと思いました。体育が苦手で体力もない自分でしたがもっと頑張れたんじゃないか、と感じています。同級生の西村さんはそれに引き換え、栄光の青春のページを残しているので語っていただけると。

西村　体育系のクラブに入りましたので、まずいきなり先輩から、クラブ活動もやっていない女性に負けるなとか、歩くのではなく走り、しっかり順番をとってくるように言われ、純粋ですから真に受けて、身体を作ったりして、一年から結構いい成績だったと思います。二年生の時ふと見ると同じテニス部の三井（旧姓岩沢）さんが、ずっと横を走ってまして、お互いに弱音が出るじゃないですか。歩きたいとか止めたいとか。なんか自然に二人で歩いてまた走って、松原湖あたりでもうやめたいと思ったんですけれど励ましあい、小海で二人で手を繋いで二位でゴールしたんです。（一同「ほー」）その時のうれしさって今でも思い出します。三年で最後の強行遠足なので今度は人に言われたからじゃなく絶対に一位を取ろうって言い合いまして、クラブ引退してましたが二人でトレーニングをしました。本番では二人で一位で走っていたら、無惨にも雨が振ってきまして、先生が来て中止だって言うんですよ。小降りだし小海はすぐそこだからゴールさせて下さい。二人で約束したんですって抗議したんですけれど、中止は中止ってことで。すごく心残りで残念で悔しいっ

日　時：三月二〇日　一〇：三〇―一三：三〇
場　所：山梨県ジュエリー協会

出席者（敬称略）

山寺　義雄（昭一八卒）
内藤　泰藏（昭四二卒）
山本　仁一（昭四四卒）
斉藤　　俊（平一五卒）
小澤　　彩（平一五卒）
小口　弘毅（昭四五卒）
西村　恵子（昭四五卒）
司会　佐々木まち子（昭四五卒）

東京同窓会幹事・日新鐘編集部

相川　正樹　中島　直人
飯島登美夫　滝田　和彦
菅谷真理子　山下　昌彦
雨宮　俊彦（写真）

西村恵子さん（昭45年卒）

て思ったことも、いい思い出だと今は思っています。本当に純粋にひとつのゴールに向かって一生懸命に頑張れた自分がそこにいたことが今になると微笑ましいと思います。

佐々木　お若い方たちにも語っていただきましょう。

斉藤　高校、大学とずっと陸上漬けの七年間でした。私にとっての強行遠足はもう本当に誇張なしに高校生活の全てだったなというのが正直な感想です。高校を決める時に、説明会の紹介ビデオの中に強行遠足の部分がありまして、それを見てここしかないと思いました。親は最初は反対したんですが、最終的には私の希望を通して一高に入ることが出来ました。ずっと水泳をやっていましたが、強行遠足で優勝を狙いたいと思い高校から陸上部に入りました。いい仲間に出会えました。ただ強行遠足になったら強力なライバル。石水君他にも二人ぐらい強いのがいて、私はこいつらには負けられないと。私の心残りは結局優勝は一回もできなくて、二位、三位、二位という感じでした。（一同、すごーい）同じ学年に負け続けていたので、いい思い出ではあるんですがやっぱり心残りです。悔しかったので大学でも引き続き陸上競技を続けて今に至っています。

小澤　私は最初バレーボール部で陸上とは縁がなかったのですが、高二から陸上を始めました。高一のときは三〇番くらいだったんですが、高二では清里くらいからずっと先頭を。山を走っていると自分の足音が少し遅れて聞こえてきます。それで私はずっと後ろに陸上部のライバルがいると思い込んでいたんですが、ゴールしたら四〇分くらい誰もこない。結局自分の足音だったんだと気付きました。自分との戦いだったわけです。それまで何かで一番をとるっていうことがなくて、一番が自分の中で大きな意味を持ち、その後のいろいろな自信に繋がりました。三年生の時に北見北斗高校に行く予定だったんですが、前日に母校の方で悲しい事故が起きて、行くのが中止になりました。高三は結果的に走ることができなかったのでちょっと悲しかったです。大学でも少し陸上をやりました。

佐々木　強行遠足の記録を振り返ってみると、最初の頃は長野の地元の方とか、父兄や先生たちが随分苦労してコースを決めてやってきたことがわかります。東京の方に向かって行ったりとかという時期もありました。最近では、小澤さんが触れられた、不幸な事故があったりして、コースも変遷があるんですね。大先輩からお話をいただきましょう。

小澤　彩さん（平成15年卒）

山寺　僕が中学に入ったのは昭和一三年、日華事変の翌年です。それから大東亜戦争の終わりまで、他のスポーツたとえば野球とかは皆時節柄止めさせられましたが、強行遠足だけは国民の体力を向上させるということで、軍の理解もあり学校でも力をいれました。当時は松本方面に二四時間歩けるだけ歩くという方式でした。夏休みが終わるとみんな脚を鍛えるトレーニングです。僕も韮崎の自宅へ歩いて帰りました。山岳部にいたので、早くなくてもいいが遠くまで行けと絞られました。当時はメダル線というのがありました。学年ごとにここまでくればという合格線で、それを越えるとメダルをくれたんです。そこまではかなり皆行きました。途中上諏訪へ行くと、物のない時代ですがしじみ汁を出してくれました。五年間の間に二年くらい雨に降られました。当時はわらじが多くて。濡れるともう裸足で歩いているようなものでした。一一月三日、昔の紀元節ですが、夜の一二時に大きな太鼓を鳴らして出発、夕方がちょうど辰野のあたりです。塩尻で夜。そこから松本まで夜をずうっと歩いた。松本を越えると松本高校に進んだ甲中の先輩が、自転車で付き添ってくれました。事故が無いようにと。寒いし北アルプスが良く見えて、それが印象的だったですね。

男だけの学校ですからいたずらして、父兄が学校で謝ったこともありました。例えば、諏訪湖畔には花梨の畑があって、食べられないのに香りがいいから食べたとか。寒いから藁に火をつけてあたっていたら、それがまだ脱穀する前の米のついたもので（一同笑い）親が呼ばれて農家に米代を弁償しました。他にも他愛のないいたずらを…。当時は中学五年間でしたから、今でも強行遠足の話になります。信州を二四時間行けるところまでみんな時計を見ながら頑張りました。今でも私は毎朝一時間ちょっと歩いています。年に五、六回は山へ行きますね。

山寺義雄さん（昭和18年卒）

内藤　高校の頃は毎日二〇キロくらい走ってました。勉強しないで朝から晩まで。僕の一番最初の強行遠足の記憶は親父がもっていたメダルです。親父は甲中昭和一一年卒、昭和一〇年の甲子園のメンバーでスポーツマン、僕は何をやっても勝てなかった。ある日銀のわらじのメダルを見つけました。聞いたら、強行遠足で松本まで着いたのでもらったという。一番の人は金のわらじのメダルをもらえる？瞬間ひょっとして親父に勝てるかも、と思いました。足腰だけは自信があったからです。高一の時強行遠足は中込までしたが、僕は三番でした。次の年から小諸になったのですが、なんと強行遠足の翌日陸上部の新人戦が重なってしまいました。部員は途中で帰ってこいと先生に言われましたが、オレ帰りたくないよなあって。必死になって走りました。韮崎まで四五分。ぶっちぎり、予定の通過時刻よりも一時間以上速かった。なんと検印所が開いてない。ハンコ下さいって先生叩き起こしました。次の日に怒られました。何であんなに速く走ってきたんだって。お前の後一時間も来ないじゃないか、あんな寒い中。（一同、笑い）早すぎてスタジオ一〇二にも出演しそこないました。次の日はちゃんと新人戦は走りましたが、疲れが残っていたので記録はよくなかった。大学四年生の夏に親父が亡くなったんですが、記念に一高の強行遠足、OBで参加しました。「心の甲斐」という本の中にその時のエピソードを一緒に走った後輩が書いてくれています。今三重県副知事の望月達史氏です。

佐々木　OB強行遠足は内藤さんが中心になって開催の運びになった？

内藤　以前あったのですが運営が余りに大変なのでなくなりました。同窓生で集まるとみんな話すことは強行遠足のことで、そのなかで是非OBの強行遠足を復活しないかって。お前いい思いしたんだから骨を折れということで、それで僕らの学年が中心になって三年前かな、始めたんです。そしたら山本くんたちが参加してくれて、初めは五〇人くらいだったんですけどね。だんだんだん増えてきて。去年のテレビの時には一五〇人くらいになりましたね。

佐々木　私も昨年初めて参加しました。懐かしくて。あの大好きな野辺山とかコスモスの咲いているところを歩くだけでも嬉しいなあと思って。同級生の小口さんに誘われたのが動機でした。そのあたりから。

小口　佐々木さんと同様僕も強行遠足目指してなかったし、一番が誰だったなんてことも全然覚えていません。だから逆に平均的な一高生の代表として語ることができると思います。高一の時はそれでも

小口弘毅さん（昭和45年卒）

初めてだったので結構必死になって到着、三〇番位だったような気がします。高二になるとがっくり落ちてなんとか着きましたが、高三の時は堕落してついにダメになりました。もう夜中に眠くて眠くてどうしようもなくて、多分野辺山あたりで道路の端にひっくり返ってこう、うとうと寝ていたことをよく思い出します。寝ながら地面に吸い込まれるような感じになって、そして完全に寝てないので、どんどん通って行く足音が聞こえる。やっとのことでなんとか起きて走ったというようなことを覚えています。断片的な記憶。僕みたいな普通の体験しかない者でも、強行遠足はその後の人生の中で思い出の核になって僕を動かしている気がします。高校卒業後、山登りにはまっていきました。医者になるとなかなか山に登る時間もなくなってきて、でもなんかやらないとと思って、マラソンを始めました。思い返せばやっぱり強行遠足というものがあって、一〇〇キロの感覚を思い出しながら走ったような気がします。

これからはＯＢ会で楽しみたいなと思います。東京に住んでいる者は、歳取ってくるともう一度故郷の山河を歩くってことがとても楽しみですし、しかもそれが同窓生という縦と横を繋ぐような絆で一緒に歩けるということは素晴らしいと思いました。六〇代、七〇代、八〇代、九〇代まで。もし九〇、一〇〇まで歩けたら横綱になるんじゃないかと。（一同笑い）ということで山寺先輩は大体関脇ですかね。

山寺　いやいやまだ若いよ。八〇になってちょっとです。（笑）

山本　内藤さんは大変なんですよ。ＯＢ大会の運営を一人で全部やってらっしゃる。だから今年は僕も学年を通してちょっとお手伝いをするつもりではいます。仕事の合間をみていろんなとこへ救護所のお願いに行って、再確認してコースの点検して全部一人でやってらっしゃる。本当に頭が下がります。

内藤　実ははっきりいって大変です。（笑）それでも、何故始めたかっていうことなんですが、実は、強行遠足は、不幸な事故があってコースが短縮されている。その話を聞いたとき、ちょうど甲府一高校長が同級生の高瀬君だった。彼がいる間に、小諸まで延ばしてもらいたいとおもったのです。少しでもそんな気運が高まるように応援できるかなと。そういう動機ですから僕らが事故を起こしたら、それこそ学校の足をひっぱっちゃう。僕らの学年、医者が多い。いつも伴走してくれる中込君、去年亡くなった芦沢君（中央病院外科部長）小林君、許山先生。ここにいる小口さんもいてくださる。薬剤師の人たちもいる。五キロごとに救護所を作る。みんな体力は落ちているし、なんかあっちゃ困るから、友達先輩に場所をお願いして、それでもコースにはいまだに苦労しています。その上誰かが、強行遠足にはしじみ汁だと言い出した。（一同、笑）僕らの同級生が野口料理学園の純子先生、悪いんだけどしじみ汁作ってくれる？って（笑）毎年、彼女が全部用意してくれます。

内藤泰藏さん（昭和42年卒）

佐々木　なんか野辺山に行ったらしじみ汁が飲めそうな期待は持ってました。まさかあるとは思っていなかったから嬉しかったです。（一同笑）

内藤　もし五年くらいたって人数増えてきたら僕は本当は同窓会の人たちにお願いしてやってもらおうかなって思ったんですが、今は私がずっとやらなきゃならないんじゃないかって思っています。（笑）一番大事なのは全員がゴールまでいけること。しじみ汁飲んで帰ろうって。去年は山本さんの学年だとか、山本さんの奥さんの学年の昭四六卒の人たちも手伝ってくれました。大勢で、Ｔシャツまで作ってね。

佐々木　とても御苦労があったことがはじめて分かりました。きっと私達の学年でも知らない人が多いと思うんですけども。最近はマラソン大会もあちこ

山本仁一さん（昭和44年卒）

ちで開かれていて、走ったり歩くことに対する関心が強くなっているし、その情報を得たら、出たい人がいると思います。だから是非この会の大変さも少しずつみんなで分け合って、これからもやっていって欲しいですよねえ。

内藤　例えば救護所の問題。短時間で仕事が終わるようにしてあげないと大変なんですね。その為にはやっぱりまとまって、トップと後ろに力のある人を置いといて、サンドイッチで一緒にいかないとと思うんですね。大体、一時間五キロくらいの速さで歩いて。警察から道路の使用許可もとらないといけない。そういうことを考えると一五〇―二〇〇人くらいがちょうどいいと正直言って思う。最低限歩道がある交通量が少ないところでないとやれない。

山本　救護所の問題はもうひとつトイレです。一気にたくさん使える公的なトイレ。（笑）

内藤　ガソリンスタンドでお願いしたりとか（笑）でもとにかく事故が起きないように、安全が一番ですね。今年は十一月二日に開催します。

山本　ＯＢの強行遠足の発端っていうのが、あの悲しい事故のためにコースが縮小されてそれをなんとか少しずつでも延長していこうっていう主旨なんです。まずはあの事故以来ちょっと縮小しているから、我々と同じ体験を、是非今の若い子供達にも思いきり力の出せるチャンスを与えてあげたい。

佐々木　望月さんから手紙頂いて、そういう運動があるってことを知りました。私個人としては地元で子供達の安全の為に道路に立って、何かできるかっていったらそういうことが今出来る立場にない。御考えもよく理解出来るし、いいことだと思うんですけど、今の自分は何も手を差し伸べることができない。署名はできなかったんですけど賛成です。

内藤　応援できる環境になったらやってあげればいいわけで、気持ちさえあればいいんじゃないですかね。実際小諸までじゃないですが小海までは伸びるんですよ、男子は今年ね。昭四五卒の井上隆男君と、二月二〇日七三七名の署名を持って新津校長に会いに行きました。なんかあった時の責任は校長がとらなきゃならないけれど、やろうよって発破かけてきました。（笑）ずっともう五年短縮コースでやってきたので、運動部員でさえ、これから先まだ歩くの？って感じになってきちゃっています。要するにみんな風化しちゃうんです。だからやるんだったら早い方がいい。自分の体力の限界を試せるような体験をさせてあげたい。先輩達の頃から続いている行事を続けていって欲しいなって思います。あのりんごをくれた臼田の依田さんのおばあちゃんのように、長野の人たちだって今でも一高の強行遠足を待っている人たちがいると思います。

西村　男子の行こう小諸っていう気持ちがすごく強いってこと、私達女子も感じてますけど。

内藤　昭四三卒の小木曽さんっていうフリーカメラマンがいます。彼は小諸まで行けなかったんですよ。それが今でも残っている。それである時、何年か前に気がついて、少しずつ散歩の距離を長くしていって、東京の自分の家から結局、自分の実家が竜王にあるのかな、そこまで一〇〇キロ計って歩いてきたんです。日新鐘にそのこと書いてました。

斉藤　私が現役の時はとにかく勝つことだけを考えていたので、先輩方との交流とか、先輩方の思い出話を聞きながらゆっくり歩くという強行遠足の醍醐味も味わいたいので、そういう意味では是非そういう大会があれば出たいって思います。機会があったら、運営の方にもお力添えさせて頂きたいとも思いますし。

内藤　なんて頼もしいことでしょう。斉藤さんみたいな方にトップと最後を歩いてもらいたいんですよ。

小澤　しじみ汁の話が出たんですけど、私、結局斉藤君と一緒で勝つことにばかり執着していて（笑）

斉藤　俊さん（平成15年卒）

一度も飲んでないんです。（苦笑）しじみ汁を出しているっていうのを聞いて、ちょっと心がときめいたので（笑）機会があったら、私もお力になりながら参加させて頂ければ思います。

西村　現役の時ってゴールに向かっていくだけで、夢中じゃないですか。この間、ＯＢの強行遠足のビデオを見たら、楽しそうなイキイキとした顔で参加していらっしゃる。周りの景色を眺めたり、季節をいろいろ感じたり、懐かしい話をしたりしながら、もうひとつ別の強行遠足を見た気がしました。私にとってマイペースで歩っていけるような強行遠足も是非出てみたいなって思いました。

佐々木　同級生で当番学年の仲間からも一言。

男性幹事一　私もＯＢ大会に参加しました。（笑）私も心残りっていうのがあります。三年間実を言うと小諸まで行ったことがないんで、小海まで。是非小海から小諸まで一度は歩いてみたいなっていう気持ちでいます。

男性幹事二　私はこの度の企画で裏話を伺った中で西村さんと一緒に二着でフィニッシュされた三井さんから、女子が男子を応援に来てチョコレートをくれたり、頑張ってーとか、言ったっていう話をきいてびっくりしました。（笑）私はまず全くその記憶がない。

西村　夕方応援団の太鼓と校歌の中を男子が学校を出発するじゃないですか。そのときちょっと暗闇にまぎれて、チョコレートとかお守りを女の子たちがあげましたよね。（笑）

男性幹事三　高一中込、高二臼田。三年は行ってません（笑）すごく記憶にあるのは臼田のりんご。帰りの電車でちょっと自慢だった（笑）非常に疲れてですね寝たかったけど、女子が同じ車両の中にいて、かっこ悪いところは見せたくないなあって思ったことも思い出します。とにかく帰りはすごく充実してました。

男性幹事四　テレビに出られるかもしれないと思いＯＢ大会に参加しました。（笑）楽しかったです。私も普段あまり運動してなくて、ちょっとメタボですから歩けるか心配だった。現役の時は小海までしか行けなかったです。親父がＰＴＡの手伝いでずっと先にいたのですが、着けなかったことを思い出しました。（笑）逆に若い時は体力があるけれども、人生経験積んだ今は精神力が強くなったとも思いました。

女性幹事　私は高一、高二と小海まで行きました。高一のとき父が小海でお手伝いでいて、一生懸命走ってゴールする生徒たちの中で私だけはのんびり歩いてた、最後のゴール直前に抜かれても平気な顔をして入ってきたと、もう亡くなりましたけど、それをずっと言われ続けました。昨年テレビの番組を拝見し、ずっと運動不足だったことを反省しまして、今年はちょっと頑張って参加出来たらいいなって思いました。

佐々木まち子さん（昭和45年卒）

男性幹事五　高一野辺山、高二野辺山、高三小海、しじみ汁を飲んだあと、駅のそばのソバ屋に行ったらさあ、店に入ると一階の椅子テーブルがどこも満席、二階へあがったら、こたつがあって、それに入ってソバ食べちゃうと、もうそのまんま朝まで（笑）家には今年は小諸まで行って来るからなんて言ってきたから、朝イチの電車で帰って来るじゃん。家に帰れんだよ。（一同、笑）しょうがない映画館行って。（笑）

小澤　男の子が臼田から持ってきてくれたりんごを女の子にあげるんです。で、女の子はそれを、アップルパイにして返すっていう。

西村・佐々木　まー！（笑）時代だわ！それなら男子はみな臼田まで行ったかもしれなかったわ。ねえ。

佐々木　皆さん貴重なお話ありがとうございました。それぞれの強行遠足の思い出がみんないきいきと甦り、親子とか兄弟とか先輩とか後輩とか縦のつながりが広がり、頼もしい逞しい若者が育っていることが分かりました。強行遠足を支えてこられた親の世代、先生達や昔の人たちの御苦労も分かりましたね。収穫は大きかったと思います。

巻頭特集　強行遠足の今日と未来

強行遠足の意義とOB大会

小口弘毅

○映像にみる強行遠足

甲府中学・甲府一高同窓会は繰り返し強行遠足を特集した記念誌を発行し、そして記念大会の映像を残しています。なぜこのように同窓生の心を捉えて離さないのでしょうか？私は今回の東京同窓会でのイベントの一つとして強行遠足を取り上げる事を提案しました。強行遠足での強烈な体験が長い間意識下で、自分を突き動かしていた事を五〇台半ばになって思い至ったからです。

写真１

歩く事が人々の暮らしの中に当たり前のように根ざしていた時代、大正一三年に江口俊博校長によって始められた強行遠足は在校生のみならず卒業生にとって、今日的意義は益々大きくなっているように思います。「二四時間かけて一六七キロを走破し日本海を見た先輩」として一高の伝説になっている岩間幸吉さんの次の言葉は強行遠足の真髄を語っています。「強行遠足は一高の得難い伝統行事です。全力で自分をぶつけるまたとない体験の場です。全力で自分をぶつけた者は、その後の人生に大きな勇気と自信を得るのです。人生は山あり谷あり困難の連続です。私もそのような場面に直面した時、『あれだけやれたのだから、やれるだけやろう』と自分を奮い立たせ、困難を乗り越えてきました。百万遍の言葉による教育よりも、一つのかけがえのない貴重な体験から多くの事を学んだのです。」

イベントの準備に取組むうちに、知らず知らずのうちに私は、強行遠足に向き合い、そして引き込まれて行くのを感じています。まず映像を探し出し、編集し、短縮版を今回の東京同窓会で披露したいと考えました。最初に手に入れたのは昭和五三年度に放映されたＮＨＫの新日本紀行『八ヶ岳青春賦』でした。次いで一高の現教諭である加藤忍先生（ご自身も一高出身）に依頼して第五〇回〝今、青春を行く〟と第七〇回〝歩け、心のかぎり〟の記念映像をお借りする事が出来たのです。その際、先生からいただいた手紙の中に、次のような一節がありました。「強行遠足に参加した生徒達が皆一様に感じるのは、自分への自信と学校への誇り、そして友情と人の温かさに触れる事の出来る素晴らしい行事であるという事です。強行遠足は今年で実に八一回目になろうとしていますが、生徒達は今、体育の時間を利用し

写真２

て一生懸命に走り込んでいます。その姿を見るにつけ、江口校長の精神が脈々と受け継がれているのだなと感じずにはおれません。」

編集作業を通じて、私の中に眠っていた強行遠足に関する様々な思い出、そして八ヶ岳山麓を夜を徹して歩いていた時の、寒さ、心細さ、辛さ、眠気などの感覚が蘇ってきたのです。眠気に負けて、野辺山近くの道路脇に横たわり、通り過ぎる友達の足音をウトウト聴きながら、なかなか起き上がれなかった時のもどかしい思いまで鮮明に浮かんできました。映像は、小諸を目指すひたむきな一高生の姿を写し出していると同時に、懐かしい故郷の風景、我々のかつては若かった両親、そして先生方、さらには沿道の人々の協力と暖かい声援を長い時を経て我々に伝えてくれるのです。我々一高生は何と深く大いなる愛情を周囲の大人達から受けたのでしょう?私達三兄弟は偶然にも全員が一高に通った訳ですが、数年ごとに在学している我々兄弟の強行遠足の全てに両親は救護所に詰めてくれたのです。これまた偶然ですが、第五〇回の記念映像を編集していたら、何と私の末弟、若かりし均が何回となく映っていたのです!強行遠足というと、どうしても男子が注目されますが、女子にとっても心に残る行事なのです。映像の中で、オルゴールの音色が流れる中、一人の女子生徒の走る姿がクローズアップされ、素人っぽい詩の朗読がありました。もしかしたら詩の作者である本人が読んでいたのかもしれませんが、当時の我々一人一人の気持ちを上手に表しているように思ったのでここに掲げます。きっと強行遠足後にこのような素晴しい作品が沢山紡ぎ出された事でしょう。

写真 3

静かでゆっくりとした歩みが
幸せであると感じられる今、
日の出のオレンジ色のベールが
妙に美しかった。
青春という迷路の中で
出口を探している私
何かが欲しくてクラブ活動をし、
勉強をし、友情をつくり上げたり
そんな私に小海までの道のりはあまりに辛く、厳しかった
足が棒のようで、もう歩けないほど苦しくて
そんな時、ふと人生って、こんなものかなと思った
きっと苦労も多く、辛いだろうと
人生の意味さえ知らない私にとって
小海到着は自分で造り出した始めての喜びだった
これから何をやるにしても
この四二キロの道のりを思い出して
その辛さも、苦しさも、厳しさも、悩みの答えになるだろう
目に見える報酬が欲しかった私だけれど
もう何もいらない
ただ今、希望という言葉を胸に抱くだけで

○清里ウォーク

このように私は強行遠足に引き込まれていったわけですが、強行遠足に関する新たな動きがすでに始まっていました。数年前から内藤泰藏さん（昭四二卒）が中心となって、山梨在住の同窓生達が強行遠足のコースの一部を歩き始めていたのです。そしてＮＨＫの新日本紀行のスタッフは昔取材した人々の〝今〟を再訪するという番組を作り始めており、「八ヶ岳青春賦」に登場した人たちの「今」を取材する企画を立て、一高を通じて内藤泰藏さんに働きかけたのです。そして取材に協力する事となり、九月二三日に同窓生が集まって、南清里から野辺山まで一五キロを歩く事になったのです。井上隆夫君（昭四五卒）からこの清里ウォークの連絡が入り、詳しい事は何も解らないまま、私も友人達と一緒に参加して、思いがけない出会いに恵まれたのです。

南清里に集合した際、私は編集途中のＤＶＤを何人かの同窓生に見せたのです。すると、「あっ、この時間切れ直前に泣きながらゴールしたのは私です」と言う小太りの中年男性がいたのです。私は編集して、その男の子が印象に残っていたので、即座に同一人物である事が解りました。小穴昭彦さん（昭

五七卒）は、ゴール直後に、甲州弁丸出しで「ついたら、へえ、いかんでええだな」という名台詞を残していたのです。NHKのディレクターは大変喜び、番組で彼らの歩く姿を追った事は言うまでもありません。三〇数年ぶりで再会したおよそ一五〇人の同級生、先輩、後輩はお互いに近況を報告しながら長い列になって歩き始めました（写真1）。弘法坂、大門ダムと歩きながらむかし話に花が咲きます。内藤さんは長い列のしんがりを務めながら参加者の体調を気遣っていました。旧姓大関美智子さん（昭四五卒）は最年長者である山寺義男さん（昭一八卒、御年八三才）と歩きながら話をしているうちに、山寺さんが甲府中学で教師をされていた若かりし頃のお父様の教えを受けた事が判ったのです。山寺さんは、大関先生に薫陶を受けた甲府中学時代の事を周囲を歩いていた我々にも懐かしそうに語ってくれました（写真2）。清々しい秋の清里高原を歩く長い列の中で、同窓生達はそれぞれ何を話していたのでしょうか？最後は野辺山駅前の薬局の広場でシジミ汁を飲みながらお互いの健闘を称え合ったのです。こうして私たち全員、山梨で生まれ、育まれたのだというルーツを確認し合うことが出来たのです。インタビューの中で輿水さん（昭四二卒）は次のような微笑ましい言葉を残しています。「タイムスリップの世界で、同級生でさえ何一〇年ぶりで会って、全然変わってしまって、おじいさんとおばあさんになっちゃってました。」こうやって多くの同窓生で故郷の野山を歩く事は、甲府中・甲府一高生を縦横につなぐ素晴らしい機会になったのです。この取材は新日本紀行「ふたたび：思い出の道　新たなる道」として一一月三日に放映されたのです。そして私はこの番組を含めて四本の映像を編集することになったのですが、強行遠足のまさに過去、現在そして未来を通観出来る映像記録となったように思います。

○OB強行遠足

甲府在住の同窓生が中心となって始められたOB強行遠足が昨年一一月三日に開催され、再度私も参加しました。今度は長い距離で、一高から日野春までの全行程二八キロです。快晴に恵まれ、清里ウォークの影響から参加者は大幅に増え、約一〇〇人が参加した様です。国道二〇号線に添って長い平坦な道を歩き、最後は野猿返しという名前の長く急な坂道を上って日野春のオオムラサキセンターがゴールでした。終始美しく紅葉した鳳凰三山を左手に、そして右手には七里が岩の断崖を見ながらの楽しいウォークでした。今回も昭四四卒の先輩達の参加が多く一大勢力でした。オオムラサキセンターで、黄色く色づいた銀杏の大木の下で写した四四年卒の先輩達の若々しい集合写真をご覧下さい（写真3）。今回も最年長者である山寺さんは内藤さんと井上君を従えて元気一杯にゴールしました（写真4）。一高を卒業して以来、東京近郊に住む我々は山梨と疎遠となっていましたが、このような故郷ウォーキングを通して、同窓生と交歓するだけでなく、山梨の良さを再認識できるのではないでしょうか？

昭45卒　ゴール地点野辺山駅にて

写真 4

一紅会・春の講演会

老いを科学する

―サクセスフル・エイジング　講師　田沼靖一氏

2008　3／8（土）於：アルカディア市ヶ谷

春を感じる陽射しの中、「テーマが人を呼び寄せたのか」（東京同窓会・井上会長の挨拶より）講演会は予想をはるかに上回る三七〇余名もの大勢の方々の出席を得て、盛大に行われました。

会場をいっぱいに埋め尽くした参加者は、大スクリーンに映し出される生命科学の世界に引き込まれ、熱心に聴き入り……田沼先生の講演はゆっくりした柔らかい語り口で、テーマに沿い進んでいきます。

途中の動画のビデオでは、アポトーシスによる細胞死の様子――死のシグナルが入った細胞が、自ら死を決定し小片化していく〈ダンシング・デス〉と呼ばれる印象的な動きが見られるなど、まさしく「居眠りをする間もなかった」（昭四八卒男性）―講演は最後に、《人類の残せるもの》―《後世に遺し伝える善い精神》―へと繋がり、深い感銘と共に終了しました。

暗い中で熱心にメモを取る人、私語もなく最後まで集中した様子に、さすが一高の卒業生、と改めてその水準の高さに感嘆しました。「講演会を聴いた実感がした」「質疑応答の時間がもっと欲しかった」との声が多くの方から寄せられました。（同感！）

「今年初めて参加したが来年も来たい」と何人もの方から声をかけて頂き、幹事一同の苦労も吹き飛びました。

引き続き行われた懇親会は、一紅会・飯田会長のあいさつ・乾杯の後、会場のあちらこちらに同学年の輪が生まれ、和やかな歓談・笑い声、記念撮影……講師を囲んでの質問の輪など、など―笑顔・笑顔の、あっという間の一時間が過ぎました。

「料理が美味しかった」との評判も嬉しく、ゆたかな教養・楽しい語らい・美味しい食事と、……まさに《サクセスフル・エイジング》への有意義ですばらしい一日となりました。

ご協力くださいました多くの方々、参加してくださいました皆様に、心よりお礼申し上げます。

一紅会 昭四五卒当番幹事代表　**村上真理子**

ゲノム逍遥遊

アポトーシス

老いを科学する
―講演要旨―

東京理科大学薬学部教授
ゲノム創薬研究センター所長
昭四五卒　**田沼　靖一**

急速に進む高齢社会の中で、老いの時間をどのように過ごしたらよいのか、今の日本においてとても大事な問題になってきています。すべての人に訪れる老い、そして死をサイエンスの面から知ることによって、それをポジティブに価値のあるものとして考えられるヒントが何か皆様方の心の中に浮かんで頂ければと思いました。

老化とは、生物学的には、「生殖期の後（後生殖期）での生理機能の衰退現象」のことです。その過程は、後天的な要因（食生活、ストレスなど）によって千差万別であります。逆に言うと、老化スピードは各人でコントロールできるということです。

それでは何が先天的に決まっているのかというと、寿命つまり死です。死は遺伝子としてすべての細胞に宿っているのです。しかも興味深いことに、この細胞死（アポトーシス）のシステムはオスとメスによって子孫を残す有性殖のシステムとともに生まれてきました。

死が遺伝子としてプログラムされている意味を、宇宙的なレベルで考えてみますと、この宇宙には無から有、有から無へとダイナミックな大循環があります。死によって生命は絶対の無に還ってゆき、生命の更新となるのです。遺伝子から観ても、次にどんな顔をして生まれてくるのかは知りません。一人ひとり一回限りの〝遺伝子の夢〟を与えられているのだと思います。

死があるからこそ生があるのであって、有限の生命を生きる中で、自分の本分を「問うことができる」／「問われている」のだと思います。そうはいっても生のはかなさを思ってしまいます。それを超越するには、歳を重ねることによって育まれる結晶性知能、感性によって、自然の美しさを自ら誘い出す心をもつ以外にないでしょう。

神様から人間にだけ与えられた長い老いの時間は、また後の世に何かよいプレゼントを残す時間なのではないかと思います。それは愛情であり、善い精神にちがいありません。人生の意味は、自分の中にあるのではなく、人の心の中にあるのだと思います。

最後に私の好きな言葉「逍遥遊」（すべてを解き放して、一回性の夢を心ゆくまで自由に運ぶ）をお贈りしたいと思います。

―「一紅会」のこれからを考える―

一紅会会長　**飯田冨美子**

一紅会創立一二年を迎えた今、次なるステージに向かってどのように進めていったらよいかを考える間もなく、再度の会長の任にあたることになりました。

「東京同窓会の充実発展に寄与する」という目的はそれなりに達成できたのではないかと自負していますが、更に一歩進めてより強固な絆で同窓文化を昂めて行くために、具体的にどのように連携して推し進めて行くのか、今後の課題として検討したいと思っています。

一紅会主催の恒例の「春の講演会」も、今年は第一一回を数え、去る三月八日、昭和四五年卒の逸材田沼靖一氏をお招きして、誰も避けて通れない「老いを科学する」と題して開催しましたところ、大変な好評を頂き四〇〇名近い参加者を得て盛況裏に終えることができました。お陰さまで回を重ねるごとに参加者が増えますのは（KOUENKAI）という響きが魅力的で心地よく人々の心を捕えて知的好奇心を喚起するからではないでしょうか?!皆様の琴線に触れるような企画を以って今後も一紅会活動の核として充実して行きたいと考えています。

更に次のステップとして、甲府一高卒女性の優秀で素晴らしいエネルギーを結集して、些かなりとも社会に貢献できるような形を創出していきたいものと願望しています。

講演会を聴いて

昭四七卒　**岩澤　忠彦**

先日、行き付けの居酒屋の主人から、定年後することがなくて昼から酒を呑んでアル中になった客がいるという話を聞かされました。定年まで二年あまり、アル中男の話は、わたしのように特別な趣味のない人間にとって切実な話です。これから長くなるかもしれない老後をどう生きたら良いのか。今回の田沼先生のお話は大変示唆に富むものでした。

特に印象に残ったのは「老いの時間」は神様から人間にプレゼントされたものであり、自然に触れる豊かな心をもとうという考え方です。コマーシャルで「消したい過去は何ですか」というのがありますが、肉体的にはメタボリックになり、顔見知りの人の名前も思い出せない自己の確実な老化のなかで、大上段に構えない先生の考えに深い共感を覚えました。

それにしても地球上にはヒトラーや金何々などとんでもないリーダーもいます。こうした権力者が自分自身だけの不老長寿や社会支配を狙ってきょうお話のあった最先端のバイオ技術を悪用しないことを願うばかりです。

昭四五卒　**芦沢　公三**

初め題名を見たとき、非常に難しい話かな？と思ったのは事実です。しかし、独特のゆっくりとした語り口と丁寧な説明で専門的な言葉があったにも関わらず、一時間四〇分が瞬く間に過ぎた感じでした。

数多くの細胞が老いから死に至る過程に関与していく。「アポトーシス」と「アポビオーシス」……ギリシャ語の語源から来ていると聞いて、最後は「老いの哲学」のように感じました。「年を取ることは、英語ではエイジング（Aging）というそうです。日本語でいう「老い」とか「加齢」とは、ちょっと違う……後ろに－ingがついています。受身ではなく積極的な響きに聞こえます。「積極的に老いる」どうせ来るものなら、嫌々受身ではなく積極的に「老いる」方がよい……。今日の講演でも、そのような心地よい響きと感じ、良い意味の「老い方」を学び、実践していきたいと思います。

昭四五卒　**内藤まゆみ**

老いを科学する―参加者の年代にこれほどピッタリはまったテーマは他にはないのではないでしょうか。科学的にしろ、哲学的にしろ、なぜ老いるのか、老いをどう生きていくのか。私自身も定年を三年後に控えて、「いつまで生きるのだろう」「どのように老いるのだろう」「何の病気で死ぬのだろう」と、考えても詮無いこととわかっていながら、どちらかといえばネガティヴに考えていました。最近、同年の友人が癌でなくなったり、脳腫瘍で手術をした友人がいることもあって、そういう年代なんだから仕方がないかと思っていましたが、田沼さんの講演は「老い」はこうあらねばならぬといった説教くささもなく、またポジティヴに考えられて、ホッとできる内容でした。

最も印象的だったのは、おまけの期間である後生殖期が「ヒト」は他の動物より長いこと、不老不死では、逆に人類は滅亡してしまうということで、改めて「ヒト」は生物であることを確認できました。必ず迎える死まで、今後どう生きていくかが問題なのですね。「老いを少し哲学できた」のではないかと思います。田沼さんが言われたように、自分の「老い」を価値あるものにできるかどうかわからないけれど。

老いの知性

昭三四卒　**村野　久子**

趣味というものを持っていなかった私は、退職後の生活がどのようなものか想像もつきませんでした。嘱託員としての五年間を終え、いままで片手間のようにやってきた家の中の主婦としての仕事をしてみると、いろいろと新しい発見や、楽しいことがたくさんあるのに気付きました。

料理、洗濯、庭いじり、どれをとっても際限なく楽しいのです。そして、女性に生まれてきて良かったとさえ思うのです。退職後、名刺を持っていないことにこだわったことなど恥ずかしく思えるようになったのです。

「老いを科学する」という田沼靖一氏の講演会に出席して、心に残ったことがあります。年とともに備わってくる能力「老いの知性」が育まれること、老いゆえの自由な時間をワクワクした気持ちで過ごすことがサクセスフル・エイジングにとって大切なこと、ということです。

今の私が幸せと感謝しつつ、毎日を過ごせるのは、ほどほどに健康で、日常生活が送れることです。他人の評価はどうでもよく、自分のしたいような時間の使い方をする、誰も頼らず、過去を思わず，自立して静かに生きる、そして、ほんの少しでも他人のお役に立てることができればと思っています。

無理なく、惨めと思わずに、少しずつ自分が消える日のために毎日を感謝しつつ、精一杯生きていくことが私にとっての「老いの知性」なのだと思っています。

それぞれの窓辺

甲府盆地の北に位置する甲府第一高等学校、その学舎で、同じ窓辺で同じ景色を眺め、同じ伝統と文化に育まれ、私たちは、約一〇〇〇日間、自らの土台を築きつつ、同時にお互いをつなぐ糸をも紡いできました。

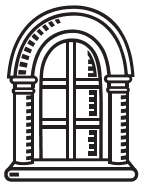
卒業後長い年月を経て、どの土台の上にも、一人一人個性にあふれた部屋、扉、窓を備えた家が形作られていることでしょう。これらの家を辿る地図はなくとも、あの時紡いだ糸は間違いなくその家と家とをつなぐ道標になっています。

この糸に導びかれるまま、今月の幹事学年（昭四五卒）の卒後三八年をかけて作られたいくつかの窓辺……GOOD DAYの見える窓辺を訪れる旅をしてみませんか。

当時の幹事学年を見守ってくださった恩師の窓辺にもお邪魔しましょう。

まずは、私たちの原点である一高の懐かしい名所を訪ね、真夏の甲子園を眩しく眺め、再びあの日の教室へ帰り……窓辺の風景は、外界と内部の空間を行きつ戻りつ様々に変化し、現在から、未来へ広がっていきます。

さあ、一緒に出かけましょう！



窓辺　その一

我が母校

一高散歩

芦沢　精一

三月のある日、編集長から「一高新聞」のコピーが添付されたメールが届く。

あまりにも原稿の遅いオレに、「母校の名所を訪ねてみろ」というのだ。もちろん催促だが、のほほんと生きているオレに、たまには人生を振り返ってみろというアドバイスなのかもしれない、などと能天気なことを考えながら、とにかく行ってみる。

平成四年の改築で当時とはずいぶん変わってしまったところもあるけれど、「二〇〇八年の甲府一高」を紹介する。あの頃を思い出してもらうことができるだろうか。

「日に新た」という校訓が由来する（らしい）「日新鐘」

昭和三年に甲府中学が現在地に移転したとき本館の屋上に設置され、改築時に、新装なった学舎の中庭アトリウムに移設された。現在は在校中たった一度卒業時にその鐘を鳴らすことができると言われているそうである。（写真1）

「賛天地之化育」およそ全ての物は天地自然の力により、人間はその力を賛助する。

やはり昭和三年の旧校舎完成時に時の江口校長が校舎正面に刻み、改築後も校舎正面に掲げられている。（写真2）

写真1

写真2

「BOYS BE AMBITIOUS」若者よ大いなる志を抱け。

札幌農学校でクラーク博士に教えを受けた七代校長大島先生から伝えられ、その石碑は改築後も本館の正面左に設置されている。（写真3）

「MENS SANA IN CORPORE SANO」健全なる身体に健全なる精神を。

今も青年の像とともに、体育館入口に刻まれている。（写真4）

写真 3

写真 4

「一高生という誇り」の原点なのかもしれない「名所」は今も我々の後輩達を見守っているようだ。

その日の一高は休日だったが、校庭からは春季県大会に備えて練習する野球部の元気な声が響いていた。

学び舎を後にし、近所をぶらぶらと歩いてみる。通称前店、横店。何故かアイスクリームを買った記憶が鮮明に残る。（写真5）

もう少し足をのばすと一高の守り神「おみさきさん」。甘酸っぱい思い出がよみがえる人もいるかしら。（写真6）

そして何処より（?）鳳華楼。この店の二階にいる時間のほうが長かったあいつに懐かしい一枚を。なにやら世間話をする声が暖簾越しに漏れてきていた。（写真7）

写真 7

写真 5

写真 6

山の手通りから母校を見る。（写真８）この道を何度往き、帰ったことだろう。

笑いながら泣いて歌ったあいつ、殴り合ったあいつ、いつも微笑んで見ていてくれたあいつ、疲れて立ち止まったオレの背中をそっと押してくれたあいつ、並んで寝転んで流れる雲を見ていたあいつ、父親みたいに頼もしいあいつ、母親みたいに本気で叱ったあいつ、彼等がまるでそこにいるように鮮やかに蘇る。

あの日教室の窓から飽きずに眺めていた空と同じように青い今日の空を見上げると、ふいに、生きていくことって楽しいじゃないか、人生は喜びなんだ、とそんなことを思う。

本当に大切なものは何処にあるのかわかった。「一高の名所」は鐘の音や石碑ではなく、ここで重ねた時間、ここで同じ時代を過ごした「友」のことだったんだと。

写真８

窓辺　その二

球児たちの夏

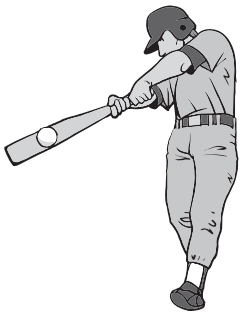
あの感動を今一度

井出　正博

高校を卒業して三八年、あの甲子園出場から四十年近く経過してもなおGOOD DAYSとなるとその時の思い出だろうか。大学を卒業して母校甲府一高野球部の監督を五年間勤め結婚し子供にも恵まれその子供も結婚して、これまでの人生を顧みてもたくさんのGOOD DAYSがあるのだが、強烈な印象として残っているのは甲子園出場した高校二年の夏の思い出である。

仕事でいろいろな人との出会いがあるが、高校野球の話題になり自分が甲子園出場したことを話すと一様に驚いて話が弾む。何も知らない女房からも「甲子園の話をしている時が一番いきいきしているね」と言われる。今思い出すと出場したその時の感動も大きかったが、その後の人生に与えた影響のほうがとても大きく、何物にも変えがたい経験をしたと実感している。

我々が出場してから我が母校も選手等も頑張っているのだが残念ながら甲子園への出場はない。選手たちはいつも甲子園を夢見て白球を追いかけているのだが、その夢の実現は本当に難しいものである。我々が出場した時は部員数に恵まれていた訳ではなく、わずかな一四名しかおらず三年生四名・二年生五名・一年生五名で一年生が入部するまでは、九人の部員で中身の濃い練習をしていた記憶がある。これからの選手たちに早く甲子園出場を実現して今度はアルプス席からあの四〇年前とは違った感動を味わいたいものだと願っている。



甲子園

望月　敏

○甲子園へのスタート

昭和四十三年一月、第五十回記念大会の甲子園出場を目指した甲府一高の野球部員は九名であった。この年の三月の高校受験は総合選抜制度が導入された年であった。選抜の相手校甲府南高校に硬式野球部がないため野球をめざす生徒はこの制度以外を受験するしかなく、結局四月入部した新球児は二名であった。池田イレブンで有名になった池田高校より前に部員数十一名の野球部であった。しかしこの数の部員では到底甲子園を目指すことなどできないことから、当時の校長先生自らが中学時代の野球経験者を勧誘し三名の部員が入部した。甲子園のベンチ入りちょうどの十四名で甲子園に向けてのスタートを切ったのは春季大会の直前であった。

○右打ちから左打ちへ

私といえば九名しか部員がいなかったことから当然一年生の秋季大会からレギュラーとして試合に出

場していた。守備はセンターを任せられていたのだが、打撃は到底レギュラーのもとはおぼつかない状況。高校二年の春季大会の一週間前　野球よる怪我の治療で東京の大学から甲府にもどっていた兄が、私の右打席のスイングを見て「うーん」とうなったまま。しばらくして「左でスイングしてみな」と言った。今では大リーグのイチロー、松井秀等右投げ左打ちは当たり前であるが、当時では珍しいことであった。一週間後の大会に向けて左打ちの猛特訓、試験でいえば一夜漬けのようなものである。ところが結果は、公式戦でほとんどヒットを打ったことない選手が左打にして一週間で四打数三安打。アマチュア野球人生の新しいスタートであった。

○そして甲子園

記念大会は一県一高が出場可能なため、各校が力を入れていた年であり、甲府一高の前評判はベスト八に入るかのチームであった。

今思えばポイントの試合は　三回戦の市川高校の五点差を逆転し、十対七で勝利した試合である。この試合が雨中の決勝　吉田高校戦　延長一四回一対〇の勝利につながった。そして甲子園　やはり当時では日本で一番広い球場は堂々としており、われわれ高校球児を暖かく迎えてくれる親父のような感じがした。

試合相手は島根の浜田高校であったが、残念ながら延長十回さよなら負けであった。二時間の試合は一瞬であったが思い出としては長い時間に今でも感じる。

その後大学・社会人野球とプレイできたのだが甲子園出場がどんなに自信になったか計り知れない。

私と甲子園

露木　和雄

かつて、一高の新聞部の友人が「皆が甲子園、甲子園て言うからどんな所かと期待して行ったら、何のことはない、ただの、でかい野球場じゃん。」と言っていたことを懐かしく思い出す。

そんな甲子園大会に後輩の皆が出場することを僕が心底願うようになったのも、実は最近のことである。人生の半分以上を生きてきてようやくその意味が少しわかるようになったせいかもしれない。生理的な快･不快、経済合理性や職業人としてのプロ意識、他人から賞讃されたいといった立身・名誉欲、地域や組織からの社会的要請、父母や妻・恋人の期待に答えたいとか、家族を養う為といった意識・無意識の動機からではなく、ただ純粋にその場所でこのチームメイトと野球をやりたいという思いだけで甲子園を目指し精神と肉体と技術を鍛錬し夢を追いかけていたあの頃の自分に今、憧憬と些かの妬みを感じている。近年、甲子園大会で「野球が出来る幸せを家族や地域・関係者に感謝する。」という意味の選手宣誓をよく聞くが、当時の僕は全くそんなことは考えていなかった。ただただ、甲子園で野球が出来ることが嬉しかった。しかし、今、この宣誓の意味がよくわかる。自分一人の力で甲子園に行けたのではなく、家族や同級生、学校関係者やＯＢが大いなる思いで支えてくれたからこそ達成されたと確信する。現役一高野球部の皆さんは、今の僕と同じくその人生の中間点を過ぎた時にしみじみ思い返すだろう。一高で野球をやっていた頃の自分がいかに純粋で、また、その後の人生を含めても何事にも代

え難い崇高な時を過ごしていたことを。そして、もしそれが、甲子園出場の思い出とつながれば、今の僕がそうであるように、まさに希有な至福の境地となる。後輩の生徒諸君、甲子園大会に出場し、全国制覇を果たして頂きたい。友を信じること、そして忍耐と感謝と他者へのおもいやりという人生に大切なものを僕に教えてくれた甲子園は高校生の君たちが全知を傾注するだけの価値があるのだから。

窓辺　その三

学び舎の日々

音楽との出会い

水原　妙子

高校でオーケストラ部のある学校は少ないのですが私は幸せなことに、そこで音楽の本当の楽しさを知り私の人生に大きな楽しみを与えてもらいました。

今の私に音楽の無い生活は考えられませんが、音楽との出会いは甲府一高オーケストラ部です。子供の頃からヴァイオリンを習っていましたので何となく入ったのですが、そこで一人で弾くのとは全く違うアンサンブルとして作り上げる音楽に感動し、音楽ってこんなにも楽しく素晴らしいものだったんだ、と初めて感じました。その時の感動は今でもはっきり覚えています。

合奏することがもう本当に楽しくて楽しくて夢中で練習し、家に帰ってからもメロディーが頭の中をグルグルまわっていて楽譜を見つめながらいつまでも余韻にひたっていたものでした。

最初に練習したのはバッハの組曲二番とハイドンの交響曲一〇一番「時計」。

この二曲は私にとって音楽との感動的な出会いとなった特別のものですから、今でもこの曲を聴く度に風通しが悪くとても暑かった音楽室での練習光景が鮮明に目に浮かび当時の気持ちが甦ってワクワクしてきます。

現在合奏したりコンサートに行ったりCDを聴いたりと音楽は私の生活の一部になっています。これまでにどれだけ多くの感動、喜び、エネルギーを音楽からもらったことでしょう。

今私が元気で楽しく過ごせている原点は甲府一高オーケストラ部。"MY GOOD DAYS" です。

青春の歌

水出みよ子

○青春賛歌―我が二年九組

二年九組は不思議なクラスだった。いろんな個性が百花繚乱し、しかも、それが見事に収束していた。

九組には一冊のnoteがあった。クラス内を巡り、みんなが思いのたけを書き込むnote。名づけて「ペンペン草」。あのnoteは、誰が持っているのだろう。青春の青さと熱で綴られ、一人一人の思いがリレーされたnote。不思議なことに、「ペンペン草」の行方は誰も知らない。

私が「ペンペン草」に綴った文字は、感傷に満ちた世間知らずの文字たちだったが、いつもそのあとに、あたたかい言葉が続いていた。時には厳しく、現実を突きつけられた。その言葉に一喜一憂し、恋を夢見、未来を信じていた。一つのnoteを介して、私たちはつながっていた。本当に不思議な、癒しの空間だった。

九組が解散する日、一人一人に宛てて、全員がメッセージを書いた。まるで、これきり、二度と会えないのでは、と思うほど、別れるのが寂しかった。九組を卒業したとき、私は一高を卒業したのかもしれない。九組のみんなが大好きだった。ささいなことに喜び、心をつなげたあの一年間が、今も昔も、私の―そして私たちのGOOD DAYSだった。

○青春応援歌―我が教え子たち

大間土手に、夕日を受けた富士のシルエットがくっきりそびえる。埼玉の富士はあまりに小さくて嫌いだが、この大間土手から見る冬の富士は私の心をとらえて離さない。清少納言の「秋は夕暮れ。夕日のさして、山の端いと近う見えたるに……」を髣髴とさせる。この夕焼けと富士を見ながら、教え子たちの青春に寄り添う。一つのことに夢中になり、何もかも忘れて取り組む彼らの、きらきら輝く目を見ていると、心だけは青春時代にもどる。

小さな心に抱えきれないほどの不安と憤りを持って、暗い眼をした子。たくさんたくさん話しかける。スポーツに全身で打ち込んでいる子。限りない才能を持って、音楽や学問に打ち込んでいる子。手放しで褒めたたえる。この子達の未来に、私が少しでも関われることがうれしい。生徒と共に泣き、笑い、怒り、喜ぶ。これが私のGOOD DAYS。

「がんばれ！がんばれ！私はここにいて、いつもみんなを応援してるよ。」卒業のメッセージに必ずこう書く。二年九組の最後のメッセージのように。

窓辺　その四

恩師のまなざし

憧れの「甲中生」そして「一高生」

加藤　正明　先生

私の生れは山梨の峡東地区です。少年の頃、村から甲府中学に通う学生さんには特別な存在感があった。古くは塩山近辺から甲府まで歩いて通う人もあったという。昔は甲府中学はお城の中にあったので、私達のところからは一六キロくらいの距離であった。地域には日川中学があり、普通は「日中生」が多かった。それ故、甲府まで出かけて勉強しようという若者を畏敬の念をもって眺めた。白線のついた帽子姿は又評判をたかめたものだった。

甲府中学には県下の俊秀が集まり、その多くが山梨を越えて、国の中央、世界で活躍する人材が育っていった。日川は逆に二割位が外に飛び出していったが多くは地域に残り、山梨の地を支える力になったものである。

少年期「甲中」に憧れたものでしたが、戦後の制度改革で新制中学、学区制により地域の高校に進んだ。それは又それで素晴らしいことであった。やがて教員になり、日川高校に勤務し、突然「甲府一高」に転勤となった。おどろきもしたが、幼い頃ある思いを抱いた学校での生活に新鮮な喜びを感じた。

予想以上に自由で活きいきとしそしてちょっぴり生意気な一高生の生活に触れ、又その多彩な才能、能力に接し感動もしうれしい日々を味あわせてもらいました。私の教員としての生涯の中できわめて尊い宝物とさせていただいています。

甲府中学・高校の益々のご盛栄と同窓生の皆様のご健勝を心から祈念申し上げます。

きらきらの日々

朝倉　泰子　先生

昭和四三年三月下旬、「四月一日には必ず登校してください」との連絡を受け、急遽新婚旅行の予定を取り止めて、三月三一日に結婚式を済ませ、翌日、初めて甲府一高の門をくぐりました。保健体育と家庭科以外の普通教科初の女性教員として採用されたものの、どのように受け入れてもらえるのか不安と期待に胸ドキドキでした。男女クラスは東京の高校で慣れていましたので、生徒の皆さんの学力の高さに嬉しい驚きはあっても何とか対応出来たのですが、黒い詰襟の生徒が五〇人余顔を並べている男子クラスの教室のドアを開けた時には、心底、圧倒されました。でも、時に新婚の新任教員をからかおうと知恵を絞って教卓に置かれた物に赤面したり、鋭い質問にたじたじとなりながらも、手応えのある毎日を楽しめるようになりました。下宿生活をしている生徒が「晩飯を食わせてくれる？」と訪ねてくれたりする時、自分が甲府の地に根を下ろしつつある

と実感したものでした。

四四年秋、息子が生れ、産休明けの保育を共立病院に予約した頃、夫の転勤の話があり、結局復帰しないまま辞職。東京に戻り、四七年娘を授かりました。その子供たちも結婚し、私は四歳、二歳、三ヵ月の孫のおばあちゃんになりました。今振り返ってみると、あの甲府一高での日々がきらきら輝いています。

窓辺　その五

美しい故郷

「ふるさと」と「東京同窓会」

百瀬　良彦

ふるさとは遠きにありて思ふもの
そして悲しくうたふもの
よしや
うらぶれて異土の乞食となるとても
帰るところにあるまじや
ひとり都のゆふぐれに
ふるさとおもひ涙ぐむ
そのこころもて
遠きみやこにかへらばや
遠きみやこにかへらばや

私達は、多感な青春時代を甲府一高の学舎で共に過ごし、「Boys be Ambitious！」と刻まれた、石橋湛山の書による石碑に見送られて、巣立ってきた。時代により世相は異なり、在学中の思い出は人それぞれでも、通学時に仰ぎ見た甲斐駒ケ岳の雄姿、春は花咲き、夏茂り、秋は紅葉の錦をなし、冬は雪降る校庭の思い出も、共通ではないだろうか。そして更に、私達は、ふるさとを出、東京に生活の場を移したという共通の経歴を持っている。

私は、犀星のこの詩に、ふるさとを離れ都に出た私のような者の屈折した何とも言い難い思いを感ぜざるを得ない。私達は、いや少なくとも私においては、それが何なのか明確でなかったとしても、漠然とした志に似たものを持って故郷を出てきた。そして、故郷を離れた生活の中で、多少なりとも蹉跌も経験した。そういう時、「郷愁」は許されざるものと思いつつも、ふるさとの思い出はいつも心の糧であった。

高校時代、勉強そっちのけでクラブ活動をはじめやりたいことを自由にやり、青春を謳歌し、良い日々を送った。そんなふるさとでのGOOD DAYS、私と同様、ふるさとに対する思いを抱いていたかも知れない仲間達と、一堂に会し、共通のイメージで楽しく語り合える場が東京にある。「甲府中学・甲府一高東京同窓会」そして「四十五年卒の在京同窓会よこの会」は、今や私の宝物となっている。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

故郷で懐かしいもの探し

田村　俊夫

ＪＲ中央線の小さな駅の前で、土地の奥さんに駅の昔話を聞いていた。

取材の終わり頃、奥さんは私の顔を長い時間をかけて、じーっと、ちっとも遠慮せずに見つめた。

そして言った。「テレビで見て、もっと若い人かと思っていたけど、帽子は白髪隠しだったんですね！」うーむ。ご指摘の通りなのだが、こんな風に、もはや若くないリポーター「旅人」役の私が、テレビ山梨の夕方定時ローカルニュース「ニュースの星」（月～金一八時一六分）に多い時で週に一回ほど登場している。

大抵は私とカメラマンのペアによる取材で、テーマは鉄道や旧街道、古い昔町の集落、郷土の歴史な

ど「失われつつある、懐かしいもの探し」が主だが、最近はこれに加え、山梨にも数多い「限界集落」、つまり極端な過疎に見舞われている山村の風景についても、定期的に取材、放映している。

一高時代、私は演劇部に所属していた。学校では好きな科目以外はちっとも勉強せず、身の程知らずにも本気で「俳優になりたい」などと思っていた時期もあったのだが、今、こんな中年リポーターをやっていることに内心多少の戸惑いがある。

しかしジャーナリズムの仕事は、演劇の世界と比較した場合、「真実」と「虚構」のちがいこそあれ、見ているものに「知って欲しい何か」を伝えるための手法に共通点が多い。

今伝えるべきは、今、記録として残すべきは、ひょとしたら、いつかは変わってしまうかもしれない、ふるさと山梨の美しい自然。そしてそこで暮らす笑顔の素敵な人々のこと。

そう念じながら、ニュースを探し回る日々が続く。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

百年、二百年先を夢見て

新倉美智子・佐々木まちこ

○天然記念物のハリモミ

私たちの故郷、富士山の麓の溶岩台地には、世界に誇る貴重な財産があります。それは、マツ科トウヒ属の一種、ハリモミの純林です。ハリモミはクリスマスツリーでお馴染みのドイツトウヒの仲間で、日本固有種です。樹齢二・三〇〇年で約三〇㍍の高さにまで成長する大型の裸子植物。葉の先が針のようにとがっていて、触ると痛いことからハリモミという和名がつけられたのでしょう。日本では、中部以南、九州までの温帯地域、標高四〇〇～九〇〇㍍の山中に、まばらに分布しています。ところが、山中湖村、鷹円尾溶岩流の上には、ハリモミの大木が密に林立し、純林を形成しているのです。大正五年、屋久島の縄文杉を発見したことで有名なウィルソン博士が、世界でも珍しい貴重な純林であることに注目、世界に紹介されました。その後、一九六三年に、国の天然記念物に指定されています。

○絶滅の危機から再生への試み

ところが、厳しい環境に耐えて三〇〇年余りの歴史を刻んできた純林は、この、二、三〇年の間に急速に立ち枯れが進み、樹勢の衰えが著しく、このままでは、絶滅の危機に瀕することが憂慮されていました。そこで、ここ数年、村、県、国が、純林の保護、再生に力を入れ、さまざまな試みがなされていたのです。

ふるさとを離れて幾星霜、地元では、テレビや新聞等で何度か報道されていたにもかかわらず、知らずに過ごしていた私たちが、このことを知ったのは、昨年の春、恩師である、鈴木章方先生（山梨大学生物学教室教授、三五年甲府一高卒）の退官をお祝いしようと、久しぶりに大学を訪ねたときのことでした。山中湖村が絶滅を防ぐために、多額の費用と労力をかけて試みた、接木苗（ドイツトウヒを台木にハリモミの穂木を接いだ苗）による再生事業の結果はおもわしくないものでした。そこで、鈴木教授と生物学教室の学生たちは、枯れる原因の調査から始めて、ハリモミの純林再生に取り組み、五年間の地道な調査・研究は、実生苗の発芽・育成の成功という大きな成果をあげていたのでした。

○種子から芽生えた実生苗

二〇〇一年の春、鈴木教授は何回目かのハリモミ調査中、はるか高い枝に緑色の球果（まつかさ）がいくつも着いているのを偶然発見、種子が熟す一〇月半ばまで待ってクレーン車を動員し、二五〇個の球果を採取、約五万粒の種子を収穫しました。その種子を一粒ずつ、光・温度・土壌……さまざまな条件下で実験を重ね、発芽させることに成功し、その後何年もかけて育苗し、順調に生育している苗は一万五千本にもなりました。

大学の農場で、私たちは、三〇㌢位まで育った苗を見せていただき、これまでのご苦労を思い、この苗たちが、これから一〇年、二〇年後、とすくすく育ってほしいと願わずにはいられませんでした。（写真1）

写真1

○退官記念の植樹祭

退官される教授は、例年ですと、最終講義のあと、記念のパーティーを開くのが慣例ですが、鈴木教授はそれらを固辞され、その代わりに、ハリモミの苗木の植樹祭をご自身で企画されました。卒業生や、学生や、関係者を招待して、みんなでお祭りをしよう、と希望されたのです。

二〇〇七年六月一〇日、山中湖村のホテルマウント富士に、国（林野庁）、県（林務部）、村（山中湖村）、の代表、山梨大学学長、大学の先生、学生、卒業生、研究に協力してくださった方々、家族や友

人たち……約三〇〇人が集いました。小雨の降る中でグループに分かれて三〇ケ所に記念の植樹をした後、実生苗の育成成功によって、純林復活の希望が生まれたことを、みんなで祝いました。（写真2）

○「山中湖村のハリモミを守る会」発足

祝宴の席上、これから、ハリモミの苗木が順調に育つことを見守り、また、こどもや孫たちの世代まで、末永く純林の再生を見届けていくために〝ハリモミを守る会をたちあげよう……〟という提案が、生物学教室の有志から出されました。

生物学教室の同窓生が中心となり、今後、ハリモミ観察ハイキング、撮影会など大切な苗木の成長を見守ることを目的とした活動を計画、実行することに、出席者の賛同を得て、「山中湖村のハリモミを守る会」が、発足いたしました。会長を、生物学教室七一年卒の雨宮一夫さんが引き受けてくださいました。

○ハリモミ苗木の現状と課題

実は、苗木の多くは、鷹円尾台地にはいまだに植えることができないままなのです。植樹祭で記念に植えたホテルの周辺と、三島由紀夫文学館前の土地と、演習場の奥の、誰もがいつでも入ることができない場所に植えることができただけなのです。それらの苗たちは、どれも順調に根付いています。昨夏、ことのほか厳しい甲府盆地の暑さを、植樹を待つ苗木が、なんとか耐えて乗り切ったのですが、今年もまた、暑い夏がやってきます。

とても心配です。長年の調査・研究のたまものである苗木を、ふるさとに早く植えてやりたい。でも、今、難しい問題があります。開発か、自然保護か？一番単純に言えばそういうことです。

目先の利益と、こどもや孫たちの未来。いったん失ったら、とりかえすことのできないかけがえのないもの。私たちのふるさとの自然を守るために、一刻も早くハリモミを還してやりたいのです。ハリモミはとても成長の遅い木で、初めの一・五メートル位伸びるのに、二、三十年かかります。だから私たちの代だけでは、間に合わない。こどもや、孫の世代に引き継いで見守っていくことが必要です。

私たちの課題は、山中湖村の人々にハリモミの大切さを知ってもらうこと。そして、……木を植えること〟です。一〇〇年後、二〇〇年後を夢見てハリモミは美しい木です。元通り生い茂ったハリモミの純林を従えて、聳える富士の雄姿。

孫や、そのまた孫たちが、ふるさとの美しい風景を見届ける日を夢見て、時空を超えたGOOD DAYSに思いを馳せているのです。

写真2

窓辺　その六

遥かな地より

札幌に暮らして

和田　芳子

私が初めて札幌を訪れたのは大学二年の夏休み、村上真理子さんと二人で、当時流行のカニ族で道北の礼文島を訪れた時でした。途中で寄った札幌は甲府と比べると大都会で、特に藻岩山からの町並みがとても綺麗だった事を覚えています。四角いビルと、煙突の付いた色とりどりの三角屋根の家やいろんな形のトタン屋根の家。まるで図画工作で作ったような町でした。

その後縁あって札幌出身の人と知り合い、札幌に嫁いできました。住んでみて一番感じたことは四季の移ろいがハッキリしている事。我が家は発寒川という川の近くにあり、その横に小さな山があります。その名も無い山の四季の変化は見事です。

春は雪解けと共に新芽が出て、白い辛夷やピンクの山桜が咲き始めます。発寒川のサイクリングロードには歩行者用の道もあり、桜並木が続いています。五月になると見る見るうちに若葉が茂り、山全体が青々としてこんもりしてきます。桜は満開となり、発寒川は手稲山からの雪解け水でゴーゴーと勢いを増して流れています。

夏はその川で子供たちが釣をしたり、泳いだり、また川辺ではバーベキューが盛んです。あの有名なジンギスカンです。

秋は山が赤や黄色に紅葉して、まさしく燃えてい

るようです。一日の気温差が大きいので鮮やかに紅葉します。街路樹もななかまどの赤と銀杏の黄色とカラフルです。

葉が落ちて冬になると雪が積もった白い山がまるで枯れ木の林の様です。見通しがいいので、亡くなった義母は二階の窓から山の上のキタキツネが見えたと言っていました。

そして春になると、まるで生き返ったように青々とした山になるのです。山も生きているんだなあと実感します。早いもので三一年余り、自然に恵まれた札幌の町が大好きです。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

英国暮らし

中内　和美

英国に移り住んで早一〇年、田舎暮らしも丸七年になります。日本に居た時には考えもしなかった自然と共存の毎日です。

今住んでいるのは一五〇年前の農家の納屋を二〇〇〇年に改装した、二階の太く大きな剥き出しの梁と天窓が特徴の家です。畑の真ん中の少し高台に有り、一キロ程先のハムレット（小集落）やその先の尖った塔の教会の周りに広がるレンガ色の町並、さらに先の町外れの道を走る車まで見渡せ、庭には朝夕ピーターラビットそっくりな野兎が走り、リスや小形の鹿、時には狐、イタチが出没し、駒鳥やキツツキ、白フクロウなど野鳥や野生動物が一杯で、冬になるとちょっと困りますが絵本のブランブリーヘッジのモデルの野鼠が侵入する事も有ります。こちらに来てから満天の星や満月の明るさ、真っ暗闇の夜も経験しました。でも何より好きなのは三六〇度見渡せるターナーの描く空そのものと言えるような昼間の広い空です。一日に四季があると言われるように刻々と変化し、あの雲の下、あそこから雨とか、ミルクを流したような霧が出たり、大風が吹き荒れたり、雨が降ってもすぐ晴れたりするので完全な形の二重の虹も見られ、日がな一日眺めていても飽きる事はありません。

緯度が高いので冬は八時頃やっと明るくなり四時にはとっぷり暮れて、湿度が高いので静電気が起きる事も無く、エバーグリーンといわれる冬でも緑の芝や牧草に一歩足を踏み入れるとグチャグチャな泥んこにズボッと入ってしまいます。メキシコ湾流のおかげで雪は年に二、三度、積もっても三〇センチ程度です。夏は四時頃から一〇時まで明るく、その為花火は冬の風物で、湿度が低いので日差しは強いのに木陰に入ると涼しく爽やかで快適です。

田舎故かお国柄か、突然の停電や電話インターネットが三週間も繋がらない等不便と思ったり戸惑う事も多々有りましたが　今では郷に入れば郷に従え、何が起きてもそんなものねと慌てずのんびり暮らしています。

一方で、無くなったとはいえ根底にはまだ体格や話す言葉や住む地域でわかる階級が存在し、昔から多くの移民や難民の受け入れもしてきたからでしょうか、すべての基本にはまず個人有りきという発想が有り、考え方も働き方もそれぞれ違う個人がどのようにしたら平等の恩恵を受けて生きていけるかという考えから成る社会は私には理路整然として賛同できるものに思えます。食料、書籍、一二歳以下の子供服は対象外ですが、高税率の為物価は高く、課税対象所得最低額は低いのですが、最低限のルールを守れば自由にそれぞれ自分なりの生き方や楽しみ方で暮らしていけ、貧富に関係なくみんな楽しく生きる事が上手です。

日本を離れて暮らしてみて初めて自国を意識し、日本の良さがわかり、そこで当然の事のように無意識で享受してきた幸せや安心便利さを実感し、この国に生活して初めて自分で考え自分で決める、自分の事は自分の責任、人に頼らず自分から行動する生き方を知り、どちらがいいとか悪いとかではなく、両方を知り得る経験ができた事は私の人生にとって何より大きな意味のある幸せな事だと確信しています。

そして故郷で私の帰りを待つ老いた両親に、遠く離れた身勝手をもう暫く続けるわがままを詫びながら、羊や馬や牛が草を食むなだらかな起伏の牧草地の合間を縫う様に続くワインディングロードを　今日ものんびり助手席に乗って走ります。

窓辺　その七

星を仰いで

ALWAYS GOOD DAYS

齋藤　和子

去年の夏、所属する合唱団のドイツ演奏旅行に参加し、アイゼナハとワイマールの教会で歌う機会を与えられた。私はもちろん合唱団員としてだったが、二男がソリストの一人として前に立って歌う姿を見ながら、後ろで合唱団員として参加できたことはこの上ない喜びだった。

彼がピアノを習い始めたのは高一の時。テクノをやりたいと言っていたが、結果的には父親と同じ声楽家の道を歩み始めたのは、高三になる直前に父親が亡くなったことにあるのかもしれない。高三からの遅いスタートで人より時間はかかっているが、昨年大学を卒業し声楽家として歩みだそうとしている彼を見ていると、いろいろな思いが溢れて思わず涙が出てしまう。

この原稿を書こうとしている時に、合唱団の方が亡くなった。八七歳だった。年齢的には仕方がないと思う反面、二ヶ月前まで一緒に歌っていた仲間、それもこんなふうに年を重ねたいと思っていた方だっただけにショックだった。八七歳で透明なソプラノの声で歌えることだけでも驚異だったが、演奏会では殆ど暗譜で歌う程いつも努力の人、Yさんは私の目標だった。

最近、仕事のことで眠れなくなることもある。「あれがやってなかった！」という夢を見て朝目覚めることもある。仕事は好きだが、ストレスはある。週に二日、合唱の練習に行き、時間がある時はコンサートに行くという生活を送ることでバランスを取っているようだ。ここに至るまでは、そして今も問題はいろいろある。しかし今この時が私にとってグッドデイだし、亡くなったYさんのような素敵な年の取り方ができるように目標を持っていれば、これからもずっとグッドデイなのかなと思う。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

胡蝶の夢―三枝先生、再び……

岩崎　政彦

二枚の絵がある。

一枚は、腕枕をして眠っている男の姿とその頭上をひらひらと飛ぶ蝶の姿が端正に描かれていて、絵の周囲には中国の思想家荘子の『胡蝶の夢』の文章が独特の書体で書かれている。繊細で几帳面な性格が感じられる。もう一枚もほぼ同じ構図だが、筆が奔放にはしり、大胆でダイナミックである。

一九九四年（平成六）に山梨県立美術館で開催された『三枝茂雄展』の図録に見開きで掲載されているこの二枚の絵を見るたび、私はどちらの絵が作者の真の姿なのだろうかと考え込んでしまう。

この絵の作者三枝茂雄先生は、六五年四月に甲府一高に赴任し、七三年に画業に専念するために退職されている。図録によると、『胡蝶の夢』の一枚は一高赴任直後の六六年に描かれ、もう一枚は退職直後の七四年の展覧会に出展されたものだという。

個性的な先生が多かった甲府一高の中でも、美術を教えていた三枝先生のことは、今でも憶えている方が多いのではないかと思う。私自身、直接教わったことはないのだが、非常に印象が強く、六年前の同窓会本会の当番幹事のとき記念誌に文章を掲載させていただいた。それ以来、折に触れ図録を眺めては、先生は何を考えていたのだろう？　先生にとってのGOOD DAYSとは？　と想像をめぐらせている。

『胡蝶の夢』は、荘子が蝶になった夢を見たのか、蝶が荘子になった夢を見たのかわからないという話だが、この絵を見て私は想像する。教師として生きる自分と、芸術家として絵や書を書いている自分と、どちらが本当の自分なのかと問いかけている当時の三枝先生の姿を……。

やがて先生は蝶のように羽ばたいて、学校をやめ、画業に専念することを決意する。五三歳のときだという。それから平成元年に亡くなるまで、すばらしい作品を残されたと聞く。没後二十年たち、現代の視点で「三枝茂雄」の芸術家としての仕事―その作品を見てみたいとしきりに思うこのごろである。

わが青春のストラスブール

新藤　茂

「よかったらフランスに来ないか」、研究室でボスと上手くいかずにふて腐れていた僕に声をかけてくれたのは、そこに長期滞在で来ていたフランス人のエメだった。当時の僕は既に結婚し、女房に養ってもらっていた気ままな大学院生の身、「行く」と即答した。仏文卒だった女房も会社を辞めて一緒についてくると言う。だとすると現地の大学から僕に支払われるわずかばかりの奨学金で夫婦二人の生活を支えなければならない。フランス語だって女房は大学で勉強したが、僕はアテネフランセに一ヶ月通っただけの付け焼刃で挨拶すらも満足にできない。それでも何とかなるさ、半ば開き直った気持ちでフランスのストラスブールの飛行場に着いたのは僕が二六才の春、エメ夫妻が満面の笑みで迎えに来てくれた。アルザス地方の抜けるような青空に浮かぶ彼らの笑顔がまぶしかった。

アルザスの州都であるストラスブールは中世の面影の残る大きな大学の町。「ここだったら家賃を払わなくて済むし家具も調度品も一通り揃っている。」、エメにそう言われて通されたのは地質学研究所と書かれた石造りの大きなお城みたいな大学の建物の一室。確かにタダでではあるし、僕の研究室にも近いし、安全だし、コンシエルジュまでいてくれる。でも大学の研究所の「中に」住むの？それに、僕は地質学をやっているわけじゃない。そうはいっても生きていくためには多少の居心地の悪さは我慢。女房は不満だったようだが昼間は僕は研究室に行き、彼女は大学の授業を聴講させてもらい、食事は学生食堂で済ませ、その部屋は夜寝るだけという生活には直ぐに慣れた。ワインとビールの産地であるアルザスはアルコールに浸るには最適の所、当時の僕らに金はなかったが自由はあふれていた。僕はヒゲを伸ばして過去のしがらみを断ち切れた気持ちになった。もっとも、僕のヒゲ面はパスポートの写真と違いすぎて国境を越えるたびに入念に調べられたが……。現地で僕が勤めた研究室は研究員などが一〇人以上いる大世帯。僕の身分は学生ではあったが、学位論文準備中の一人前の研究者として取り計らってもらえた。同僚は自由闊達で仕事だけでなく遊びもスケールが違う。オペラの観劇にパーティーにと、彼らの社交にも触れることが出来た。長期バカンスには、エメ夫妻と彼らの子供と僕ら二人の合わせて五人でギリシャで一ヶ月以上に及ぶキャンピング生活を送り、僕らはエーゲ海を泳ぎまくった。

結局、その時はストラスブールに一年半滞在した。帰国後に僕は何とか日本での職を見つけたが、そこのボスとも矢張り反りが合わない。少しでも逃げようと、二人の子供、上の四歳の手を引き下の一歳を背負って再びアルザスの地を踏んだのはそれから五年後の秋。場所はアルザス南部の工業都市のミュールーズで、ストラスブールでの同僚の一人がそこの新しい大学に研究室を開いており、彼に半年間の客員ポストをあてがってもらった。日本では飲み会に明け暮れ、子供たちにほとんど接しない僕だったが、ミュールーズではたっぷり子供と向かい合う時間があった。「前回がストラスブールで今回がミュールーズと、お前はアルザス大学巡りをしているのか」と冷やかされたが、比べてみるとストラスブールの方があらゆる面で快適であった。エメに頼んでストラスブールの大学に半年間の客員ポストを探してもらい、再度滞在することができたのは更にその五年後のことだった。小学生になっていた僕の子供達は現地の学校のインターナショナルクラスに入れた。中古の車も手に入れ、週末やバカンスはフランスをドライブと、小市民的生活の真似事も経験した。一方、エメはというと、同じ大学の研究者で快活で美人の奥さんと離婚して、新しい奥さんとの間に子供が生まれていた。

二度目のストラスブールから帰国して数ヶ月で僕の女房が急病で緊急入院、ガンだった。それでも何とか持ち直した五年後、今度は僕が日本から滞在費を調達して三度目のストラスブールに半年間の単身赴任をした。以前に僕がいた研究室は「IPCMS（ストラスブール物質物理化学研究所）」という名称の研究所に統合再編され、郊外の広大な敷地の一角の大きな近代的な建物に移っていた。かつての同僚がそのボスになっていたが、何故かよそよそしく感じられた。そりゃそうだ、現実逃避とノスタルジアに浸る異邦人に付き合うほど彼らは暇じゃない。もっともエメは相変わらず親切に付き合ってはくれたが、彼自身が新しい環境に馴染めないようだった。その間、僕の女房は病気をおして、学校を休ませた子供たちを引き連れて、ストラスブールに僕を訪ねてきた。実は、彼女を診ていた医者から、今のうちに海外でもどこでも彼女が好きな所に連れて行ってやれと耳打ちされていた。なに、僕が連れて行かなくてもストラスブールなら本人が自力でやって来る。

その数年後、入退院を繰り返していた僕の女房が逝ってしまったのは、僕らが最初にストラスブールの飛行場に降り立った時から二一年目の春だった。そしてOUR GOOD DAYSも彼女と共にどこか遠い所に行ってしまった。

窓辺　その八

明日への思い

「韻松亭」にて あの感激が忘れられなくて

小澤久美子

正月早々、私は上野の杜の中にある韻松亭の前庭に面したテーブルに向かい、昼食の膳が運ばれるのを待っていた。総ガラス張りの大きな窓の遥か下方にいくつかのビルが目に入り、こちら側の方がちょっと高台にあることが伺われた。正月飾りが施された室内から、庭に目をやると正面に四～五㍍程の高さの柚の木があり、鈴生りに黄色の実を付けている。この風情が忘れられず、再び来てしまった。

昨年の春、友人に誘われるままブリヂストン美術館、黒田清輝記念館を訪ね絵画鑑賞の後、創業明治八年、日本料理の老舗「韻松亭」での食事を楽しんだ。閑静な庭には、時折野鳥が飛んできては木の枝に止まり囀り、桜の古木からはヒラリヒラリと薄紅色の花弁が舞い落ちていた。かつてオーナーでもあった横山大観も、この趣深い景色には大いに感嘆し、愛でたであろうと思いを巡らせ、深い感動で私の心は満たされたのだった。また、今回の華やいだ彩りの正月の膳はもちろんだが、前回の湯葉、豆腐など豆づくしの膳もヘルシーというだけでなく、細部にわたり心のこもった納得のいく味わいであり、それを心いくまで堪能した。

黒田清輝の作品は、いつも新鮮な感動を与えてくれる。特に「湖畔にて」の気品に溢れた麗人の姿は、私の心を捕らえてしばらくは離れようとしない。

絵画にしても料理にしても「本物」は、素晴らしい。今年もグレードの高い「何か」との出会いを心より期待しつつ、それを消化し得る「私」を目指し、励みたいと思う。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

現在価値（N.P.V）の棚卸し……これからが私のグッドデイ

加藤　和之

先日外国の方と久しぶりに会話する機会を得た際、自分の語学力の著しい劣化に直面し、愕然としてしまった。延べ十五年も海外勤務をし、嘗ては特殊案件の処理をめぐり外銀のオフィサーや外国人弁護士連中と丁々発止をやってきたという自負は砕け散り、汗顔の恥じらいだけが残った。自信喪失の日々を送っていた折り、中学の美術の時間に習った《十二色環》―十二純色の明度と彩度を縦と横に立体表現した樹木型の柱―が脳裏をよぎった。「あの頃の自分」は明度・彩度ともに高く、みずみずしく活き活きとしていたのに、現在の自分は加齢とともに明度も彩度も劣化している一方で、厭らしいプライドだけが生き残っている。嘗て、特殊案件の処理を議論する銀行団コンフェレンスの場でNET PRESENT VALUE（N.P.V）という言葉が頻繁に使われたが、あれから二十年を経た現在　自分自身のN.P.Vはどうなのかと省みた時、冒頭の一件からも明らかなように、それ相応の実力が伴わない限り昔日の履歴は単に履歴であって私の現在価値とは無

縁であると思い知らされた。只管恥じ入っていても埒はあかないので、過去の履歴から資産として残存価値のあるものを洗い出すことにした。即ち、私自身の棚卸である。五十余年に亘って蓄積されてきたものが必ずある筈、ただ錆ついて輝きを失っているだけのものが必ずある筈と信じて、もう一度チャレンジしようと思い至った今日この頃が私の本当のグッドデイかもしれないと思っている。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

私は今日まで生きてきました

吉田　敏彦

精子の泳ぐ様、をテレビで見た。どの精子も「可能性」を秘めてひしめいている。しかし結果としてはそのうちの一匹だけがゴールに到達する。これは何の比喩だろう。ゴールに到達する、とはどういうことか、到達できない、とはどういうことか。いや、それともこれは比喩なのだろうか。

親の家業を破壊し、従業員や取引先に迷惑をかけた。七十を越した老母は各地を転々とした。二歳の長女を抱える女房に夜逃げ同然の転居を強いた。生きるために塾の講師となった。……五十台後半を迎える私の履歴である。

「私は今日まで生きてきました。」という歌がある。結びは「そしていま、私は思っています。明日からもこうして生きていくだろうと。」だったか。恥多き人生を送ってきた。若い時、「それだけは御免だ。」と思っていたような事態も数々引き起こしている。

人生を振り返れない。ローンも一杯残っており、娘二人もまだ大学生で振り返るどころではない、という意味で。だが、振り返ったり、中間決算の形で括るべきものが人生ではないのかも、という意味でも、そうだ。

一匹だけの「勝ち組」の精子、になりたい欲求は（実現しなかっただけで）確かにある。さりとて、残りの人生で「勝ち組」になれる可能性がある、などと考えるのも荒唐無稽この上ない。結局、「明日からもこうして生きていくだろう」としか言えまい。では私の人生とはなにか。

精子の群泳する姿でもう一つ想起するイメージ。数百人から千人以上が一斉に浜から泳ぎ出すトライアスロンの第一種目、水泳だ。一日がかりのレースだが、リタイアせずに規定時間内に終了すればみな（つまり一位限定の呼称ではなく）、「アイアンマン」となる。

「私は今日まで生きてき」たし、「明日からもこうして生きて」いくだろう。ついに一匹の「勝ち組」の精子となることはないが。

……リタイアせず、完走することなら、わたしにも出来るかもしれない。

旅を終えて自らの窓辺に戻ったとき、たった今見てきたばかりの風景が幾重にも幾重にも、重なって、大きな光となってきらきらと私の窓辺を照らしています。今まで見えなかった、見ようとしなかった、見るべき大事なものが、目の前に広がって明るく照らし出されているように感じます。時間も空間も飛び越えて、窓辺に光を運び、GOOD DAYSの在処を教えてくれるこの糸をこれからも大切にしようと思うのです。

（森田ひとみ）

よこの会より

○よこの会のなりたち

よこの会常任幹事　設　楽　久　敬

私たち昭四五年卒業の同窓会は全体の会としての「全入会」と東京を中心とした「よこの会」の二つがある。「全入会」の名前の由来は甲府一高を受験した全員が入学したことによる。こちらは甲府を中心に開かれる会で毎年甲府の同窓会に合わせて二次会として開催される。一方、「よこの会」は一六年前、東京同窓会の副幹事学年として担当した折に名簿を作成してまずは二次会を開催し翌年「よこの会」と言う名前で正式に発足した。名前の由来は、一回目に四五名参加したのと、昭和四五年卒業のよこの広がりにかけたものである。以来、毎年開催して今年一六回目を迎えた。現在甲府と共同で管理している同級生名簿で確認されているのは四三〇名を超えている。卒業して四〇年近くなるのにと感心する。欠かさず会を開催してきたことが今に繋がっているのではないだろうか。近年の市町村合併はさらに名簿の精度を欠くことになり、同窓会を開催していない学年にとっては大変なことであろうと思う。

さて、そんな「よこの会」もマンネリ化すれば集まりが悪くなるのは当たり前なので担当幹事は如何に楽しい会にするかで頭を悩ませることになる。過去一六回の「よこの会」はそれぞれにGOOD DAYSであったと確信するが、日新鐘作成の良い機会を与えられたので一六年を振り返り、常時参加の「よこの会」ファンにGOOD DAYSを語ってもらうことにした。以下、会の歩みや主な行事を書き出してGOOD DAYSを思い出すきっかけとした。

《よこの会の歩みと主なイベント》

①一九八二年六月一一日　上野精養軒で東京同窓会開催（担当学年）二次会として上野広小路・アメリカンで第一回昭和四五年卒業生の東京における同窓会を開催　四五名参加

②一九八三年五月一五日　新宿ビア・バンチェットで七四名を迎え会の名前を「よこの会」として、会則を定め第二回を開催。幹事は持ち回りとし、常任幹事五名を選出

③一九八四年五月一三日　場所を東京ガス青山クラブに移し第三回目を開催。以降この青山クラブで開催する。

④以降毎年五月の第二土曜日（母の日前日）を開催日として五〇～六〇名の参加により開催。後に甲府の同窓会期日とぶつかるまで五月開催を実施。その後秋開催などを経るも今年までに一六回滞りなく実施。

⑤主な開催要領とイベントなど

●会費は男性一万円・女性五千円とする。理由は女性の参加を促すこと。女性は美容院・衣服費などに費用がかさむと言う意見に男性が同調。以後苦情もなく継続実施

●イベントとして盛り上がったのは、フォークダンス・当時の懐かしの歌合戦・昔の写真大集合など

●数年前から社会で活躍する同級生の講演会を実施。永関慶重（脳クリニック）渡辺晋一（シミとソバカスの撃退）田沼靖一（老いを科学する）斉藤芳男（美しい空・真空の科学）清水一彦（教育制度について）の講演会を実施盛んな質疑応答で盛会

○座談会

司会

おおよそのよこの会について上にまとめて見ましたが。一六年も経てば会の名前の由来すら知ら

第16回よこの会　2008/01/26

ない人や会則があったのと言う人たちが居るでしょうね。

――単に四五年卒業の会だと思っていました。よこのつながりを強くするなどの意味がありますけど、偶然に一回目の集まりも四五名とはねー。

――そういえば昨年の東京同窓会のテーマは縦・よこ織り成す絆でまさにそのような演出でした。縦となると、クラブ活動などを通じた先輩・後輩との関係になりますが、同級生の会というのはまず遠慮がありませんよね。

――それはもう、小学生から一緒も居れば名前だけ知っている人とか…でも、すぐに打ち解けられるのはやはり同時代を生きてきたからだと思う。

司会

それでは本日は、よこの会におけるこれこそGOOD DAYSと言えるできごとや思い出を語ってください。まずは、第一回目についてお聞きしましょう。

――そうですね、まずは東京同窓会の方の受付などを一緒にした人たちはわかっているのですが、なんと言っても二二年ぶりで、風貌が違ってぜんぜんわからない人というのがたくさんいましたね。でもよく見るとなんとなく面影があり、時間が立つとなーんだ何も変わってないじゃないかとなる。その時点で高校時代のGOOD DAYSが蘇ったと言うか自分もその時点に戻っているよね。

司会

と言うと、その再会した時がGOOD DAYと言うよりは、昔のそれを思い出したと言うことですか？

――それもありますが、「あれは誰だ？」「名前は何だっけ？」を今再会したばかりの人で始める…そんな時につい昔のエピソードが漏れるもので、聞いているだけで本当に楽しかった記憶があります。第一回目は、高校時代のGOOD DAYS発見の場と同時に新たな楽しい一ページになりました。

司会

確かに第一回目ですから、まずはだれそれの確認からと言う場面が多かったでしょうね。一回目は二次会としての開催で約二時間あまりでしたが、翌年は新宿で本当のよこの会を開催して七四名が一次会出席で、二次会からの出席者もいて最終的には約九〇名になりました。

――そう言えば、二回目は新宿でパーティー会場を借り切っての会で、どこかのライブハウスのようでしたね。一人一人が挨拶したのだけれどそれだけで一時間以上かかったのでしたね。

――そうね、年とってみんな挨拶が長くなって…でもそれで二三年の空白が埋まったって言うか、あれ以降は始めての人が挨拶すると言うパターンに落ち着き、よこの会もイベントを考えるようになりましたね。二次会が全員移動したため居酒屋で座敷三箇所に分かれて、時間とともに二箇所、最後に残った人が一箇所に集まり一一時近くまでわいわいやっていた記憶がある。あれはまさに、卒業してからのOne of the Good Daysだね。

――そのときのエピソードだけど、自分はシャイだから新宿まで迎えに来てくれないと行かないと言う女性がいて、そうして上げたんだけどその人は昔人気があって二次会会場に着いたとたんモテモテで…彼女にとってはまさにGOOD DAYだったと思うね。だけどそれ以降来ないからやっぱり

シャイなんだよね。

司会

つまりこういう会に出かけるときに何か躊躇することなんかがあるんでしょうかね？誰にでもGOOD DAYSはあると思うのですが…

――そりゃあいやな思い出もあるでしょうが、そちらに考えがいくのは思考がマイナスですね。自分の経験ではいやな思い出を語る同窓会なんか経験ないし、よこの会はいつも楽しく終わるよね。

司会

さて、そのよこの会の中身ですがはじめの再会の喜びも毎年会っていると薄れてきてマンネリ化しますよね。

――そこがよこの会のうまいところですよ。あれやこれやと新しいことを考えてきていつも楽しく帰してくれる。東京同窓会ではないけど毎年幹事を指名してきちんと引継ぎをして予算管理をしてイベントを考えて人集めを画策する。よく一六年もやって来たね。

司会

さて、そろそろ皆さん自身のよこの会でのGOOD DAYSを聞かせてください。

――そりゃーやっぱりフォークダンスですよ。二年連続でやりましたね。最後は歳でジェンカがきつくなって止めたんだっけ？参加者も例年になく多かったね。あれは女性を集めないとしゃれにならないから幹事が必死に集めたんだろうね。

――あの当時はもう四八歳ぐらいで卒業して三〇年でしょう。それにしてはみんなすぐに踊れたね。オクラホマミキサーとかマイムマイムとか…体は覚えていると言うことですね。

――私の驚きは、三年間男子クラスで間違いなく踊った経験などないのに三〇年経ってもなぜスーッと踊れるのか？？？よほど練習していたのか…

――ここぞとばかりに踊っていた人達たちがいたね。涙　流してさー。これを企画したやつはえらいと大声で叫んで…彼らにとってはBest Dayかもね。

司会

そうですか、やはりフォークダンスが一番先に出てきますね。三〇年ぶりに想い人と踊れた人達もいたんでしょうかね？

――女性はともかく男性の半数はそうじゃないですか？とにかくあの時は皆エンジョイしたでしょう。踊りだしは、幹事が朝倉先生を引っ張り出したんですよね。朝倉先生にもGOOD DAYだったか聞いてみたいですね。

司会

他にはどんなイベントが記憶にありますか？もちろんGOOD DAYSとしてですが。

――事前に思い出の歌を返信はがきに書かせておいて当日思い出を語らせて、さらにカラオケをダウンロードしてきて歌わせたのがあったね

――あれも、皆すぐに歌えるもんだなーと感心したよ。五〇人以上でカラオケやったようなものだよね。あれも間違いなくGOOD DAYでしたね。

――そうだね。自分の気がつかない曲を人が選んできてくれてずいぶん懐かしい思いをしたのと、こいつがこんな曲を選んだのかという驚きと…

――他にも懐かしい写真を持ち寄ってスライドで写したり、身延山研修の作文を紹介したりと、いろんな事をしてくれたよね。作文発表なんか事前に承諾を取っていたんだろうけど…あと、男女クラスの半分以上が「男女間の友情」がテーマで笑っちゃったね…って、今GOOD DAYとして蘇ったけど…（笑い）

――そうだね、仮装行列の写真なんか笑わせてくれたね。女装の美しかった？奴が今は

懐かしの歌を歌う　2001/5/26

メタボなんかでさ。やっぱり笑いの多い会は記憶に残るGOOD DAYだね。

司会

さて、最近数年は同級生を講師にしての講演を主たるイベントとしていますがいかがでしょうか。

――脳外科の永関先生の脳梗塞とくも膜下出血の話は脅かしになったのであれから何人も脳クリニックに出かけたと聞いています。OKが出た人達はハッピー（GOOD DAY）なんじゃないでしょうか？

――同じように、渡辺先生のシミとソバカス退治も後に何人かレーザー治療に行ったと聞いています。何と言っても半額券付きでしたからね…彼は本来水虫専門なのだけど水虫では感謝されないけどレーザーでの痣の治療は感謝されると言っていましたね。その人達のGOOD DAYは容易に想像できるね。

――誰かその後ホームページに「家に帰ってかみさんに話をしたら、私は五〇個もシミがあるけどどうしてくれる？」と言われたとか書いて投稿していたね。読んでいて吹き出したのを覚えているよ。

――今年の一紅会で講演した田沼先生の「老いを科学する」も単なる細胞の死の話ではなくて哲学的だね。知らないことを知って満足して帰って来て、――家や職場でそのことをレクチャーして…結構講演会で知ったことを活かすと言うか話題に出た時知っていることを誉れに思うよね

――筑波大学の二人の先生、斉藤先生の「真空の科学」清水先生の「教育制度」はなんか授業を聞いているようで講演する方が張り切っていたね。彼らにとってもGOOD DAYだっんじゃないかな。制度としての「体罰の定義」と現場感覚の違いなどは面白かったな……

――「真空の科学」は、このまま呼びかけたら出席者が減るということで、美しい青空とか空気とかカモフラージュしてあったね……幹事の苦労がわかると言うものですよ。

司会

最後になりますが、数年前から「よこの会」ホームページを立ち上げて、会での写真や、旅行先での写真とか、飼っているペットの写真とか投稿していましたが、どんな感想をお持ちですか？

――よこの会や甲府の会が終わるたびにその様子が写真ですぐに見られるのが良いね。意外とみんなと話す時間がなかったりするので、家に帰ってから二度目を楽しむって言うか……

講師；清水・斉藤・永関・田沼・渡辺

恩師を三人迎えて　2006/11/18

――BBS（電子掲示板）も面白いね。BBSではめちゃくちゃ面白いのに、会ったらおとなしくてずいぶん紳士だなーって……

――投稿する人はほとんど決まっているけど、訪問して覗いて見ていく人はその数倍はいるね、絶対！

――ホームページはもうすぐ一万人突破で、BBSは既に一万を超えたよね。毎日六〇人訪問かな

司会

先生にも、お歳にもかかわらず何人も出席頂いていますが、まだまだこの会は続きそうですね…

昔日の甲府

商家　昭和初期

オリオン通り　1963

錦町十字路　1963

錦町十字路　第二次大戦後まもなく

桜町通り　1963

甲府はかつて山梨の中心でした。今もその位置づけは変わりませんが、実質的にはどうでしょう。今の中心街の疲弊ぶりは、目を覆いたくなるものがあります。一度訪ねてみてください。愕然としますよ。週末の夜でさえ盛り場は閑散としている有様です。

昭和五年までわが母校は現県庁の位置にありました。そのことを知る人は、少なくなってしまいました。でも今の場所に移ってからも、甲府中学・甲府一高の栄光は、このまちとともにあると言って良いでしょう。

戦前、戦争直後、一九六三年、の甲府の写真をたまたま入手しましたのでご紹介します。一度戦災で灰燼となった甲府、そこから力強く復興した戦後、そして現在のゆるやかな凋落。……さて甲府に復活の望みはあるのでしょうか？

（山下昌彦）

甲府駅　1963

甲府駅　第二次大戦後まもなく

松林軒のあたり　1963

松林軒のあたり　1945

平和通り　1963

平和通り　第二次大戦後まもなく

東京同窓会・懇親会司会者及び出演バンドの紹介

小俣　雅子（おまた　まさこ）

一九五二年六月一九日、山梨県都留市に生まれる。東京学芸大学教育学部を卒業後、アナウンサーとして文化放送に入局。一九八七年にスタートした『吉田照美のやる気ＭＡＮＭＡＮ！』にレギュラー・パーソナリティとして出演、〈おまこりんブーム〉を巻き起こしたこの番組は、二〇年におよぶ大人気長寿番組となる。

一九九〇年に退局した後は、ニッポン放送『三宅裕司と小俣雅子のガバッといただき!!ベスト三〇』にも一〇年間出演、常に高い聴取率を獲得して「ＡＭラジオ界の女王」と呼ばれる。著書に、『言葉ひとつで女があがる』（日東書院）、『ことばで美人になる「話し方」「聞き方」講座』（青春出版社）、『おまたまさこの満腹物語』（講談社）などがある。

地下鉄・東京メトロの各駅で一〇〇万部発行されている「メトロガイド」に、コラム「おまたまさこのおしゃべりがとまらない！」を連載中。「富士の国やまなし観光大使」「香港元気大使」に在任中。

二〇〇七年春より、本格的な「話し方講座」のプログラムを、心理学・メンタルヘルスの専門家とともに開発し、『小俣雅子の人生が変わる話し方講座』のセミナー講師としても活動を始める。アナウンサー生活三二年の集大成になる最新刊は、『気分のいい日を「ことば」がつくる』（東京書籍）、人生に張りと潤いをあたえる「ことば」の教科書です。二〇〇八年春より、東京学芸大学客員教授に就任。

Manto Vivoについて

Manto Vivoは、東京藝術大学で代々引き継がれているビッグ・バンドです。主に管打楽器専攻生で構成され、入学式や芸術祭（学校祭）などで活動しています。以前の「ジャズin藝大」の公演では、日本を代表するビッグ・バンドの一つである「森寿男＆ブルーコーツオーケストラ」と共演しています。選りすぐりのプロのたまご達ですから、彼らの音、リズムは最高で、皆様にOUR GOOD DAYSを満喫していただけるものと思っております。それになんといってもメンバーが若い。その若さも吸収して下さい。

あの坂本龍一も在籍していたようなので、その頃からあったのだとは思いますが、伝聞のみで、資料等にて確認できたわけではありません。この話が本当であれば、三〇年以上の歴史をもっていることになります。

◈編集後記1

編集幹事　森田　ひとみ

時間の長さは年齢に反比例するといいます。若い頃は毎日見るもの聞くものが新しく、その情報整理に沢山のエネルギーを費やすからでしょうか。そうすると、年月が早く過ぎ去るように思われるのは年のせいではなく、普段と違うものを見たり考えたりする機会の不足にあるのでは…

これは、私がうっかり（?）編集幹事を引き受けてしまってから過ごした、この一年余りを通じ感じたことです。本紙はタイトルこそ昔からのロゴ「日新鐘」を使用していますが、その形式や内容、作成手法はその都度大きく変化しています。悠々自適にはまだほど遠い私たちの世代ですが、やはりこの機会に記念となるものを残したいとの思いから、原稿の字数には積極的に制限を設け、多くの方の気軽な参加を呼びかけました。どんなGOOD DAYSが浮かび上がるのか、一抹の不安もありました。しかし、次々に寄せられてくる文章、言葉の力に背中を押され、ついに初校に漕ぎ着けた時の感激は、想像以上のものでした。

同窓生の皆様には、きっとこの冊子の中に、古くて新しいお気に入りの場所が見つかるはず、そこで、ご自身のGOOD DAYSに思いを馳せ、本日の同窓会の宴に勝るとも劣らぬ長〜い一日を過ごして頂けたら幸いです。

末筆となりましたが、原稿、写真をお寄せてくださった皆様、座談会、編集、広告、印刷に協力頂いた皆様に厚く御礼申し上げます。

◈編集後記2

編集幹事　山下　昌彦

この冊子の最終責任者です。苦情その他ありましたら私が承ります。最後まで編集長という言葉は用いておりません。東京同窓会幹事や原稿執筆者の意思を尊重しそれらが自然にまとまって冊子の形になるように導く役割と理解したからです。先輩たちの日新鐘から学び、目指したポイントは二つ。ビジュアルに訴えること、読み応えのあるものを寄稿していただくこと。さて首尾はいかがでしょうか？

閑話休題。仕事柄（建築設計）甲府の街のさびれかたに心を痛めています。甲府中学・甲府一高の卒業生は必ずしも甲府出身者ではありませんが少なくとも山梨の方が殆どだと思います。中心都市甲府の充実なくして山梨全体の繁栄はありません。甲中・一高の栄光もまた甲府抜きに語ることはできませんよね。そんな思いがあって昔日の甲府の写真を挿入しました。皆様の脳裏にかつての栄華が髣髴としていただければ幸甚です。（情報提供・中澤真理子氏）

日新鐘の完成にはたくさんの方にご協力いただきました。座談会にご出席いただいた山寺さん内藤さん山本さん斉藤さん小澤さん、お忙しいなか本当にありがとうございました。山日と今村睦君（幹事学年で恐縮ですが）に感謝します。表紙応援団と見開き強行遠足の二枚の写真がなければこの冊子は成立していなかったでしょう。日本アスペクトコアの編集者坪井さん榎本さんにも大変お世話になりました。

その他広告・原稿にご協力いただいたすべての方にお礼を申し上げます。ありがとうございました。

◇写真提供

表紙……甲府一高応援団（二〇〇七）
山梨日日新聞社提供
見開き……強行遠足（二〇〇七）
山梨日日新聞社提供
日新鐘……相川正樹氏提供
（相川孝作氏撮影・昭和初年と思われる）
P7,14-16……OB強行遠足大会の写真六点、
小口弘毅氏撮影
P20-22,24 …甲府一高及び周辺写真九点
芦澤精一氏撮影
P23 ……望月敏氏提供
P27,28……佐々木まち子氏提供
P34-38……設楽久敬氏提供

日新鐘　第一五号

発　行　甲府中学・甲府一高東京同窓会
編　集　日新鐘編集部会・広告部会
山下昌彦、飯島登美夫、森田ひとみ
三井三枝子、星田美恵子、中島直人
齋藤和子、村上真理子、相川正樹
今村公樹、今井涼子、早川篤二
飯島康二、山田誠一郎
編集協力　坪井 浩、榎本 諒平
印　刷　日本アスペクトコア株式会社
ドキュメントセンター銀座店
住　所　中央区銀座一丁目二番二号
高速道路ビル一階
電　話　03−3561−4879
FAX　03−3561−4876

幹事たわごと集

一年間、学生時代に戻り言いたいことを言い合えて楽しかったです。多少の行き違い、それも―、何でも言い合える仲間意識だからこそ生まれたもの…。私の大切な親友たちの新たな面も再発見―、これからもよろしく！

村　上　真理子

高校生だった頃。
特に人生において教訓的な何かを見出したわけではないけれど人生パズルの大切なワンブロック。
単純で不器用で一生懸命で生きてることただそれだけで楽しかった。
そして私たちを取り巻く世の中のいろいろなこと
音楽、アート、学生達、
大人達そういう全てのものが人間的で垢抜けなくて熱かったと思う。
愛すべき二〇世紀末、OUR GOOD DAYS

高　林　和　美

幹事の一人として担当させて頂き、東京同窓会への同窓生の熱い思いが感じられ、感無量です。卒業して早四〇年、整理しきれないほどに蓄積された想いを、今年のキャッチフレーズOUR GOOD DAYSという温かいフィルターを通して、振り返っています。

石　川　　弘

人生の折り返し点をすぎた私たちにとって、これから大切にしたいことを二つ挙げて、と問われたらあなたはなんと答えますか？
趣味・お金・友達・健康…etc
私の答え、それは、「ユーモアと美意識」です。

佐々木　まち子

「人は一生涯発達を続ける」と言われている。
同じ学び舎で過ごし、再び「一つの目標」のために
同じ方向を目指した私達…
ここでの出会いはこれからも…と
東京の夜空の星を眺めながら思ってみる。

三　井　三枝子

依頼の形でＳ４５のＨＰを作成。
ページ内容の依頼のみで、レイアウトやデザインは、まったく自由でやり放題。
手抜きページあり、懲りページありで、全体としての構成デザインは落第点かな？
総会終了後も数年はＨＰを管理させていただく積もり。
よろしく！

佐　野　雅　昭

OUR GOOD DAYSがコンセプトの東京同窓会の準備の一端を担った。準備に集まるのは時間的に大変な面もあったが幹事と会話し、それぞれの生き方に接するなど楽しくもあった。さて、これからMY GOOD DAYSを創造していくわけだが、それには人との繋がりを持ち続けることも大切、高校の友は特にと思う。
これからもよろしく。ご無沙汰の野山歩きもしたい。若い頃登った南・北アルプス、名前が気に入っている摩利支天峰へも再び訪れたい。

遠　山　克　己

同窓会

学生時代の友達は実にいい。
何十年ぶりに会う昔の友もまたいい。
何年も前に亡くなった自分の親も
友達の中では今も生きている。
しかも自分よりずぅっと若い親がそこに居る。
考えてみれば妻だって子供達だって
今の自分より若い親は知らない。
そしてそれを映像を見ている様に
生々しく語れるのは昔の友だけだ。

何十年ぶりに会えば話題は尽きない。
打ち解ければ打ち解けるほど白熱する。
酔いが回って今を語れば
時に言葉を荒げる事もある。
それは何十年もの月日のせいである。
でもすぐにまた元通りになる。

人生も残り時間をカウントする事が多くなった。
時代を共有した昔の友と高校時代に
ワープするのも面白い。
一時でもあの希望に胸をふくらませた
そして不安におののいた「あの青春」に帰ってみるのは楽しい。
ひょっとすると自分の心のルーツにも辿り着けるかも知れない。

飯　島　康　二

同窓会準備も佳境に入り、幹事の結束は強まり、各自の得意分野で力を発揮し、今までに無いユニークな会にしようという気運が高まってきました。皆、故郷を思い、一高に学んだ縁を大切にしているのですね。

小　口　弘　毅

幹事会に出席するだけの名ばかり幹事の私が、ここに書いてもいいのかな、まあ最後にちょこっとだけ、この『日新鐘』の校正を手伝ったので、よしとしてもらいましょうか。
OUR GOOD DAYS というテーマで始まった今回の東京同窓会の準備、それぞれのGOOD DAYSをふり返り、未来を思いを馳せることができたでしょうか。
先月、同級生のM君から「結婚しました」というお知らせをもらいました。今回のテーマにぴったりな話題でしめくくることができそうです。後は当日、「本当によかったね」と来ていただいた方に思っていただける会になることを祈っています。

齋　藤　和　子

東京同窓会積立基金ご協力者芳名録（平成6年～平成19年）

平成20年5月1日現在

	氏　　名	卒業年次	日 付	基金への入金	その他　入金	その他　出金	残 高	備　　考
H6.9					¥1,000		¥1,000	新規口座開設（渡辺喜一氏名義口座）
～	赤沢　誠	大正 15	H6.9.9	¥10,000			¥11,000	
H7.4.1	河西　静夫	大正 15	H6.9.9	¥10,000			¥21,000	
	丹沢　平治	昭和　8	H6.9.9	¥10,000			¥31,000	
	戸沢　正男	昭和　8	H6.9.9	¥10,000			¥41,000	
	渡辺　喜一	昭和 18	H6.9.9	¥30,000			¥71,000	
	三一会（昭和31年卒業生有志）		H6.9.9	¥30,000			¥101,000	
			H7.4.1		¥600		¥101,600	利子（普通口座）
H7.4.2	赤沢　誠	大正 15	H7.6.2	¥10,000			¥111,600	
～	河西　静夫	大正 15	H7.6.2	¥10,000			¥121,600	
H8.6.30	伊藤　豊明	大正 15	H7.6.2	¥10,000			¥131,600	
	内藤　幸雄	昭和　7	H7.6.2	¥10,000			¥141,600	
	丹沢　平治	昭和　8	H7.6.2	¥10,000			¥151,600	
	小林　健二	昭和　9	H7.6.2	¥10,000			¥161,600	
	功刀　包雄	昭和　9	H7.6.2	¥10,000			¥171,600	
	米沢　慎吾	昭和 17	H7.6.2	¥10,000			¥181,600	
	高沢　寅男	昭和 19	H7.6.2	¥10,000			¥191,600	
	志村　司郎	昭和 20	H7.6.2	¥100,000			¥291,600	
	望月　三郎	昭和 22	H7.6.2	¥10,000			¥301,600	
	依田　智治	昭和 25	H7.6.2	¥10,000			¥311,600	
	石原　要三	昭和 26	H7.6.2	¥10,000			¥321,600	
	成瀬　知則	昭和 27	H7.6.2	¥10,000			¥331,600	
	栗村　のり	昭和 31	H7.6.2	¥10,000			¥341,600	
	伴野　匡	昭和 19	H7.9.13	¥100,000			¥441,600	
	神童会（昭和32年卒業生有志）		H7.9.21	¥50,000			¥491,600	
	石川　慎吾	昭和 29	H8.1.22	¥10,000			¥501,600	
			H8.1.23			¥480,000	¥21,600	実行委員準備資金
	立川　孝幸	昭和 17	H8.2.8	¥10,000			¥31,600	
	大森　雅典	昭和 16	H8.3.12	¥10,000			¥41,600	
	神山　茂	昭和 30	H8.3.18	¥100,000			¥141,600	
			H8.4.1		¥313		¥141,913	利子（普通口座）
	昭和16年卒業生有志		H8.4.26	¥100,000			¥241,913	
			H8.6.6			¥220,000	¥21,913	実行委員準備資金
						¥540	¥21,373	口座徴収料
H8.7.1	白倉　一郎	昭和　9	H8.7.4	¥10,000			¥31,373	
～	広瀬　寛	昭和 20	H8.7.4	¥10,000			¥41,373	
H8.9.30	浅川　博道	昭和 29	H8.7.4	¥10,000			¥51,373	
	井上　健造	昭和 20	H8.7.5	¥10,000			¥61,373	
	高沢　寅男	昭和 19	H8.7.5	¥10,000			¥71,373	
	小畑　皖司	昭和 33	H8.7.9	¥10,000			¥81,373	
	林　睦夫	大正 15	H8.7.14	¥10,000			¥91,373	
	小宮山静子（昭和19年卒故欣一氏未亡人）		H8.7.25	¥10,000			¥101,373	
			H8.8.2		¥700,000		¥801,373	実行会委員長（樋川紘一氏）より返済
	内藤　文三	昭和 10	H8.8.8	¥10,000			¥811,373	
	丹沢　平治	昭和　8	H8.8.8	¥10,000			¥821,373	
	秋山　哲郎	昭和 23	H8.8.8	¥10,000			¥831,373	
	野尻　卓男	昭和 10	H8.8.8	¥10,000			¥841,373	
	保坂　正文	昭和　8	H8.8.8	¥20,000			¥861,373	
	河西　静夫	大正 15	H8.8.8	¥10,000			¥871,373	
	須藤　芳郎	昭和　6	H8.8.8	¥10,000			¥881,373	
	樋泉　荘平	昭和　8	H8.8.8	¥5,000			¥886,373	
	奥村　典夫	昭和　8	H8.8.8	¥10,000			¥896,373	
	伊藤　豊明	大正 15	H8.8.8	¥10,000			¥906,373	
	赤沢　誠	大正 15	H8.8.8	¥10,000			¥916,373	
	三三会（昭和33年卒業生有志）		H8.8.8	¥50,000			¥966,373	
	内藤　健二	昭和 27	H8.9.11	¥10,000			¥976,373	
H8.10.1			H9.2.24		¥1,440		¥977,813	利子（定期口座）
～	坂本　順二	昭和 23.24	H9.3.5	¥10,000			¥987,813	
H10.3.31	新津　成美	昭和 11	H9.3.11	¥10,000			¥997,813	
	志村　昌也	昭和 35	H9.3.12	¥10,000			¥1,007,813	
			H9.3.24		¥30,000		¥1,037,813	広告代（佐藤和子氏（若尾）入金）
						¥720	¥1,037,093	口座徴収料
			H9.4.1		¥68		¥1,037,161	利子（普通口座）
			H9.5.28		¥30,000		¥1,067,161	広告代（秋山哲郎氏入金）
			H9.5.30		¥30,000		¥1,097,161	広告代（軽石泰孝氏入金）
			H9.6.4		¥50,000		¥1,147,161	広告代（ユニフォトプレス入金）
						¥460	¥1,146,701	口座徴収料（広告代）
			H9.6.11			¥109,650	¥1,037,051	広告代
			H9.6.19			¥29,890	¥1,007,161	広告代

東京同窓会積立基金ご協力者芳名録（平成6年～平成19年）

	氏　　名	卒業年次	日 付	基金への入金	その他　入金	その他　出金	残 高	備　　考
	新津 成美	昭和 11	H9.7.7	¥10,000			¥1,017,161	
	雨宮 喬子	昭和 40	H9.7.8	¥3,000			¥1,020,161	
	鯨岡 照男	昭和 20	H9.7.15	¥10,000			¥1,030,161	
	伊藤 一行	昭和 23.24	H9.7.31	¥10,000			¥1,040,161	
	赤沢 誠	大正 15	H9.8.25	¥10,000			¥1,050,161	
	内藤 文三	昭和 10	H9.8.25	¥10,000			¥1,060,161	
	丹沢 平治	昭和 8	H9.8.25	¥10,000			¥1,070,161	
	白倉 一郎	昭和 9	H9.8.25	¥10,000			¥1,080,161	
	関 昇二	昭和 11	H9.8.25	¥10,000			¥1,090,161	
	丸茂 紀彦	昭和 34	H9.8.25	¥10,000			¥1,100,161	
	河西 静夫	大正 15	H9.8.25	¥10,000			¥1,110,161	
	石原 要三	昭和 26	H9.8.25	¥10,000			¥1,120,161	
	飯田 知雄	昭和 26	H9.8.25	¥10,000			¥1,130,161	
	村松 和明	昭和 39	H9.8.25	¥10,000			¥1,140,161	
	伊藤 豊明	大正 15	H9.8.25	¥10,000			¥1,150,161	
	中尾 栄一	昭和 23	H9.8.25	¥10,000			¥1,160,161	
	伴野 正枝	昭和 50	H9.8.25	¥10,000			¥1,170,161	
	小田切 照男	昭和 26	H9.8.25	¥10,000			¥1,180,161	
	山紫会(昭和34年卒業生有志)	昭和 34	H9.9.2	¥100,000			¥1,280,161	
	名取 忠昭	昭和 29	H9.9.11	¥10,000			¥1,290,161	
						¥690	¥1,289,471	口座徴収料
H10.4.1			H10.4.1		¥112		¥1,289,583	利子(普通口座)
～			H10.4.10		¥950		¥1,290,533	利子(定期口座)
H11.1.31	丹沢 平治	昭和 8	H10.7.8	¥10,000			¥1,300,533	
	白倉 一郎	昭和 9	H10.7.8	¥10,000			¥1,310,533	
	新津 成美	昭和 11	H10.7.8	¥10,000			¥1,320,533	
	松田 好雄	昭和 35	H10.7.8	¥10,000			¥1,330,533	
	橘田 知平	大正 15	H10.7.8	¥10,000			¥1,340,533	
	河西 静夫	大正 15	H10.7.8	¥10,000			¥1,350,533	
	木下 実三	昭和 36	H10.7.8	¥10,000			¥1,360,533	
	清水 文雄	昭和 30	H10.7.8	¥10,000			¥1,370,533	
	岩下 定寛	昭和 12	H10.7.8	¥10,000			¥1,380,533	
	岩下 定寛		H10.7.8		¥10,000		¥1,390,533	誤入金
	清水 好二郎	昭和 12	H10.7.8	¥10,000			¥1,400,533	
	石原 要三	昭和 26	H10.7.8	¥10,000			¥1,410,533	
	内藤 文三	昭和 16	H10.7.8	¥5,000			¥1,415,533	
	岩松 勇	昭和 12	H10.7.9	¥10,000			¥1,425,533	
	望月 正直	昭和 21	H10.7.10	¥10,000			¥1,435,533	
	志村 司郎	昭和 20	H10.7.27	¥20,000			¥1,455,533	
	三五会(昭和35年卒業生有志)	昭和 35	H10.8.21	¥50,000			¥1,505,533	
	山田 耕作	昭和 20	H10.9.9	¥10,000			¥1,515,533	
	鈴木 康雄	昭和 44	H10.9.30	¥10,000			¥1,525,533	
	篠原 武雄	昭和 11	H10.10.22	¥10,000			¥1,535,533	
	横森 欣司	昭和 40	H10.10.30	¥10,000			¥1,545,533	
			H10.11.2			¥10,000	¥1,535,533	誤入金返金(岩下定寛氏分)
			H10.12.10		¥1,602		¥1,537,135	利子(定期口座)
						¥650	¥1,536,485	口座徴収料
H11.2.1	伊藤 豊明	大正 15	H11.2.17	¥10,000			¥1,546,485	
～			H11.4.1		¥71		¥1,546,556	利子(普通口座)
H12.3.31			H11.4.7		¥1,942		¥1,548,498	利子(定期口座)
	鈴木 源次郎	昭和 12	H11.7.12	¥10,000			¥1,558,498	
	昭和36年卒業生有志			¥9,456			¥1,567,954	平成11年7月～9月
						¥140	¥1,567,814	口座徴収料
H12.4.1								
～								
H13.3.31			H12.4.1		¥62		¥1,567,876	利子(普通口座)
H13.4.1			H13.4.1			¥16,275	¥1,551,601	供花(井上家ご葬儀) 立替
～			H13.4.1			¥105	¥1,551,496	同上振込手数料 立替
H14.3.31			H13.4.1		¥89		¥1,551,585	利子(普通口座)
	浅川 英司	昭和 29	H13.4.24	¥10,000			¥1,561,585	
	井上 喜由		H13.7.16	¥2,000			¥1,563,585	
	名取 慶二		H13.7.16	¥10,000			¥1,573,585	
	鎮目 豊高	昭和 12	H13.7.16	¥10,000			¥1,583,585	
	鈴木 隆		H13.7.23	¥10,000			¥1,593,585	
	昭和13年卒出席者一同より		H13.7.24	¥100,000			¥1,693,585	
	丸山 憲一郎		H13.8.7	¥1,000			¥1,694,585	
	三野 正吾	昭和 9	H13.8.17	¥10,000			¥1,704,585	
	白倉 一郎	昭和 9	H13.8.20	¥10,000			¥1,714,585	
	新津 成美	昭和 11	H13.8.20	¥10,000			¥1,724,585	
	笹本 六朗	昭和 13	H13.8.20	¥10,000			¥1,734,585	
	飯田 智雄	昭和 26	H13.8.20	¥10,000			¥1,744,585	
	後藤 俊邦(故人)	昭和 38	H13.8.20	¥30,000			¥1,774,585	
	平成13年度当番幹事 昭和38年卒		H13.8.20	¥30,000			¥1,804,585	
	基金繰入 平成13年度幹事会		H13.9.13	¥8,000			¥1,812,585	
	山縣 萩江	昭和 40	H13.9.20	¥5,000			¥1,817,585	
	白倉 一郎	昭和 9	H14.1.31	¥10,000			¥1,827,585	
						¥1,110	¥1,826,475	口座徴収料
	計			¥276,000	¥89	¥17,490		

東京同窓会積立基金ご協力者芳名録（平成6年～平成19年）

	氏　　名	卒業年次	日 付	基金への入金	その他　入金	その他　出金	残 高	備　　考
H14.4.1	水本 新平	昭和 20	H14.5.8	¥10,000		¥70	¥1,836,405	
～	恩田 宗	昭和 27	H14.5.13	¥10,000		¥70	¥1,846,335	
H15.3.31	丹沢　平治	昭和 8	H14.5.22	¥30,000			¥1,876,335	
	新津　成美	昭和 11	H14.7.15	¥10,000		¥70	¥1,886,265	
	中込　達雄	昭和 10	H14.7.15	¥10,000		¥70	¥1,896,195	
	井上　喜由	昭和 41	H14.7.15	¥5,000		¥70	¥1,901,125	
	田中　友昭	昭和 35	H14.7.17	¥20,000		¥120	¥1,921,005	
	飯島　明	昭和 40	H14.7.26	¥5,000		¥70	¥1,925,935	
	伊東　昭	昭和 34	H14.7.31	¥20,000		¥120	¥1,945,815	
	平成14年度当番幹事 昭和39年卒	昭和 39	H14.8.22	¥100,000		¥120	¥2,045,695	
	昭和15年卒有志より	昭和 15	H14.11.6	¥20,000			¥2,065,695	
	計			**¥240,000**		**¥780**		
H15.4.1			H15.4.1		¥25		¥2,065,720	利子（普通口座）
～	振込用紙印字代		H15.4.16			¥1,100	¥2,064,620	
H16.3.31			H15.4			¥15,750	¥2,048,870	供花（飯野家ご葬儀）立替
			H15.4			¥105	¥2,048,765	同上振込手数料 立替
			H15.4			¥1,638	¥2,047,127	弔電（飯野家ご葬儀）立替
			H15.5		¥33,873		¥2,081,000	役員一同より 立替金精算
	白倉　一郎	昭和 9	H15.5.12	¥10,000			¥2,091,000	
	丹沢　平治	昭和 8	H15.7.14	¥10,000		¥70	¥2,100,930	
	宮沢　邦夫	昭和 13	H15.7.15	¥10,000		¥70	¥2,110,860	
	鈴木　隆	昭和 32	H15.7.16	¥10,000		¥70	¥2,120,790	
	新津　成美	昭和 11	H15.7.18	¥10,000		¥70	¥2,130,720	
	白倉　一郎	昭和 9	H16.3.19	¥10,000		¥70	¥2,140,650	
	計			**¥60,000**	**¥33,898**	**¥18,943**		
H16.4.1			H16.4.1		¥5		¥2,140,655	利子（普通口座）
～	手塚　彰夫	昭和 41	H16.5.14	¥10,000		¥70	¥2,150,585	
H17.3.31	鈴木　隆	昭和 32	H16.6.18	¥10,000		¥70	¥2,160,515	
	梶原　寛一	昭和 15	H16.7.12	¥10,000		¥70	¥2,170,445	
	新津　成美	昭和 11	H16.7.12	¥10,000		¥70	¥2,180,375	
	松本　一昌	昭和 23.24	H16.7.13	¥10,000		¥70	¥2,190,305	
	丹沢　平治	昭和 8	H16.7.14	¥10,000		¥70	¥2,200,235	
	篠原　靖	昭和 15	H16.7.14	¥10,000		¥70	¥2,210,165	
	宮沢　邦夫	昭和 13	H16.7.15	¥10,000		¥70	¥2,220,095	
	岩下　定寛	昭和 12	H16.7.29	¥10,000		¥70	¥2,230,025	
	白倉　一郎	昭和 9	H17.1.20	¥10,000		¥70	¥2,239,955	
	計			**¥100,000**	**¥5**	**¥700**		
H17.4.1			H17.4.1		¥5		¥2,239,960	利子（普通口座）
～	石川　禮次郎	昭和 20	H17.6.29	¥10,000		¥0	¥2,249,960	
H18.3.31	新津　成美	昭和 11	H17.7.11	¥10,000		¥70	¥2,259,890	
	丹沢　平治	昭和 8	H17.7.11	¥10,000		¥70	¥2,269,820	
	宮沢　邦夫	昭和 13	H17.7.11	¥10,000		¥70	¥2,279,750	
	山田　房男	昭和 18	H17.7.12	¥5,000		¥70	¥2,284,680	
	篠原　靖	昭和 15	H17.7.13	¥10,000		¥70	¥2,294,610	
	斉藤　豊	昭和 28	H17.7.13	¥10,000		¥70	¥2,304,540	
	志村　昌也	昭和 35	H17.7.19	¥10,000		¥70	¥2,314,470	
	平成17年度当番幹事 昭和42年卒	昭和 42	H17.7.25	¥100,000		¥120	¥2,414,350	
	山田　常夫	昭和 38	H17.7.26	¥10,000		¥70	¥2,424,280	
	計			**¥185,000**	**¥5**	**¥680**		
H18.4.1			H18.4.1		¥5		¥2,424,285	利子（普通口座）
～			H18.4.1		**¥343**		¥2,424,628	利子（旧通帳から）
H19.3.31	白倉　一郎	昭和 9	H18.5.17	¥10,000		¥0	¥2,434,628	
	伊藤　好民	昭和 15	H18.5.31	¥10,000		¥100	¥2,444,528	
	篠原　靖	昭和 15	H18.7.10	¥5,000		¥100	¥2,449,428	
	志村　昌也	昭和 35	H18.7.11	¥20,000		¥150	¥2,469,278	
	井口　公弘	昭和 27	H18.7.14	¥10,000		¥100	¥2,479,178	
	新津　成美	昭和 11	H18.7.18	¥10,000		¥100	¥2,489,078	
	丹沢　平治	昭和 8	H18.7.24	¥10,000		¥100	¥2,498,978	
	平成18年度当番幹事 昭和43年卒	昭和 43	H18.7.24	¥100,000		¥110	¥2,598,868	
	神山　茂	昭和 30	H18.8.28	¥2,500,000			¥5,098,868	
	計			**¥2,675,000**	**¥348**	**¥760**		
H19.4.1			H19.4.1		**¥72**		¥5,098,940	利子
～	丹沢　平治	昭和　8	H19.7.23	¥10,000			¥5,108,940	
H20.3.31	平成19年度当番幹事	昭和　44	H19.7.24	¥100,000		¥150	¥5,208,790	
	志村　昌也	昭和　35	H19.8.6	¥20,000			¥5,228,790	
	平成19年度当番幹事	昭和　44	H19.8.28	¥100,000		¥150	¥5,328,640	
	計			**¥230,000**	**¥72**	**¥300**		
H20.4.1			H20.4.1		**¥17,090**		¥5,345,730	定額貯金利子（通算）
					¥92		¥5,345,822	普通貯金利子

基金への寄付は

ゆうちょ銀行　本店　　口座番号　00160－5－724615
加入者名　　甲府中学一高東京同窓会

まで御願い致します。

平成 5 年6月17日
平成12年7月14日改正　平成17年7月8日改正

山梨県立甲府中学校・甲府第一高等学校　東 京 同 窓 会 会 則

第一章　　総　　則

（名　称）
第 一 条　　この会は、山梨県立甲府中学校甲府第一高等学校東京同窓会という。

（事務所）
第 二 条　　この会は、事務所を会長の指定する東京都内に置く。

（目　的）
第 三 条　　この会は、会員相互の親睦を図ることを目的とする。

（事　業）
第 四 条　　前項の目的を達成するため、この会は次の事業を行う。
一、　会報及び会員名簿の発行
二、　各種集会の開催
三、　その他必要な事項

第二章　　会　　員

（会員の種類）
第 五 条　　この会の会員を分け次の三種とする。
一、　普通会員
二、　名誉会員
三、　特別会員
2　　普通会員は、徽典館中学科、山梨県立甲府中学校又は山梨県立甲府第一高等学校（以下母校という。）の卒業生及び母校に在籍した者で首都圏に在住する者並びにこれに準ずる者とする。
3　　名誉会員は、普通会員のうち、満八十才以上の者とする。
4　　特別会員は、母校校長及び母校に功労があった者で、総会において推薦された者とする。

第三章　　役　　員

（役員の種類）
第 六 条　　この会に次の役員を置く。

一、	会　　長	一　　名
二、	副 会 長	五名以内
三、	学年幹事	若 干 名
四、	監　　事	二　　名

（任　務）
第 七 条　　会長はこの会を代表し、会務を統括する。
2　　副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときはその職務を代行する。
3　　学年幹事は、会務を処理する。
4　　監事は、会計を監査し、総会に報告する。

（選　出）

第 八 条　　会長は、総会において会員のうちから選出する。

2　　副会長、学年幹事及び監事は、会員のうちから総会の議を経て、会長がこれを委嘱する。但し副会長、監事の候補者は別に定める運用規程により選出する。

3　　学年幹事の候補者は、各卒業期毎に、三名以内を互選する。

（任　期）

第 九 条　　役員の任期はすべて二年とし、再任を妨げない。但し、副会長、監事は原則として三期を限度とする。

2　　補欠により就任した者の任期は、前任者の残存期間とする。

第四章　　名誉会長及び顧問

第 十 条　　この会に名誉会長及び顧問若干名を置くことができる。

2　　名誉会長は、会員うちから総会の議を経て、会長これを推戴する。

3　　顧問は、会員のうちから総会の議を経て、会長これを委嘱する。

4　　名誉会長及び顧問は、会長の諮問に応じ重要事項に参画し、又は役員会に出席して意見を述べることができる。

第五章　　会　　議

（種　類）

第十一条　　会議は、総会及び幹事会とする。

（招　集）

第十二条　　総会は、定期総会及び臨時総会とし、定期総会は毎年一回会長がこれを招集する。

臨時総会は、会長が必要と認めたとき、学年幹事の過半数から会議の目的である事項を示して開催の請求があったとき会長がこれを招集する。

第十三条　　幹事会は年一回以上開催し、招集は総会に準ずる。

（議　事）

第一四条　　会長は、会議の議長となり議事を処理する。

第一五条　　採決を要するときは、出席者の過半数をもって決する。

2　可否同数のときは、議長がこれを決する。

第六章　　会　　計

（経　費）

第十六条　　この会の経費は、次に掲げるものをもってこれに当てる。

一、　会費
二、　寄付金
三、　借入金
四、　雑収入

2　　名誉会員については、特別会費を適用できる。

（会計年度）

第十七条　　この会の会計年度は、毎年９月１日に始まり、翌年８月31日に終わる。

第七章　　雑　　則

（異動通知）

第十八条　　会員は、その氏名、住所、職業等に異動があったときは、速やかに会に通知するものとする。

（会則の変更）

第十九条　　この会則は、総会の決議によらなければ変更できない。

役員候補選出の運用規程

本規程は会則第八条、2 項に定める役員（副会長、監事）の候補者を選出する方策について規程するものである。

第一条　会長、副会長、監事及び顧問の合議により候補者を推薦する学年を決定する。

第二条　当該学年は二年毎を一つのブロックとして一人の候補者を推薦する。

第三条　会長は候補者を別途推薦することができる。

第四条　会長、副会長、監事、顧問及び当該学年の幹事の合同会合において総会に計る最終の候補者を決定する。

第五条　上記の規程にかかわらず一紅会の会長は副会長の候補者とする。

以　上

平成 9年 2月 1日
平成12年11月13日改正
平成16年 2月 1日改正
平成19年11月26日改正

「一　紅　会」会　則

第1条　この会の名称は「一紅会（いちこうかい）」という。

第2条　この会は、山梨県立甲府中学校・甲府第一高等学校東京同窓会(以下東京同窓会という）の中におく。

第3条　この会の会員は、山梨県立甲府第一高等学校を卒業した女性とする。

第4条　この会は、会員相互の親睦を図るとともに、東京同窓会の充実発展に寄与することを目的とする。

第5条　この会を円滑に運営するために「一紅会幹事会」（以下幹事会という）をおく。

第6条　幹事会の運営に次の役員があたる。

①　会長　　一名　幹事会の互選により選出する。
②　副会長　一名　幹事会の互選により選出する。
③　会計　　一名　幹事会の互選により選出する。
④　幹事　　各卒業期ごとに若干名を互選する。

第7条　役員の任期および任期の期首と期末は次のとおりとする。

①　会長･副会長
　任期は、いずれも２年とし、再選を妨げない。
　期首は、２月１日から、期末は翌々年の１月３１日までとし、
　選出時期は、東京同窓会役員改選年度の前年の１１月開催の幹事会とする。
但し会長は②により東京同窓会総会決議にて役員の就任、退任となりこの限りでない。

②　会長は、東京同窓会会則役員候補選出の運用規程第五条により、東京同窓会役員改選年度に副会長候補者として東京同窓会総会の議を経て就任する。

③　会計
　任期は２年で再選を妨げない
　東京同窓会の会計年度に準じて，改選を行う。

④　学年幹事は、①に準ずる。

⑤　補欠により就任した役員の任期は，前任者の残存期間とする。

第8条　この会の運営に関する決議は、幹事会にて出席者の過半数を以って決定する。

第9条　幹事会は、次の事を行う。

①　幹事会を年二回以上開催
②　第４条の目的を達成するための諸事業の企画及び実行
③　東京同窓会幹事会への出席等
④　会計に関する話し合い及び決議
⑤　その他

第10条　幹事会に事務局を置き、東京同窓会の当番幹事学年等が、若干名(幹事を含む)でこの運営にあたる。

第11条　この会の運営費用は、次によって賄う。

①　東京同窓会からの援助金
②　寄付金
③　雑収入

第12条　この会の会計年度は、毎年９月１日より翌年８月３１日とする。

第13条　この会則は、平成19年(2007)11月26日より改定施行する。　　以上

甲府中学・甲府一高 東京同窓会 各年度活動一覧

年 度	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
当番学年	昭和32・48年卒	昭和33・49年卒	昭和34・50年卒	昭和35・51年卒	昭和36・52年卒	昭和37・53年卒	昭和38・54年卒	昭和39・55年卒	昭和40・56年卒	昭和41年卒	昭和42年卒	昭和43年卒	昭和44年・60年卒	昭和45年卒
引継会	9月22日(木) 五反田 ROC ビル	9月19日(火) 銀座 らん月	9月10日(火) 銀行倶楽部	9月 9日(火) 東京會舘	9月 9日(水) 銀行倶楽部	9月 29日(金) 銀行倶楽部	9月 12日(水) 銀行倶楽部	9月17日(火) 銀行倶楽部	9月26日(金) 銀行倶楽部	9月30日(木) 銀行倶楽部	9月29日(木) 銀行倶楽部	9月27日(火) 銀行倶楽部	9月26日(火) 銀行倶楽部	9月18日(火) 銀行倶楽部
正・副会長会 (役員会)							4月 5日(木) 東京會舘	2月22日(金) 東京會舘	3月17日(月) 東京會舘	2月23日(月) 東京會舘	2月22日(火) 東京會舘	2月20日(月) 東京會舘	2月21日(水) 東京會舘	2月20日(水) 東京會舘
学年代表 幹事会	4月21日(金) 銀座東武 ホテル	4月25日(火) 東京會舘	4月21日(月) 霞ヶ関 東京會舘	4月22日(水) 東京會舘	4月13日(火) 東京會舘	5月15日(月) 東京會舘	5月9日(水) 東京會舘	5月9日(木) 東京會舘	5月7日(水) 東京會舘	5月11日(火) 東京會舘	5月10日(火) 東京會舘	5月9日(火) 東京會舘	5月8日(火) 東京會舘	5月8日(木) 東京會舘
総 会	6月 2日(金) 銀座東武ホテル	7月 3日(水) 東京會舘	7月 2日(月) 東京會舘	7月 8日(水) 東京會舘	7月10日(土) 東京會舘	7月14日(金) 東京會舘	7月13日(金) 東京會舘	7月12日(金) 東京會舘	7月11日(金) 東京會舘	7月 9日(金) 東京會舘	7月 8日(金) 東京會舘	7月 8日(土) 東京會舘	7月21日(土) 東京會舘	7月26日(土) 東京會舘
出席者数	342名 (女性37名) (来賓6、特別会員15含む)	528名 (女性83名) (来賓6、特別会員22含む)	534名 (女性101名) (来賓6、特別会員20含む)	531名 (女性102名) (来賓5、特別会員27含む)	468名 (女性92名) (来賓7、特別会員17含む)	505名 (女性89名) (来賓7、特別会員17含む)	470名 (女性85名) (来賓7、特別会員29含む)	462名 (女性78名) (来賓13、特別会員22含む)	495名 (女性105名) (来賓12、特別会員24含む)	389名 (女性79名) (来賓15、特別会員25含む)	471名 (来賓15名、特別会員22名含む)	537名 (来賓19名を含む)	591名 (来賓17名を含む)	
会 費	男性 ¥10,000 女性 ¥8,000	男性 ¥10,000 女性 ¥8,000	男性 ¥10,000 女性 ¥8,000	男性 ¥10,000 女性 ¥8,000	男性 ¥10,000 女性 ¥10,000	男性 ¥10,000 女性 ¥10,000	男性 ¥10,000 女性 ¥10,000	男性 ¥10,000 女性 ¥10,000	男性 ¥9,000 女性 ¥9,000	男性 ¥8,000 女性 ¥8,000	男性 ¥9,000 女性 ¥9,000	男性 ¥10,000 女性 ¥10,000	男性 ¥10,000 女性 ¥10,000	男性 ¥10,000 女性 ¥10,000
年次繰越金	¥430,019	¥210,640	¥413,109	¥426,597	¥528,340	¥489,350	¥530,222	¥485,625	¥1,575,350	¥504,455	¥855,767	¥891,533	¥905,933	
催し物	若尾嬢他1名 BGM 演奏(ピアノ、フルート)	林 ひろみ 川上 洋次 歌唱 特産即売コーナ	金森 静子 独唱 古今亭寿輔 司会と小噺	ロックバンド生演奏 ダンスタイム司会 保坂正紀(51年卒) テレビ朝日アナウンサー	・合唱 音羽ゆりかご会 ・太鼓 日本太鼓同好会(潮見台みどり幼稚園)	・チアリーダーによる演技 ・ 福引	独唱 伊東剛 伴奏 田中明子 司会 伊藤 英敏(元YBSアナウンサー) 合唱38会合唱団クイズ・甲斐の国、不思議発見	懐かしのスイングジャズ特集 39年卒を中心とするブラスバンド部、応援部OBによるスイングジャズ、マンボ、ルンバの生演奏	笹本茂晴 クァルテット(BGM)	・独唱(41卒) 中嶋啓子 梶圭子 ﾋﾟｱﾉ伴奏 ・BGM ﾋﾟｱﾉ演奏 ・甲州ワイン試飲 ﾜｲﾝｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ	・ｼｬﾝｿﾝ独唱(42卒) 大原ひさのりｵｰｹｽﾄﾗ、斉藤澄、松土正一他 ・ほうとう、甲州ワインｻｰﾋﾞｽ	・伝説のジャズドラマー 森山威男(38年卒) ・一高現役ブラスバンド演奏	・音楽部OB弦楽合奏団+川上洋司(歌唱、44卒)とMJO+ブラバンOBの演奏 ※MJO(Mondaynight Jazz Orchestra)は、S44卒小林正家氏主宰のバンド	・東京藝術大学音学部生バンド MantoVivoによるBig Band Jazz演奏 ・強行遠足ビデオ放映 ・司会 小俣雅子さん
特 記	・テーマ:縦の交流 女性部会発足 ・日新鐘第2号発行 ・渡辺会長「山梨県人会連合会」会長に就任 ・副会長、監事退任 ・新任副会長伴野、秋山(哲)内藤、石川 監事;小宮山、飯野 顧問;河西、大森、立川	・女性ネットワーク「一紅会」発足 ・日新鐘第3号発行 ・総会出席者名簿作成・配布 ・基金募集244,520円	・テーマ「夢みつづけて」 ・一紅会各学年代表者を幹事として登録幹事会に出席 ・日新鐘第4号発行 ・強歩遠足70回記念誌を販売 ・ポラロイドカメラで撮影配布	・ テーマ:「メモリーズオブユー」 ・ 一紅会会長東京同窓会の副会長に就任 ・日新鐘第5号発行	・ テーマ:「いい日出会い」 ・日新鐘第6号発行 ・初めて土曜日昼に開催	・テーマ;「いま、新たなチャレンジ」 ・日新鐘第7号発行 ・役員改選 ・新任副会長 恩田、神山、井上、笠井、五十嵐 監事;小宮山、内藤 顧問;大森、立川、伴野、飯野	・テーマ:「新世紀共生の時代へ」 ・日新鐘第8号発行 秋山哲朗新顧問	・テーマ:「改革 そして未来」 ・日新鐘第9号発行 ・役員改選 渡辺新名誉会長 恩田新会長 田中新副会長 伊東新監事 小宮山新顧問	テーマ:「草のように樹のように」 ・日新鐘第10号発行	・テーマ:「結び直そう同窓の絆」 ・日新鐘第11号発行 ・東京同窓会名簿作成配布 ・役員改選 飯田副会長新任 他再任	・テーマ:「今、新たなり、同窓の詩」 ・日新鐘第12号発行 ・名誉会員会費規約改正	・テーマ:「甦れ！ 鶴城魂」 ・日新鐘13号発行 ・最高顧問規約改正 ・役員改選	・テーマ:「たて・よこ織りなす絆」 ・日新鐘14号発行	・テーマ:「OUR GOOD DAYS」 ・日新鐘15号発行 ・役員改選
当番学年 代表幹事	保科 儒一 (32年卒)	笠井 莞爾 (33年卒)	内藤 勲 (34年卒)	田中 友昭 (35年卒)	〈幹事長〉土川俊雄 〈副幹事長〉太田東洋男 前馬美代子 〈事務局長〉中村敏男 (36年卒)	〈幹事長〉雨宮 忠 〈副幹事長〉廣池哲夫 小松寿恵 〈事務局長〉樋泉靖志 (37年卒)	〈幹事長〉武内紘司 〈副幹事長〉堀内 高 矢口百合子 〈事務局長〉山田常夫 (38年卒)	〈幹事長〉飯島善一郎 〈副幹事長〉波羅芳武 小林牧子 〈事務局長〉笠井 收 (39年卒)	〈幹事長〉原 護 〈副幹事長〉佐野允夫 水谷園江 〈事務局長〉斉藤勝人 (40年卒)	〈幹事長〉高木悦子 〈副幹事長〉内藤茂好 小針直美 〈事務局〉高木悦子/小針直美 (41年卒)	〈幹事長〉横澤良次 〈副幹事長〉八田政恭 宇野文子 〈事務局長〉八田政恭 (42年卒)	(幹事長)池田秀雄 (事務局長)油井純雄 (副幹事長)竹中みゆき 野沢春海 加藤まゆみ 平賀博子 大野陽造 諸角英良 柳本教仁 門西栄一 猪股賢太郎 小木曽博 古屋史夫 斎藤秀文 両角益資 (43年卒)	(幹事長)清水 昭 (副幹事長)峯川文江 萩原能成 中村芳文 仲澤孝次 (事務局長)京島博文 (44年卒)	(幹事長)設楽 久敬 (副幹事長)山下昌彦 飯島登美夫 相川正樹 村上真理子 三井三枝子 (事務局長)渡邊東 (45年卒)

甲府一高東京同窓会 「一紅会」の各年度活動一覧表

2008. 7. 26

年度	平成8年 1996	平成9年 1997	平成10年 1998	平成11年 1999	平成12年 2000	平成13年 2001	平成14年 2002	平成15年 2003	平成16年 2004	平成17年 2005	平成18年 2006	平成19年 2007	平成20年 2008
当番学年	昭和33年卒	昭和34年卒	昭和35年卒	昭和36年卒	昭和37年卒	昭和38年卒	昭和39年卒	昭和40年卒	昭和41年卒	昭和42年卒	昭和43年卒	昭和44年卒	昭和45年卒
一紅会 幹事会	第1回幹事会 東京會舘ｼｪﾛｯｼｰﾆ H8/3/7(火) 〈会則作成チーム 会合〉	第4回幹事会 東京會舘ｼｪﾛｯｼｰﾆ H9/1/29/(火)	新春講演会 銀座東武ﾎﾃﾙ ﾛｼﾞｪﾄﾞｰﾙ H10/1 /12(月) ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ会合	第8回幹事会 四谷ｱｰﾊﾟﾝｸﾗﾌﾞ H10/11/11(木)	第11回幹事会 四谷ｱｰﾊﾟﾝｸﾗﾌﾞ H11/11/10(火)	第14回幹事会 四谷ｱｰﾊﾟﾝｸﾗﾌﾞ H12/11/13(月) ・会計承認 ・会則追記	第17回幹事会 四谷ｱｰﾊﾟﾝｸﾗﾌﾞ H13/11/6(火)	第21回幹事会 四谷ｱｰﾊﾟﾝｸﾗﾌﾞ H14/11/13(水) ・副会長代行追記	第24回幹事会 神宮前区民会館 H15/11 /28(金) ・副会長代行追記 ・役員改選選挙新会長副会長選出 ・会長任期中途辞任	第28回幹事会 (株)ジャステック会議室 H16/11/26(金)	第32回幹事会 東京ウィメンズプラザ H17/11/29(火) ・役員選出 ・「春の講演会」について	第35回幹事会 東京ウィメンズプラザ H18/12/19 (火) ・「春の講演会」について	第38回幹事会 東京ウィメンズプラザ H19/11/26 (月) ・役員選出 ・「春の講演会」について
一紅会 新春講演会			第1回 新春講演会 H10/1/17(土) 尾辻紀子氏 銀座東武ﾎﾃﾙ ﾛｼﾞｪﾄﾞｰﾙ	第2回 新春講演会 H11/1/23(土) 井上幸彦氏 四谷ｱｰﾊﾟﾝｸﾗﾌﾞ	第3回 新春講演会 H12/1/15(土) 平野忠彦氏 一ツ橋 如水会館	第4回 新春講演会 H13/1/20(土) 島田紀夫氏 ｱﾙｶﾃﾞｨｱ市ヶ谷	第5回 新春講演会 H14/1/26(土) 丸山昭氏 ｱﾙｶﾃﾞｨｱ市ヶ谷	第6回 新春講演会 H15/1/18(土) 山本久氏 ｱﾙｶﾃﾞｨｱ市ヶ谷	第7回 新春講演会 H16/1/31(土) 中村和男氏 ｱﾙｶﾃﾞｨｱ市ヶ谷	第8回 新春講演会 H17/2/5(土) 渡辺房男氏 ｱﾙｶﾃﾞｨｱ市ヶ谷	第9回 春の講演会 H18/3/21(火・祝日) 林 義子氏 ｱﾙｶﾃﾞｨｱ市ヶ谷	第10回記念 春の講演会 H19/3/10(土) 渡辺利夫氏 ｱﾙｶﾃﾞｨｱ市ヶ谷	第11回 春の講演会 H19/3/8(土) 田沼靖一氏 ｱﾙｶﾃﾞｨｱ市ヶ谷
反省会			理事会 H10/1/17(土)	四谷ｱｰﾊﾟﾝｸﾗﾌﾞ H11/2/12(金)	四谷ｱｰﾊﾟﾝｸﾗﾌﾞ H12/1/27(木)	ｱﾙｶﾃﾞｨｱ市ヶ谷 H13/2/15(木)	銀座高松建設 夢工房 H14/2/19(火)	表参道 パルパコア H15/2/7(金)	第25回臨時幹事会 神宮前区民会館 ・新役員就任 ・会則改定追記 H16/2/6(金)	第29回幹事会 (株)ジャステック会議室 H17/3/10(木)			
東京同窓会 幹事会	H8/4/25(火) S28～33年卒 理事のみ	H9/4/25(月) 「一紅会」幹事全員 東京同窓会幹事	H10/4/22(水) 東京同窓会副会長に一紅会会長就任決 渡辺一紅会会長副会長に新任	H11/4/13(火) 東京會舘	H12/5/15(月) 東京會舘 五十嵐一紅会会長 副会長新任	H13/5/9(水) 東京會舘	H14/5/9(木) 東京會舘 五十嵐一紅会会長 副会長再任	H15/5/7(水) 東京會舘	H16/5/11(火) 東京會舘 飯田一紅会会長 副会長新任	H17/5/10(火) 東京會舘	H18/5/9(火) 東京會舘 飯田一紅会会長 副会長再任	H19/5/8(火) 東京會舘	H20/5/8(木) 東京會舘 飯田一紅会会長 副会長再任
一紅会 幹事会	第2回幹事会 東京會舘ｼｪﾛｯｼｰﾆ H8/5/29(水)	理事のみ 東京會舘ｼｪﾛｯｼｰﾆ H9/6/1(水) ＊「一紅会」会則検討	第6回幹事会 東京會舘ｼｪﾛｯｼｰﾆ H10/6/17(水)	第9回幹事会 四谷ｱｰﾊﾟﾝｸﾗﾌﾞ H11/7/10(火)	第12回幹事会 四谷ｱｰﾊﾟﾝｸﾗﾌﾞ H12/6/15(木)	第15回幹事会 四谷ｱｰﾊﾟﾝｸﾗﾌﾞ H13/6/20(水)	第18回幹事会 四谷ｱｰﾊﾟﾝｸﾗﾌﾞ H14/4/5(金) 一紅会会長再任 第19回幹事会 四谷ｱｰﾊﾟﾝｸﾗﾌﾞ H14/6/28(金)	第22回幹事会 四谷ｱｰﾊﾟﾝｸﾗﾌﾞ H15/6/27(金) 一紅会の存続か否か継続討論	第26回幹事会 神宮前区民会館 H16/6/23(金)	第30回幹事会 (株)ジャステック会議室 H17/6/22(水)	第33回幹事会 東京ウィメンズプラザ H18/6/27(火) 第9回講演会の反省 第10回講演会の企画	第36回幹事会 東京ウィメンズプラザ H19/7/3(火) 第10回講演会の反省 第11回講演会の企画	第39回幹事会 東京ウィメンズプラザ H20/6/27(金 第11回講演会の反省 第12回講演会の企画 今後の活動方針
東京同窓会	H8/7/3(水) 東京會舘	H9/7/2(月) 東京會舘	H10/7/8(水) 東京會舘	H11/7/10(土) 東京會舘	H12/7/14(金) 東京會舘	H13/7/13(金) 東京會舘	H14/7/12(金) 東京會舘	H15/7/11(金) 東京會舘	H16/7/9(金) 東京會舘	H17/7/8(金) 東京會舘	H18/7/8(土) 東京會舘	H19/7/21(土) 東京會舘	H20/7/26(土) 東京會舘
一紅会 幹事会	第3回幹事会 東京會舘ｼｪﾛｯｼｰﾆ	第5回幹事会 霞ヶ関東京會舘	第7回幹事会 銀座ﾛｼﾞｪﾄﾞｰﾙ	第11回幹事会 ﾊﾟﾚｽﾎﾃﾙ	第13回幹事会 ﾎﾃﾙﾌﾗﾛｼｵﾝ 青山	第16回幹事会 ｼｬｰｳｯﾄﾞ	第20回幹事会 ﾎﾃﾙｲﾝﾀｰｺﾝﾁﾈﾝﾀﾙ 東京ﾍﾞｲ	第23回幹事会 東商スカイルーム ＊次回幹事会にて一紅会存続か否かを決定する	第27回幹事会 新宿中村屋本店 5Fﾚﾐｻﾞ	第31回幹事会 ㈱内田洋行 潮見オフィス会議室	第34回幹事会 東京會舘富国ビル店 「パビヨン」 ・18年度活動報告及び会計報告 ・第10回「春の講演会」について ・43年卒から44年卒へ当番幹事引継	第37回幹事会 東京會舘富国ビル店 「パビヨン」 ・活動報告及び会計報告 ・「春の講演会」について ・当番幹事引継 ・会計交代承認／新：三田富貴子	
引継会	H8/9/25(水)	H9/7/16(水) ＊会則承認	H10/7/29(水)	H11/7/26(月)	H12/7/28(金)	H13/8/24(金)	H14/9/13(金)	H15/9/19(金)	H16/9/24(金)	H17/9/22(木)	H18/9/27(水)	H19/9／26 (水)	
新春講演会 ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ会合		新春講演会提案 ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ有志決定	ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄﾁｰﾑ 発足	ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ 会合	ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ 会合	ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ 会合	ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ会合	ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ会合	ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ会合	ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ会合	ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ会合	ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ会合	
特記事項	「一紅会」発足 H8/3/7 会長 渡辺圭子 副会長 五十嵐節子 会則ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ 平成7年東京同窓会より女性ﾈｯﾄﾜｰｸの会設立要請	「一紅会」会則10条施行 年度は、9/1～8/31	東京同窓会副会長に 「一紅会」会長就任	東京同窓会より 「一紅会」への謝辞	「一紅会」役員改選 会 長 五十嵐節子 副会長 井上若子 ＊会則検討	「一紅会」会則追記 第5条 ・会計1名理事会の総意で選出 ・任期はいずれも2年間とし再任を妨げない ・会計小松寿惠	「一紅会」会長再任 五十嵐節子 ・副会長未選出	「一紅会」副会長代行が必要になった時は、学年幹事がこれを ・会計改選 新会計 宇野由美子	・「一紅会」会長副会長改選 新会長 飯田冨美子 新副会長 水谷園江を選出 「一紅会」会則改訂追記 ・2月の臨時幹事会は新春講演会の反省会を兼ねて開催		「一紅会」会長、副会長、会計改選 全員再任		「一紅会」会長、副会長、会計改選 会長（再任） 飯田冨美子 会計 三田 新副会長 竹中みゆき 「一紅会」会則改訂

祝 甲府中学・甲府一高 東京同窓会

2008

45年卒一同

創立128周年　甲府中学・甲府一高東京同窓会

祝 二　金　会（45年卒同期生）

飯島康二	小宮山冬樹	前田ゆう司
飯島登美夫	長倉一仁	松木正基
伊藤孝司	早川一哉	森川康則
橋田稔	林和一	戸沢信人（玉緒歯科医院）

玉緒歯科医院　院長 戸沢信人
山梨県甲府市国玉町1040　Tel：055-232-8880

協賛者名簿（敬称略）

S30年卒 松野春樹　S40年卒 佐野允夫　S44年卒 京島博文
H15年卒 芦澤滋大　H17年卒 芦澤浩太

S45年卒協賛者名簿

相川正樹
飯島英二
飯沼温子
石原光博
井出正博
今村公樹
梅本実
小口弘毅
小野雄司
川崎昭志
小林周治
斎藤和子
塩崎千枝子
設楽久敬
清水幸子
高林和美
田中由貴子
丹澤孝
戸沢信人
中内和美
永関慶重
橋本志津代
林和一
堀端耕司
三沢正彦
水原妙子
村上真理子
森田ひとみ
山下昌彦
和田芳子

芦澤精一
飯島康二
石川達也
磯部直幸
伊藤孝司
今村睦
塩谷雅秀
長田均
梶原千秋
橘田稔
小宮山勝博
佐々木まち子
塩島一夫
篠原義明
新藤茂
滝田和彦
田沼靖一
露木和雄
内藤まゆみ
長倉一仁
中村光雄
早川篤二
原寛
前田ゆう司
三科典子
三谷哲也
望月敏
矢崎京子
山田誠一郎
渡邊東

雨宮俊彦
飯島登美夫
石川弘
市村一司
今井涼子
岩崎政彦
荻野寛二
小澤久美子
加藤和之
河野潤
小宮山冬樹
佐野雅昭
塩見勝彦
清水一彦
菅谷真理子
武川周一
田村俊夫
遠山克己
永井桂子
中島直人
西村恵子
早川一哉
星田美恵子
松木正基
水出みよ子
三井三枝子
百瀬良彦
柳沢利明
吉田敏彦

祝 甲府中学・甲府一高 東京同窓会

（東京三一会）

日本盲導犬協会
理事長 井上幸彦
東京本部 TOKYO Office
150-0046 東京都渋谷区神泉町21-33F
TEL03(5452-1266) FAX03(5452-1267)

医療法人社団 孝和会
能見台パートリア
理事長 柳澤和孝

株式会社 文
代表取締役社長 廣瀬彰義
福岡支店 TEL 092(473)0889 北九州支店 TEL 093(681)9138

てんぷらの老舗
木挽町 天國
株式会社 甲斐國
代表取締役 剣持甲斐太郎
新宿高島屋レストランパーク14階
TEL 03-5361-1875

東京芸術大学名誉教授
二期会幹事
平野忠彦
東京都目黒区目黒1-3-16 プレジデント目黒パイン903
TEL 03-5496-3731

藤沢脳神経外科病院
院長 数野隆人
Tel0466-26-0832

HARD-OFF
OFF HOUSE
株式会社 京葉マツヤデンキ
代表取締役 青柳守彦

高級レザー ウニア・スペイン製ムートン輸入元
ミンク マジック

原整形外科医院

院長　原　　寛（昭和43年卒）

〒400-0857　甲府市幸町6　15
TEL. 055－233－8832・FAX 055－232－9598
http://www.yahoo.co.jp/haraseikei/

レンタルは・・・

株式会社
ワイ・イー・エス
測量機・現場事務所のハウス＆備品

代表取締役　磯部直幸　昭和45年卒

山梨県中央市山之神流通団地3－3－1
電話　055－278－5100

株式会社ラッキー商会

会長　望月政男　（昭和34年卒）
社長　望月直樹　（平成6年卒）

本社／〒400-0864山梨県甲府市湯田2-10-12
TEL:055-237-7272(代) FAX:055-235-0952
東京オフィス／〒107-0052東京都港区赤坂7-2-17
TEL:03-3491-7708(代) FAX:03-3401-7734
http://www.j-lucy.co.jp E-mail:mochi@j-lucy.co.jp

不動産業のパイオニア

有限会社 甲斐地所

TEL 055-226-8411

古川内科胃腸科医院

院長　古川晴康
啓子
（旧姓　相川　昭和42年卒）

〒124-0024 東京都葛飾区新小岩4　7　21
TEL 03(3655)7017

株式会社 中嶋文夫+D・A設計事務所

代表取締役　中嶋文夫（昭和46年卒）

優れたソフトウェアを開発する「e職人」のプロ集団です

株式会社 コスモエナジー

代表取締役　軽石　泰孝　（昭和50年卒）

〒171-0022　東京都豊島区南池袋2－15－1　南池袋光ビル4F
TEL:03-3986-0048　FAX:03-3986-5794

http://www.cosmoenergy.co.jp/

飯田　冨美子

ECC環境管理センター

富士山と語り続けて… 富士観光グループ3ゴルフ場

富士レイクサイドカントリー倶楽部

昭和35年に開業と県下でも屈指の歴史を誇るコース。富士北麓・標高1,200mに位置する爽やかなリゾートコースで、河口湖・富士山に向かってティーショットを放つ豪快なレイアウトをお楽しみください。

TEL 0555-86-3111
http://www.fujilakeside-cc.jp/

富士桜カントリー倶楽部

男子プロトーナメントの最高峰「フジサンケイクラシック」の開催コース。パー71としては日本最長クラスの7,496ヤードを誇り、技量を試されるトーナメントコースです。

第36回［フジサンケイクラシック］(9/3～9/7)

TEL 0555-73-2211
http://www.fujizakura-cc.jp/

敷島カントリー倶楽部

昇仙峡エリア1,000mの高原に位置し、南に富士山、眼下に甲府盆地を望む南斜面のパノラマコース。夏は涼しく、冬は暖かく、オールシーズンで楽しめ、自然の地形を活かした飽きることのないレイアウトが自慢です。

TEL 055-277-6111
http://www.shikishima-cc.jp/

富士観光開発株式会社 山梨県南都留郡富士河口湖町船津3633－1
TEL 0555－72－1188（代） URL http://www.fuji-net.co.jp/

---

im 米国WTT-USA-Gummi社日本総代理

川野 昭雄
（昭和42年卒）
有限会社 インポート・マテリアル

イタリアンレストラン&バー **るびい**
武川周一（昭和45年卒）
〒400-0042 甲府市高畑2－8－12
TEL 055－222－6226
URL http://www2.odn.ne.jp/ruby

弁護士 **笠井 治**
（昭和４２年卒業）
東京リベルテ法律事務所
〒105-0001 東京都港区虎ノ門３丁目25番2号
ブリジストン虎ノ門ビル１階
TEL:03-5776-2211 FAX:03-5401-2261
e-mail o.kasai@tokyoliberte.com
URL http://www.tokyoliberte.com

レストラン **ブレーメン**
堀端耕司（昭和45年卒）
（株）ブレーメン
山梨県甲斐市大下条474-4
055-277-4951

はじまる だいまる
大丸商事株式会社
〒400-0031 甲府市丸の内7-12-1 TEL055-221-4147
DAIMARU本店 甲府市中央1-1-5 (055)232-6610
ディスカウントショップ 甲府市中央1-1-5 (055)228-4300
DAIMARU石和店 笛吹市石和町 (055)261-7772
DAIMARU電子店 甲斐市竜王1739 (055)276-5053
PARK LAND 甲府市明善2-1-16 (055)237-7241

廣瀬法律事務所
弁護士 廣瀬正司
〒[illegible] TEL[illegible] FAX[illegible]
E-mail[illegible]

桜を基調とした緑豊かな
旅の情緒をたっぷりと温めて…
常磐ホテル
〒400-0073 山梨県甲府市湯村2-5-21
電話 055 254 3111（代）
URL http://www.tokiwa-hotel.co.jp/

京王線／国領駅5分
●不動産売買・相続・相続登記 ●会社設立・役員変更・商号変更

司法書士
平井幸男事務所
〒182-0022 調布市国領町4-46-17 エクレール国領301
TEL. 0424-85-4330 FAX. 0424-85-6388
昭和41年

株式会社 **うちだ**
代表取締役 内田末雄
（昭和40年卒）
TEL.03-3951-8528
FAX.03-3951-8538

中込内科クリニック
中込健郎 （Ｓ４０年卒）
〒214-0038 川崎市多摩区生田7－2－13 SKビル2階
TEL：044(933)4522
FAX：044(933)4771

医療法人 博友会 **三科医院**
理事長 三科信昭・三科典子
（昭和45年卒）
〒406-0003 笛吹市春日居町桑戸698-1

TOLTEC
・Architectural design office・
梶原千秋
S45年卒
㈱トルテック甲府建築設計事務所
●甲府市朝気1-8-21（〒400-0862）TEL 055-235-8746 FAX 055-237-1018
E-mail：toltec.kofu@palette.plala.or.jp

あなたの、
いちばんメディア。

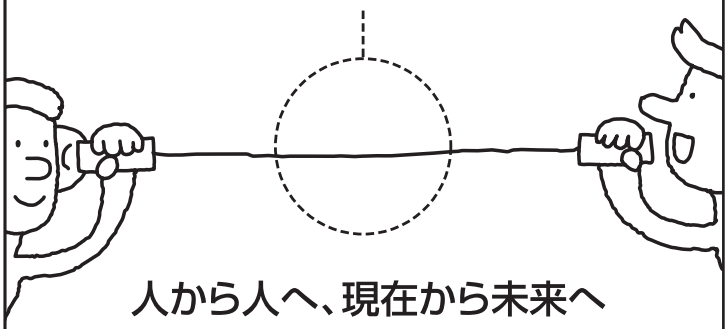
Sannichi
YBS
Group

山日YBSグループ

山梨日日新聞社　山梨放送　アドブレーン社　サンニチ印刷
YBS T&L　山梨ニューメディアセンター　タウン企画
山梨文化学園　デジタルデビジョン　ファーストビジョン
ウインテック コミュニケーションズ
新聞センター　山日リース　山梨文化会館

甲府市北口2-6-10(〒400-8505)　電話番号案内 055-231-3000

このあたりがエクシオです



人から人へ、現在から未来へ

EXEO
株式会社 協和エクシオ
代表取締役社長　石川　國雄
〒150-0002 渋谷区渋谷3丁目29番20号　TEL.03-5778-1111　http://www.exeo.co.jp

TANAKA ACCOUNTING OFFICE

●税務　●会計　●経営　●コンピュータ会計

田中会計事務所

税理士　田　中　茂　樹
（昭47年卒）
税理士　中　澤　由　次
税理士　前　田　安　正

事務所　〒400-0861
山梨県甲府市城東4丁目2番27号
電　話　(055)237-5566　　FAX　(055)237-8428

陽だまり薬局

＜45 年卒　佐々木まち子＞

おぐちこどもクリニック
世界中のこども達の幸せを願って

院長　小口弘毅（昭和 45 年卒）
〒229-0033　神奈川県相模原市鹿沼台 1-7-7
HP: http://oguchi-ped.cside.com
e-mail:ogu-ped@chive.ocn.ne.jp

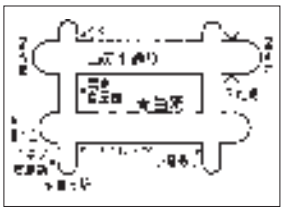
■脳神経外科 ■心療内科
もの忘れに関する健康相談 単純 MRI

ながせき頭痛クリニック
院長　永関　慶重

甲斐市(旧敷島町)中下条1844-3(サンロード敷島東店隣り)
TEL(055)267-2211（ズツウニイイ）

診療時間	月	火	水	木	金	土
AM 9:00〜12:30 / PM 3:00〜 6:00	○	○	○	×	○	○ 9:00〜14:00

休診日／木曜・日曜・祝日



税務会計全般についてサポート致します

komi

小宮山勝博税理士事務所 (昭和45年卒)

(お問合わせ先)〒352-0031 埼玉県新座市西堀 2-9-18
TEL:042-475-2926　　FAX:042-456-7851
E-mail:K-5380-016@jcom.home.ne.jp
URL:http://www.kaikei-home.com/komiyama-zeimu/

MARUJU

株式会社　丸十特殊土木

代表取締役　小　泉　純　一

千葉県八千代市八千代台東1－40－7

TEL　047－485－3451
FAX　047－485－3183

Jewelry Concierge
Presented by M.SHINOHARA & CO., LTD.

URL：http://jewelryconcierge.jp/

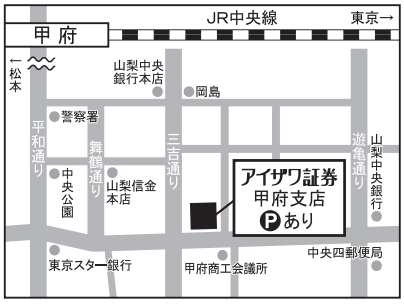
ジュエリーのリフォーム、修理からオーダーメイドジュエリー
婚約・結婚指輪の製作など、ジュエリー相談専門サイトです。

篠原貿易株式会社　代表取締役　篠原義明(昭和45年卒)
〒400-0858　山梨県甲府市相生 2－4－15　TEL(055)237-1000㈹

アイザワ証券　甲府支店　TEL(055)222-3111

甲府商工会議所を目印に、
お気軽にご来店下さい。
駐車場も完備しています。

営業時間／平日8:00-17:00
土曜 9:00-14:00（日祝日休み）
TEL(055)222-3111
甲府市中央1-20-9



アイザワ証券 甲府支店は、土曜日も営業しています。

オフィシャルページ www.aizawa.co.jp
商 号 等:藍澤證券株式会社　金融商品取引業者　関東財務局長(金商)第6号
加入協会:日本証券業協会、(社)日本証券投資顧問業協会
(本社)東京都中央区日本橋1-20-3

2008. 4

鰹節・のり・御結納品専門店

御婚礼用御引物　不祝儀用御引物

富士彦

☎(055)233-1236
FAX233-1260 甲府市中央4-10-10

SANO, ARCHITECT & ASSOCIATES

株式会社 佐野建築研究所

本社
〒151-0053 東京都渋谷区
佐々木2-27-15 高栄ビル
TEL 03(3370)0375
FAX 03(3375)5300

甲府事務所
〒400-0031 山梨県甲府市
丸の内2-12-15 甲和ビル
TEL 055(233)5068
FAX 055(233)5064

http://www.sano-archi-aa.co.jp/

辯護士

深　澤　隆　之

(昭和41年卒)

深沢綜合法律事務所
事務所　東京都豊島区東池袋3丁目1番1号
〒170-6022　サンシャイン60　22階12号
TEL　03（3983）2226㈹
FAX　03（3983）2359

祝

2008

甲府中学・甲府一高東京同窓会

東京38会

Traditional
&
New
食・卓・の・定・番

Sincerely
Maruju

本　店／甲府市丸の内2-28-6　☎055-226-3455
竜王店／甲斐市篠原1433 アマノPAX内　☎055-278-1180
敷島店／甲斐市大下条1061-1 アマノPAX内　☎055-230-9233

伊藤・遠藤・高野法律事務所

弁護士

遠　藤　　晃

(昭和40年卒)

〒101-0047 東京都千代田区内神田 2-11-6
内神田共同ビル3F

TEL(03)3254-0461　FAX(03)3254-0767

知的財産を中心業務とする
樹之下IP&LAWグループ
KINOSHITA IP&LAW GROUP

特許業務法人 樹之下知的財産事務所

KINOSHITA & ASSOCIATES

代表社員　所長　弁理士　木下　實三　(昭和36年卒)

パートナー社員 弁理士　石崎　剛

パートナー社員 弁護士・弁理士　小泉　妙子

〒167-0051 東京都杉並区荻窪 5-26-13　荻窪TMビル
TEL.03(3393)7800(代)　FAX.03(3393)7808
E-mail:general@kinoshita-pat.co.jp URL http://www.kinoshita-pat.co.jp

電機製品・家庭用品卸商社

株式会社　飯島

代表取締役　飯　島　茂　一

(S43年卒)

〒404-0042　山梨県甲州市塩山上於曽1133

電話 0553-33-2316　FAX 0553-32-0411

◇承ります！マンションに関するご相談◇

首都圏マンション管理士会会員・山梨県マンション管理士会会員

(45年卒)

マンション管理士　雨宮俊彦

Amamiya Toshihiko

[illegible]

山梨県甲府市宝1-23-21 〒400-0034 ㈱マンゲン

Email :mangen@mx2.ans.ne.jp K 090-5777-4875

TEL 055-224-4155　FAX 055-224-4566

日販

まごころこめて読者まで

おはなしマテリソ

日本出版販売株式会社

代表取締役社長　古 屋 文 明

〒101-8710　東京都千代田区神田駿河台4-3
PHONE:03-3233-1111(代)　FAX:03-3292-8521 URL　http://www.nippan.co.jp/

日本で最初にISO 9001認証取得
KITZ
株式会社キッツ

そこにバルブ、そこにキッツ。

普段はあまり見かけませんが、キッツのバルブは、暮らし・環境・エネルギー…
あらゆるシーンで、ゆたかな社会を支えています。

本 社　〒261-8577 千葉県千葉市美浜区中瀬1-10-1（幕張新都心）
TEL.043-299-0111
監査役　秋山哲郎（23年卒）

工　場／長坂・伊那
営業網／札幌・仙台・さいたま・千葉・横浜・茅野・新潟・富山・静岡・名古屋・大阪・岡山・広島・福岡
http://www.kitz.co.jp/

ロータリーラックH

確かな技術と価値ある提案で 問題解決

オカムラは、お客様の最適化システムをめざし独自の視点からサポートしています。
物流をトータルに捉え、さまざまな問題を解決するオカムラならではの確かな技術と価値ある提案…。
ひとつのソリューションがここにあります。

ライトローラー

オーバーヘッド・コンベヤ・システム

ゼノロールコンベヤ

モービルラック

よい品は結局おトクです
オカムラ
株式会社 岡村製作所

昭和37年卒　取締役 物流システム営業本部長　土屋 正樹　☎03-5501-3510　[オカムラホームページ] http://www.okamura.co.jp/

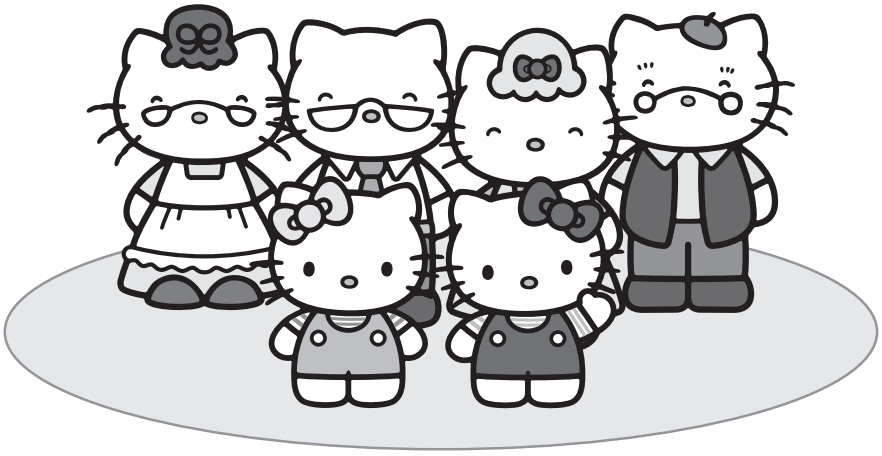
信 頼 施 工

爆破土木、構造物発破解体、温泉掘削・設備、鉄構製品

KACOH
株式会社カコー

代表取締役会長
伊 東　昭（昭和34年卒）

本社／東京都千代田区神田西福田町4-1　Tel.03-3255-7770　Fax.03-3255-7780
支店・営業所／東京、仙台、千葉、知多、名古屋、大阪、広島、福岡〔URL http://www.kacoh.co.jp/〕



夢と安心を
あなたに
お届けします!!

HelloKitty

「ハローキティ」は、フコク生命のイメージキャラクターです。
©1976.2008 SANRIO CO.,LTD. APPROVAL NO.S8010903

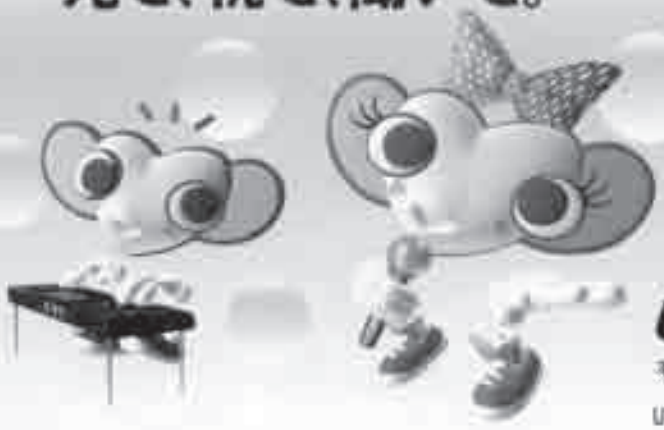
すてきな未来応援します
フコク生命

富国生命保険相互会社 〒100-0011 東京都千代田区内幸町2-2-2 TEL 03-3508-1101（大代表）
フコク生命のホームページ http://www.fukoku-life.co.jp

営広KT002.08.02.15

見て、視て、聞いて。

ニュースの星
ウッティな木曜日
UTY わいわいQGランド
おんがくのかぜ
UTY はなきんマーケット
真夜中のPマン



UTYテレビ山梨
本社 〒400-8570 甲府市湯田2-13-1
☎055-232-1111(代)
UTYホームページ http://www.uty.co.jp/

富士急ハイランド

● お問い合せ TEL 0555-23-2111

詳細はWebで! 富士急ハイランド 検索!

富士急ハイランドの最新情報やお得な割引など、耳寄りな情報をいち早くお届けする「富士急ハイランドメルマガ」を好評配信中!会員登録はホームページからどうぞ!

バーコード読取機能のあるケータイからフジQ携帯サイトへピッと簡単アクセス

家庭実用書の総合出版社

レディブティック　こどもブティック

月刊 カラオケ・オンガク カラオケONGAKU　月刊 歌謡曲　風景写真

FEMALE フィーメイル

エクステリア&ガーデン Exterior Garden　Cotton friend コットンフレンド　ビーズ friend フレンド　ネイル NAIL UP!

洋裁・ニット・手芸・料理・園芸・アニメ絵本...etc

株式会社 ブティック社
〒102-8620 東京都千代田区平河町1-8-3
TEL 03-3234-2001 FAX03-3234-2135
http://www.boutique-sha.co.jp

CEO 志村司郎(昭20年卒)　会長 志村昌也(昭35年卒)　社長 内藤　朗(昭46年卒)

はくばく
The Kokumotsu Company

「おかわり」と
いってもらえる、おいしさ。

穀物をよく知り、穀物と向き合い、「主食をもっとおいしく、より食べやすく」に
取り組んできた「はくばく」の「おいしさ味わう十六穀ごはん」です。

私たちはヴァンフォーレ甲府を
応援しています。

TEL.0556(20)8989 0120-088890

株式会社 はくばく
www.hakubaku.co.jp

UG都市建築

代表取締役
山下 昌彦
（昭和 45 年卒）

東京都港区赤坂 8 丁目 5 番 28 号
TEL 03-3796-0601　FAX 03-3796-0748
URL http://www.ugtk.jp

環境と健康に貢献する

「プラントエンジニアリング事業」と「アクアアメニティー事業」

株式会社 OTTO

代表取締役社長　阪本和也
（昭和 36 年卒）

プラントエンジニアリング事業
- 石炭処理、コークス製造関連プラント
- 焼却炉、リサイクル設備等廃棄物処理設備
- 燃焼および環境保全関連設備

アクアアメニティー事業
- 競技用プール
- 多目的温浴施設
- ウォーターパーク

本社:〒104-0045　東京都中央区築地 4-1-17 銀座大野ビル
TEL.03-3545-3661(代)　FAX.03-3545-5559
URL　http://www.otto.co.jp

肛門科 荒川外科肛門科医院

各種保険取り扱い
入院設備有り
日曜午前も診療

短期滞在手術
痔核手術
（硬化療法・根治手術）

大腸がん検診　大腸、肛門に関する健康相談・診察

診療時間
● 月・火・水・金・土
午前9:00～12:00
午後3:00～ 5:30
● 日・木
午前9:00～12:00
（午後休診）
●休診日：祝日のみ
急患：随時受付

院　長　松田好雄（昭和35年卒）
副院長　町田智幸・大高京子

☎(03) 3806-8213
ホームページ　http://www.ara-kou.com/

東京都荒川区荒川4-2-7
大腸ガン検診センター隣接
明治通り沿い
（レーベンハイム町屋隣り）

ホテルサードニクス東京にとって、
贅沢な空間とは、
快適のひとつに過ぎません。

東京駅近くという絶好の立地に位置するアッパークラスのビジネスホテル。
24m²以上もあるシングルルーム、快適な眠りをサポートする
サータ社のベッドなど"疲れを癒せる"新しい贅沢空間をお届けいたします。
ホテルサードニクス東京が奏でるシンフォニーをお楽しみください。

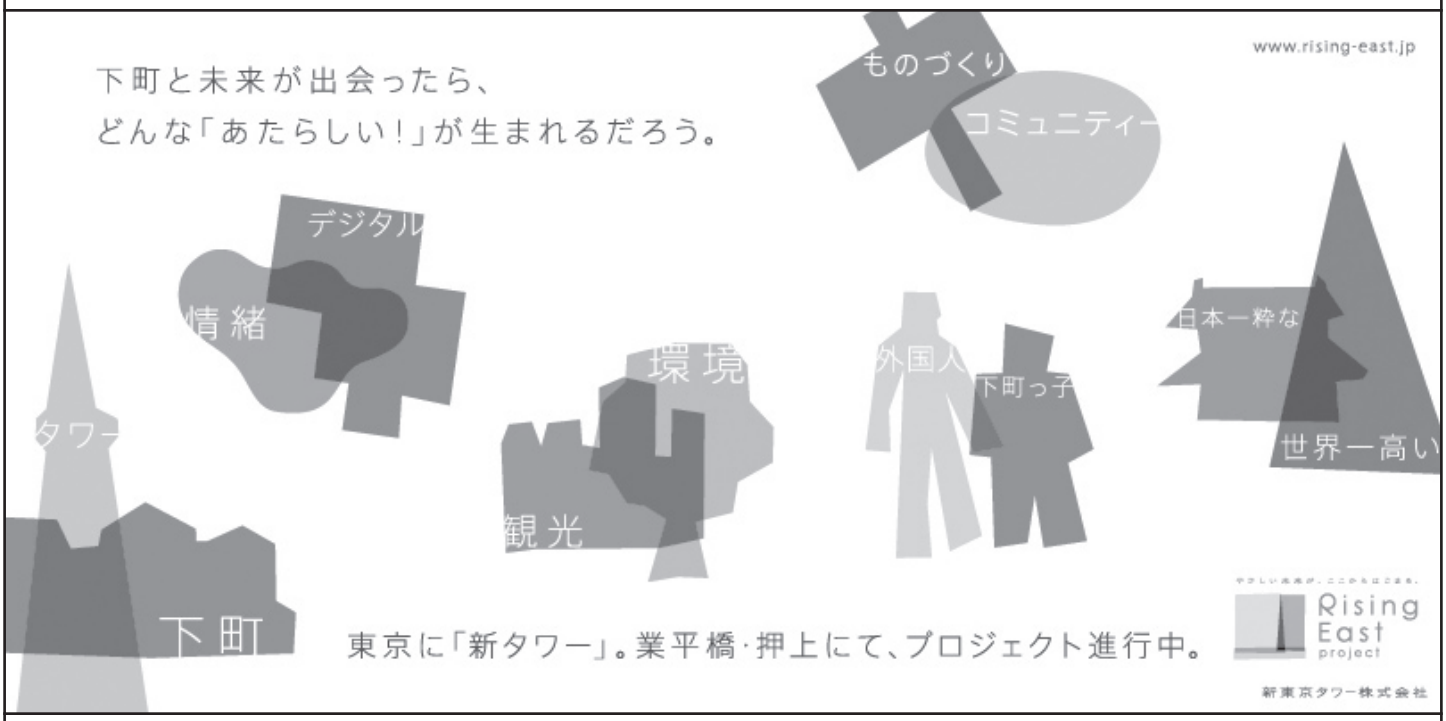
HOTEL SARDONYX TOKYO
ホテル サードニクス 東京
http://www.hotel-sardonyx.com

東京に二つのサードニクス。出張、観光に是非ご利用ください。

■ホテルサードニクス東京…… Tel：03-3553-7200
〒104-0032 東京都中央区八丁堀1-13-7　＜メトロ日比谷線八丁堀駅より徒歩1分＞

■ホテルサードニクス上野…… Tel：03-3833-7200
〒110-0005 東京都台東区上野6-6-7　＜JR御徒町駅より徒歩3分＞

CMIC シミック株式会社
Pharmaceutical Value Creator
〒141-0031 東京都品川区西五反田7-10-4
tel.03-5745-7070　fax.03-5745-7077　http://www.cmic.co.jp/



ご挨拶

日本テクノ・ラボ株式会社は平成元年の会社創立以来、プリンタの心臓部であるコントローラ開発に邁進してまいりまして、国内外の多くのプリンタメーカに採用されております。
また近年は、映像監視システム、情報セキュリティ分野においても画期的な製品開発を行い、多くの実績を残しております。
今後も独立系　開発会社として邁進いたしますので、よろしくご鞭撻のほどをお願い申しあげます。

平成 20 年 4 月 30 日
日本テクノ・ラボ株式会社
代表取締役　社長　　松村　泳成　（昭和 43 年卒）
取締役　開発部長　　松村　泳勲　（昭和 48 年卒）
取締役　ＣＳ部部長　　鈴木　孝男　（昭和 48 年卒）

【会社概要】
設立：1989 年 1 月 31 日
資本金：4 億 120 万円
事業内容：プリンタ・複写機コントローラ開発およびライセンス販売
　　映像セキュリティシステム開発・販売
　　情報セキュリティシステム開発・販売
証券コード：３８４９（NTL）
従業員数：85 名
拠点：本　　社　〒102-0093 東京都千代田区平河町１－２－１０
　　福岡事業所　〒812-0013 福岡市博多区博多駅東２－９－２５
HOME PAGE: http://www.ntl.co.jp

「ほんとうのごちそう」を東京會舘で。

TOKYO KAIKAN

お祝い・ご家族やお仲間とのお食事会に、ぜひご利用ください。
落ち着いた個室もご用意いたしております。

本館2階 ● レストラン プルニエ（フランス料理）

本館1階 ● シェ・ロッシニ（西洋料理）

地下1階 ● 八千代（日本料理）
東苑（中国料理）

皇居二重橋前
東京會舘

常務取締役　笠井莞爾（昭和33年卒）

千代田区丸の内3-2-1 TEL03-3215-2111 http://www.kaikan.co.jp

日経スペシャル

ガイアの夜明け

火曜　午後 11 時から

TV TOKYO

デジタル 7 ch

アナログ 12 ch

週刊 NEWS 新書

ニュース

土曜　午後 11 時 30 分から

カンブリア宮殿

月曜　午後 11 時から

信用と実績
皆さまの暮しに役立つ

千代田・ドリーミー・セレモニーグループ

ブライダル：セレス高田馬場・セレス相模原・セレス立川
セレモニーホール：千代田西日暮里・西新井・城北・小豆沢
成増・豊島園・赤羽駅南口・葛飾鎌倉
柴又・相模原・つきみ野・橋本駅前ホール
セレンスホール立川・立川メモリアルホール・田無芝久保
秋川ホール
ホテル：春日居（山梨県笛吹市）

（本社）　東京都荒川区西日暮里　2－39－4　千代田
代表　03－3802－4191
グループ代表　　大　石　和　雄

お客様のビジネスプロセスを支援する アウトソーシングサービス企業

セキュリティと品質のマネジメントシステムに取り組んでおります

A860884(01)

ASPECT NIHON ASPECT CORE INC.

日本アスペクトコア株式会社

〒104-0073　東京都千代田区九段北4丁目1番3号〔本社〕
TEL:03-5212-7651(代)　FAX:03-5212-7650　URL:http://www.aspectcore.co.jp

代表取締役社長
中島　直人（昭和45年卒）

ビジネスプロセスアウトソーシング

昨日より今日を、
今日より明日をもっとよくしてゆく。

弊社は「お客様のビジネスプロセスを支援するアウトソーシングサービス企業」として常に付加価値の高いサービスと確かな品質を提供する企業であり続けることを心がけています。

弊社のアウトソーシングサービスは、お客様の要請に合わせた「業務プロセスカスタマイズ」を特長とし、ISO9001の認証取得などによる品質管理、全従業員への徹底した倫理・コンプライアンス教育による情報セキュリティにも積極的に取り組んでおります。

継続的な品質改善によって、お客様の快適な業務環境を実現致します。

1 ドキュメントソリューション
●情報機器およびサービスのソリューション
●ドキュメント全般に関わるソリューション

2 情報処理アウトソーシングサービス
●情報システムの構築・運用・管理

3 事務技術系アウトソーシングサービス
●コールセンター・情報機器メンテナンスサービス

4 ライブラリーサービス
●大学図書館運営業務のアウトソーシングサービス

本当の豊かさをめざして

生活者の視点からつくられた商品が多ければ多いほど、
生活はますます豊かに楽しくなるはずです。
私たちは、そんなふうに、お客様の暮らしが豊かになる
ことを生き甲斐としています。

株式会社 オギノ

本部　甲府市徳行1-2-18　〒400-0047　TEL.055-227-7100（代表）

OGINO

NPC24Hの日本パーキングは、
全国規模で大型の駐車場を
経営する企業です。

日本パーキング株式会社　代表取締役社長 小林伸司（昭和42年卒業）

本社／〒102-0084 東京都千代田区二番町10番地5
TEL 03-3222-0015　FAX 03-3222-0029　URL http://npc-npc.co.jp
大阪営業部／TEL 06-6377-0015
名古屋営業所／TEL 052-201-0015
福岡営業所／TEL 092-716-3623

NPC 24H

当社のキャラクター【柳小面】

この能面は、金春の座附きであった大蔵彌右衛門虎明（慶長七年の時六歳）の書いた「わらべ草」「登髭」「金春小面と同じ作、同木にて打たる面也、今ノ金春小面ハ柳ナリ」とある小面のことと云われている。池田家伝来。

この能面を、演者で製品の提供者である（株）ジャステックと鑑賞者で製品の使用者であるお客様とを結ぶキャラクターとして採用しました。

経　営　理　念

マンパワーリースを排除したソフトウェア開発及び販売を専業とし、関連業務の多角化でなく開発分野の総合化と流通化を図り、情報社会に貢献する。

ソフトウェア市場の確立のために、顧客の啓蒙と開拓に先導的役割を果たす。

外に向かって、地球と人類に貢献する文化活動、内に向かって、技術者の意識改革を前提として、豊かで幸せな人生を追求する。

一分野一社を原則とし、顧客の信用と安全を図る。

社員持株制度を採用し、経営への参加を認める。

JASTEC 株式会社 ジャステック

代表取締役社長　神山　茂（昭和30年卒）

〒108-0074　東京都港区高輪3-5-23　TEL. 03（3446）0295（代表）
ホームページアドレス　http://www.jastec.co.jp/